福岡市埋蔵文化財年報
VOL.18

— 平成 15（2003）年度版 —

2005

福岡市教育委員会

序

福岡市では、文化財保護法の趣旨に基づき、埋蔵文化財の適切な保存と活用を図ることを目的として、公共及び民間の各種開発事業の事前審査、記録保存のための緊急調査、重要遺跡確認調査等を実施しております。

本書は、平成15年度における埋蔵文化財保護行政の概要を報告するものです。ここ数年来の不況下で、開発事業に起因する事前審査及び緊急調査件数は相対的に減少する傾向がみられましたが、平成15年度は民間の専用住宅、共同住宅建設等を中心に一転して増加に転じました。これは民間での景気の回復傾向を示しているとともに、埋蔵文化財の周知化が進み、開発関係各位の文化財保護に対する理解が深められつつある状況を示していると思われます。なお、公共事業に伴う審査は横ばいの状況でした。

本書が文化財保護のより一層の理解の一助となり、また学術資料として活用いただければ幸いです。

平成17年3月31日

福岡市教育委員会
教育長　植木とみ子

例言

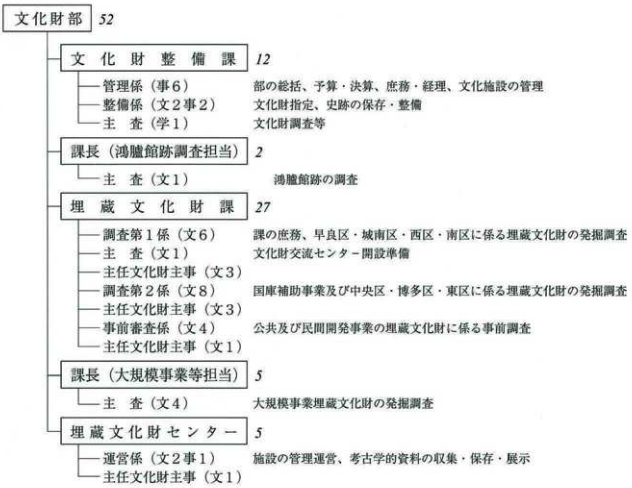
・本書は、埋蔵文化財課が平成15年度に実施した各種開発事業に伴う事前審査と発掘調査の概要及び本報告、ならびに新指定文化財の概要について収録したものである。
・本書に記載ある報告のうち、調査番号0317、0319、0338、0347、0354、0358の調査は、この年報をもって、本報告とする。その他については別途、本報告書が刊行される予定または、既刊であり、刊行年度については各報告の文末に記載している。
・Ⅳの各調査の概要及び調査報告は各調査担当者が分担執筆した。
・本書は濱石哲也が編集した。

表紙写真：金武城田遺跡第2次調査（調査番号0329）現地説明会と出土鞴鋳

目次

頁
Ⅰ　平成15年度文化財部の組織と分掌事務　2
Ⅱ　開発事前審査　3
Ⅲ　発掘調査　12
Ⅳ　平成15年度発掘調査概要および報告　17
Ⅴ　平成15年度刊行報告書一覧　114
Ⅵ　平成15年度新指定文化財　116
付　福岡市内指定史跡一覧　119

Ⅰ　平成15年度文化財部の組織と分掌事務



埋蔵文化財課の職員構成（職員はすべて文化財専門職）

◇埋蔵文化財課長	山崎純男
調査第1係長	力武卓治
主任文化財主事	松村道博　杉山富雄　吉留秀敏
係員（文化財主事）	加藤良彦　池田祐司　蔵冨士寛　阿部泰之　赤坂　亨
調査第2係長	田中壽夫
主任文化財主事	横山邦継　山崎龍雄　佐藤一郎
係員（文化財主事）	吉武　学　荒牧宏行　長家　伸　中村啓太郎
	大塚紀宜　星野恵美　本田浩二郎　松浦一之介
事前審査係長	池崎譲二
主任文化財主事	米倉秀紀
係員（文化財主事）	久住猛雄　田上勇一郎　井上繭子
◇課長（大規模事業等担当）	二宮忠司
主　査	濱石哲也
係員（文化財主事）	菅波正人　屋山　洋　上角智希

Ⅱ 開発事前審査

土木工事等の各種開発事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについては、福岡市文化財分布地図を基本資料とし、これまでの発掘調査及び試掘調査等の成果を参考にしながら、書類審査・現地踏査・試掘調査等を実施し、開発事業計画地における埋蔵文化財の有無を確認した上で、保存に係わる協議等を行っている。

公共事業については、関係機関・部局に次年度予定の事業計画の照会を行い、市域内で実施予定の公共事業計画を全般的に把握し、埋蔵文化財の保存上問題になると判断される事業についてはその取り扱いについて協議を求めている。

民間の開発事業については、都市計画法に基づく1,000㎡以上の開発事業、建築基準法に基づく建築事業等を対象として事前協議を求めている。また、開発業者、不動産取引関係者、一般市民等の文化財分布地図の閲覧や埋蔵文化財に係わる計画策定段階での照会にも窓口で応じ、埋蔵文化財の保存上の措置について必要な指示を行っている。

事前審査手続きの一部改訂

平成15年度、事前審査の手続きを以下の二点で改めた。

公共事業ではこれまでの事業照会の回答をもって申請とみなしていたがこれを改め、事業を行う前に新たに事前審査願を提出してもらい、これを申請として受付することとした。これは事業照会で回答のあった事業が、場合によっては数年後実施される場合もあり、事務的な手続き等に支障をきたしていたのを是正するためである。事業照会そのものは今後も継続する。なお、事業照会は民間事業の窓口照会に近いものであるが、一件一件について審査を行いその結果を事業者側に通知している。したがって、これまでの統計で審査件数として取り扱ってきたが、15年度からはこれに新規申請を加えた件数を公共の審査件数とする。

また、これまで民間事業者等から埋蔵文化財包蔵地の電話による問い合わせが多く、かつ町名地番等での照会で正確さを欠くところもあったので、15年度からファックスでの問いあわせに応じることとした。事業地を地図、地番で示したファックスでの問いあわせに、ファックスで回答することとした。基本的には包蔵地内か外かの回答であり、包蔵地内で具体的な事業計画がある場合などは窓口で改めて対応することになる。

平成15年度の概要

開発事業等に伴う事前審査件数は、公共事業806件(うち事業照会671件)、民間事業1,204件の計2,010件であった(表1)。平成12年度をピークにここ2年減少傾向であったが、15年度は一転して増加に転じた。審査件数で見ると公共が昨年度と比較して微増なのに対し、民間は3割増で事前審査開始以来最高の件数となった。

公民合わせた1,339件の申請内容をみると、事業地はここ数年の傾向として都心部の博多区及び西部地区に偏る傾向がある。具体的には、博多区の355件(26.5%)が最も多く、早良区の240件(17.9%)、西区の238件

表1　平成6～15年度事前審査件数推移

		H 6	H 7	H 8	H 9	H 10	H 11	H 12	H 13	H 14	H 15
公共	事業照会審査件数	478	560	561	566	674	872	1,107	1,084	783	671
	申請件数										135
	審査件数計	478	560	561	566	674	872	1,107	1,084	783	806
民間	窓口照会件数						2,832	3,597	4,540	4,662	4,292
	FAX照会件数										524
	照会件数計						2,832	3,597	4,540	4,662	4,816
	申請（審査）件数	640	739	899	689	636	1,001	1,041	969	915	1,204
公・民審査件数計		1,118	1,299	1,460	1,255	1,310	1,873	2,148	2,053	1,698	2,010

(17.8%)、南区196件(14.6%)が続く。民間事業に限っても区別の傾向はほとんど同じであるが、申請件数は博多区が14年度より93件、また西区が67件も増加しており、中央区をのぞいた各区でも25～43件の増加となっている。事業別では公共がガス・電気・水道等が40件と約30%を占め、学校23件、道路17件と続き、他は10件未満である。民間では個人住宅が508件の約42%、共同住宅が333件の約27%と住宅建築で全体の70%を占める。その次の店舗は66件で5%にとどまる。公民あわせここ数年多くなっているが不動産取引等、直接開発に伴わない申請で、15年度は公共22件、民間84件があがり、全体の約8%を占める。なお申請地の内訳をみると、約26%にあたる361件は埋蔵文化財包蔵地外(隣接地含む)である。

試掘調査は公共52件、民間336件のあわせて388件(内本年度申請分341件)について実施した(表3)。ここでも包蔵地外が約20%、75件を占めたが、試掘の結果12件に遺跡が認められ、新たに名子遺跡、下月隈鳥越古墳を登録し、他は既存遺跡の拡張を行った。

書類審査及び試掘調査等の結果、開発により保存上問題があり、本格的な調査が必要と判断されたのは52件である。その他については慎重工事、工事立会で対処した。なお、協議とは遺跡ありで開発計画が未定なものをさす。

また、民間業者等による窓口における埋蔵文化財の有無に係わる照会等は4,292件、ファックスでの照会は524件であった(民間照会あわせて4,816件)。窓口における照会が前年度比92%となったのは、ファクス照会の成果であろうか。ちなみに照会を区別の割合(不明80件を除く)でみると多い順に博多区21.3%、南区16.5%、中央区16.0%、東区14.0%、早良区12.6%、西区10.8%、城南区8.2%となり、博多区以外は必ずしも申請件数とつながってはいない。

埋蔵文化財の周知化がいっそう進み、窓口照会件数は増加する傾向をみせている。

表2　平成15年度事前審査内訳

区名	事業種別	審査種別(書類審査・現地踏査・試掘調査)でみた判断指示の結果																		照会(註)
		開発同意			慎重工事			工事立会			発掘調査			協議			審査継続	取り下げ	審査件数		
		書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘	書類	踏査	試掘			公民別計	区計	
東	公共	3	0	2	3	0	2	1	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	13	145	113
	民間	42	1	6	51	0	2	6	0	9	2	0	5	0	0	3	5	0	132		665
博多	公共	0	0	0	15	0	4	4	0	1	0	0	3	0	0	1	2	0	30	355	105
	民間	20	0	10	152	0	45	22	0	20	5	0	16	1	0	14	20	0	325		1029
中央	公共	5	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	0	8	36	69
	民間	3	0	1	15	0	5	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	0	28		758
南	公共	0	0	1	9	1	1	1	0	0	0	0	1	3	0	1	3	0	21	196	80
	民間	15	0	9	100	0	33	4	0	3	0	0	2	0	0	3	5	1	175		783
城南	公共	0	0	2	10	1	1	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	16	129	73
	民間	7	1	8	59	1	26	3	0	2	1	0	2	0	0	0	3	0	113		390
早良	公共	2	0	0	20	0	6	1	0	0	1	0	1	0	0	0	4	0	35	240	93
	民間	21	1	7	113	0	29	8	0	6	1	0	2	1	0	6	10	0	205		599
西	公共	1	0	0	3	0	2	3	0	0	0	0	2	0	0	1	0	0	12	238	135
	民間	41	1	8	131	0	22	6	0	1	2	0	3	0	0	3	7	1	226		512
小計	公共	11	0	5	61	2	16	11	0	1	3	0	8	4	0	4	9	0	135	1339	671
	民間	149	4	49	621	1	162	50	0	41	11	0	30	3	0	29	52	2	1204		4816
合計		160	4	54	682	3	178	61	0	42	14	0	38	7	0	33	61	2			

(註)照会の公共は事業照会件数、小計には複数区にまたがる3件を含む。民間は窓口およびFAX照会の合計、小計には不明80件を含む。

表3　試掘調査一覧

凡例：受付番号は年度（平成）－申請者種別（1 公共　2 民間）－申請者種別ごとの受付通し番号。開発内容のその他は不動産取引、土地調査など。有無は試掘で遺構、遺物が確認されたもの○、なし×。指示の要協議は遺跡があったものの開発計画が未定のもの。発掘調査の数字は平成 15 年度に調査に入った遺跡の調査番号。

東区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘書類	発掘調査
07-1-050	馬出１丁目	箱崎遺跡	福岡市	土地区画整理	2003. 4.23	○	要調査	15-019	0318
14-1-116	香椎台１丁目	香椎宮遺跡	福岡市	公民館等改築	2003. 6.25	×	慎重工事	15-108	
15-1-012	多々良１丁目	願孝寺隣接	福岡市	体育館改築	2003. 6. 4	×	開発同意	15-070	
15-1-013	香住ヶ丘１丁目	香住ヶ丘遺跡群近接	福岡市	学校	2003. 6. 4	×	開発同意		
15-1-045	香椎駅前１丁目	元寇防塁	福岡市	土地区画整理	2004. 2. 4	×	慎重工事	15-427	
15-1-091	香椎駅前１丁目	元寇防塁	福岡市	土地区画整理	2004. 2. 4	×	慎重工事	15-427	
14-2-0441	箱崎３丁目	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	2003. 8.12	○	要調査	15-200	0343
15-2-0015	和白丘２丁目	塚原遺跡群近隣	一般業者	店舗	2003. 6.21	×	開発同意	15-099	
15-2-0034	三苫５丁目	包蔵地外	個人	保育園建設	2003. 9. 4	×	開発同意	15-198	
15-2-0041	箱崎１丁目	箱崎遺跡	個人	共同住宅	2003.11.11	○	要調査	15-277	0356
15-2-0044	蒲田３丁目	蒲田部木原遺跡群	個人	事務所・倉庫	2003. 5. 1	○	要調査	15-094	0328
15-2-0046	箱崎３丁目	箱崎遺跡	個人	共同住宅	2003. 4.22	×	工事立会	15-032	
15-2-0113	蒲田３丁目	蒲田部木原遺跡群	一般業者	事務所・倉庫	2003. 6. 4	○	要調査	15-095	0328
15-2-0117	名島１丁目	名島城跡	個人	個人住宅	2003. 5.21	○	工事立会	15-076	
15-2-0147	馬出５丁目	箱崎遺跡	一般業者	共同住宅	2003. 6.10	○	工事立会	15-079	
15-2-0192	名島１丁目	名島城跡	個人	共同住宅	2003. 6.17	○	工事立会	15-096	
15-2-0285	香椎３丁目	香椎宮遺跡	個人	個人住宅	2003. 7.23	○	要協議	15-137	
15-2-0319	蒲田３丁目	蒲田水ヶ元遺跡群隣接	一般業者	事務所・倉庫	2003. 8. 6	○	工事立会	15-188	
15-2-0362	箱崎３丁目	箱崎遺跡	一般業者	斎場	2003. 7.10	○	要調査	15-133	0351
15-2-0639	和白３丁目	梅ヶ崎遺跡隣接	個人	共同住宅	2003.11.27	×	開発同意	15-297	
15-2-0669	下原３丁目	包蔵地外	個人	宅地造成	2003.11.20	×	開発同意	15-287	
15-2-0687	千早２丁目	名島城跡	個人	個人住宅	2003.10.31	×	慎重工事	15-261	
15-2-0752	名島３丁目	名島城跡	個人	共同住宅	2003.12. 1	×	慎重工事	15-301	
15-2-0777	名子３丁目	包蔵地外→名子遺跡	一般業者	その他	2004. 1. 9	○	要協議	15-320・337	
15-2-0789	名子３丁目	土井遺跡群隣接	個人	店舗	2003.12.24	○	工事立会	15-329	
15-2-0826	名島３丁目	名島城跡	一般業者	宅地造成	2003.12.18	×	慎重工事	15-334・335	
15-2-0858	蒲田２丁目	蒲田部木原遺跡群	一般業者	事務所	2004. 3.11	○	工事立会	15-405	
15-2-0864	馬出６丁目	吉塚木町遺跡群	一般業者	共同住宅	2004. 1.26	○	要協議	15-360	
15-2-0917	香椎３丁目	香椎B遺跡群	個人	個人住宅	2004. 1.27	○	要調査	15-361	
15-2-0973	名子３丁目	名子遺跡隣接	個人	共同住宅	2004. 2.26	×	開発同意	15-388	
15-2-1046	和白丘１丁目	下和白後口遺跡隣接	個人	個人住宅	2004. 3.18	×	慎重工事	15-412	
15-2-1093	蒲田３丁目	蒲田部木原遺跡群	一般業者	事務所・倉庫	2004. 3.11	○	工事立会	15-405	

博多区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘書類	発掘調査
07-1-050	吉塚本町	箱崎遺跡	福岡市	土地区画整理	2004. 1.15	○	要調査	15-426	0318
12-1-658	麦野２丁目	麦野A遺跡群	福岡市	道路改良	2004. 3. 3	○	慎重工事		
14-1-682	月隈１丁目	天神森遺跡群近接	福岡県	警察署	2003. 6.18	○	要調査	15-114	
15-1-007	那珂４丁目外	那珂君休遺跡群	福岡県	河川	2003. 6.10	×	工事立会	15-088	
15-1-021	竹下５丁目	那珂遺跡群	福岡市	消防団車庫移転	2003. 6.25	○	要調査	15-098	
15-1-022	下臼井町	博多遺跡群	福岡市	学校	2003. 8. 1	×	慎重工事	15-143	
15-1-025	上川端町	博多遺跡群	福岡市	学校	2003. 7. 9	×	慎重工事	15-113	
15-1-034	新和町２丁目	雑餉隈遺跡群	ＪＲ九州	共同住宅	2003. 8.12	○	要調査	15-160	0349
15-1-050	堅粕１丁目	堅粕遺跡群	福岡県	校地整備	2003.10.22	×	慎重工事	15-256	
15-1-074	堅粕２丁目	堅粕遺跡群	一般業者	その他	2003.11.19	○	要協議	15-294	
15-1-089	山王１丁目	山王遺跡	福岡市	下水道	2004. 1.21	○	要調査	15-353・387	
15-1-093	新和町２丁目	雑餉隈遺跡群	福岡市	その他	2004. 1.14	×	慎重工事	15-356	
14-2-0534	博多駅南４丁目	比恵遺跡群	個人	診療所兼住宅	2003.10.14	○	要調査	15-270	0355
14-2-0711	御供所町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2003. 4.14	○	慎重工事	15-013	
14-2-0796	那珂３丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2003. 4. 1	×	慎重工事	15-007	
14-2-0864	板付２丁目	板付遺跡	個人	個人住宅	2003. 4.17	×	慎重工事	15-022	
14-2-0880	麦野１丁目	麦野A遺跡群	一般業者	保育園建設	2003. 4. 3	○	要調査	15-016	
14-2-0881	東光寺町１丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2003. 4. 2	○	工事立会	15-006	0316
14-2-0888	麦野４丁目	麦野B遺跡群	個人	共同住宅	2003. 4. 3	×	慎重工事	15-008	
14-2-0894	東光寺町１丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2003. 4. 2	○	慎重工事	15-005	
14-2-0902	綱場町	博多遺跡群	個人	店舗	2003. 4.23	○	慎重工事	15-024	

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘書類	発掘調査
14-2-0909	堅粕４丁目	吉塚遺跡群	個人	共同住宅	2003. 9.25	○	工事立会	15-237	
15-2-0008	博多駅南６丁目	比恵遺跡群	個人	その他	2003. 5. 6	○	要協議	15-048	
15-2-0027	須崎町	博多遺跡群	一般業者	店舗ビル	2003. 5.30	×	慎重工事	15-068	
15-2-0051	金隈１丁目	金隈遺跡隣接	個人	共同住宅	2003. 6. 3	×	慎重工事	15-071	
15-2-0055	東那珂１丁目	東那珂遺跡	一般業者	共同住宅	2003. 5. 6	○	要調査	15-040	0331
15-2-0061	那珂２丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2003. 4.23	○	工事立会	15-020	
15-2-0081	金隈３丁目	持田ヶ浦遺跡近隣	個人	共同住宅	2003. 5.13	×	開発同意	15-045	
15-2-0082	那珂１丁目	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2003. 6. 5	○	要調査	15-062	0323
15-2-0089	博多駅南５丁目	比恵遺跡群	個人	共同住宅	2003. 5.13	○	要調査	15-046	0317
15-2-0094	諸岡６丁目	笹原遺跡群	個人	個人住宅	2003. 5.22	×	慎重工事	15-053	
15-2-0095	竹下３丁目	那珂遺跡群	一般業者	工場	2003. 6.12	○	慎重工事	15-085	
15-2-0097	博多駅南６丁目	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2003.10. 2	○	要調査	15-223	0353
15-2-0115	銀天町２丁目	麦野Ｃ遺跡群	一般業者	診療所増築	2003. 5.27	×	慎重工事	15-057	
15-2-0121	竹下５丁目	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2003. 6. 4	○	慎重工事	15-072	
15-2-0124	堅粕５丁目	吉塚遺跡群	個人	共同住宅	2003. 6. 3	○	工事立会	15-073	
15-2-0125	堅粕５丁目	吉塚遺跡群	個人	共同住宅	2003. 6. 3	○	工事立会	15-073	
15-2-0136	吉塚本町	吉塚本町遺跡群	個人	共同住宅	2003. 6.17	×	慎重工事	15-086	
15-2-0143	麦野５丁目	麦野Ａ遺跡群	個人	個人住宅	2003. 7.16	○	工事立会	15-127	
15-2-0144	奈良屋町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2003. 7. 3	○	慎重工事	15-117	
15-2-0152	三筑１丁目	三筑遺跡	一般業者	倉庫	2003. 6.12	○	慎重工事	15-083	
15-2-0156	新和町２丁目	袖崎隈遺跡群	一般業者	共同住宅	2003. 5.27	×	慎重工事	15-058	
15-2-0163	博多駅南６丁目	比恵遺跡群	一般業者	その他	2003. 6.20	○	要協議	15-090	
15-2-0170	那珂５丁目	諸岡Ａ遺跡群	個人	その他	2003. 6.26	×	慎重工事	15-101	
15-2-0173	竹下５丁目	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2003. 7.10	○	要調査	15-154	0335
15-2-0175	綱場町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2003. 7. 2	×	慎重工事	15-118	
15-2-0182	竹下２丁目	比恵遺跡群	一般業者	その他	2003. 6.20	○	要協議	15-187	
15-2-0196	諸岡３丁目	諸岡Ａ遺跡群	個人	共同住宅	2003. 7. 1	×	慎重工事	15-112	
15-2-0199	麦野４丁目	麦野Ｂ遺跡群	個人	自宅兼共同住宅	2003. 6.23	○	要協議	15-105	
15-2-0201	空港前２丁目	下臼井遺跡	個人	共同住宅	2003. 7. 1	×	慎重工事	15-122	
15-2-0212	榎田１丁目	榎田遺跡群隣接	一般業者	通信所	2003. 7.16	×	開発同意	15-126	
15-2-0219	寿町３丁目	南八幡遺跡群	一般業者	保育園増築	2003. 7.17	×	工事立会	15-132	
15-2-0227	下川端	博多遺跡群	個人	共同住宅	2003. 7. 3	○	継続	15-119	
15-2-0235	諸岡３丁目	五十川遺跡群隣接	個人	共同住宅	2003. 7.31	×	慎重工事	15-155	
15-2-0251	古門戸町	博多遺跡群	個人	共同住宅	2003. 6.25	○	慎重工事	15-102	
15-2-0252	南八幡町２丁目	南八幡遺跡群隣接	一般業者	共同住宅	2003. 7.29	×	開発同意	15-146	
15-2-0262	古門戸町	博多遺跡群	個人	個人住宅	2003. 7. 9	○	慎重工事	15-268	
15-2-0274	麦野２丁目	高畑遺跡	一般業者	共同住宅	2003. 7. 7	○	要調査	15-124	
15-2-0281	麦野３丁目	麦野Ａ遺跡群	個人	老人ホーム	2003. 7. 1	×	慎重工事	15-106	
15-2-0282	上牟田１丁目	東比恵３丁目遺跡隣接	一般業者	その他	2003. 8. 5	×	開発同意	15-165	
15-2-0284	麦野４丁目	麦野Ａ・Ｂ遺跡群隣接	個人	共同住宅	2003. 9. 9	×	慎重工事	15-201	
15-2-0292	那珂町１丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2003. 7.15	○	要調査	15-175	0337
15-2-0297	東那珂１丁目	包蔵地外	個人	事務所・倉庫	2003. 8.26	×	開発同意	15-180	
15-2-0301	寿町３丁目	南八幡遺跡群	一般業者	共同住宅	2003. 7.24	○	要調査	15-136・211	
15-2-0305	東光寺町２丁目	那珂遺跡群	個人	老人ホーム	2003. 7.23	○	要調査	15-147	
15-2-0342	諸岡４丁目	諸岡Ａ遺跡群	個人	共同住宅	2003.10.28	○	慎重工事	15-259	
15-2-0378	麦野１丁目	麦野Ａ遺跡群	個人	共同住宅	2003. 8.13	○	工事立会	15-190	
15-2-0380	博多駅南４丁目	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2003. 8.13	○	要調査	15-222	
15-2-0381	寿町２丁目	南八幡遺跡群	個人	共同住宅	2003. 8.11	○	工事立会	15-179	
15-2-0388	那珂５丁目	諸岡Ｂ遺跡群	一般業者	その他	2003. 8.20	×	慎重工事	15-178	
15-2-0398	東那珂３丁目	東那珂遺跡	一般業者	自社ビル	2003. 8.28	○	工事立会	15-199	
15-2-0404	光丘町３丁目	中ノ原遺跡	個人	個人住宅	2003. 8.19	○	要調査	15-191	
15-2-0411	麦野５丁目	麦野Ａ遺跡群	一般業者	戸建分譲住宅	2003. 9.25	○	要調査	15-217	0367
15-2-0434	麦野３丁目	麦野Ａ遺跡群	個人	個人住宅	2003. 9. 9	○	工事立会	15-214	
15-2-0438	東光寺町１丁目	那珂遺跡群	個人	事務所・倉庫	2003. 8.11	○	工事立会	15-164	
15-2-0453	相生町１丁目	南八幡遺跡群	一般業者	店舗	2003. 9.18	×	慎重工事	15-224	
15-2-0500	冷泉町	博多遺跡群	個人	個人住宅	2003. 9.11	○	工事立会	15-206	
15-2-0505	金隈１丁目	立花寺遺跡群	個人	その他	2003. 9. 9	○	要協議	15-202	
15-2-0509	三筑２丁目	麦野Ｂ遺跡群隣接	一般業者	授産施設	2003. 9. 2	×	慎重工事	15-192	
15-2-0514	諸岡２丁目	諸岡Ｂ遺跡群	一般業者	共同住宅	2003. 9.24	○	慎重工事	15-221	
15-2-0516	板付７丁目	三筑遺跡	個人	個人住宅	2003. 9.12	×	慎重工事	15-203	
15-2-0549	諸岡３丁目	諸岡Ａ遺跡群	個人	共同住宅	2003. 9.18	×	慎重工事	15-208	
15-2-0550	下川端町	博多遺跡群	個人	共同住宅	2003. 9.14	×	慎重工事	15-238	
15-2-0553	麦野２丁目	麦野Ａ遺跡群	個人	個人住宅	2003.10. 2	○	慎重工事	15-215	

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘書類	発掘調査
15-2-0571	店屋町	博多遺跡群	個人	共同住宅	2003.10.9	○	慎重工事	15-231	
15-2-0619	光丘1丁目	雑餉隈遺跡群隣接	個人	共同住宅	2003.12.16	×	開発同意	15-321	
15-2-0643	月隈3丁目	天神森遺跡群	個人	店舗	2003.11.20	○	要協議	15-289	
15-2-0649	博多駅南2丁目	比恵遺跡群	個人	事務所	2003.10.28	×	慎重工事	15-272	
15-2-0663	金の隈3丁目	持田ヶ浦遺跡	一般業者	社員寮	2003.12.1	×	慎重工事	15-421	
15-2-0665	諸岡3丁目	諸岡A遺跡群隣接	個人	共同住宅	2003.11.20	○	慎重工事	15-286	
15-2-0674	綱場町	博多遺跡群	個人	事務所	2003.11.6	○	工事立会	15-273	
15-2-0675	竹下5丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2003.11.6	○	要調査	15-271	0361
15-2-0677	那珂6丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2003.12.12	○	工事立会	15-313	
15-2-0680	博多駅南4丁目	比恵遺跡群	一般業者	共同住宅	2003.11.13	○	要調査	15-302	0364
15-2-0691	那珂6丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2003.12.12	○	慎重工事	15-313	
15-2-0692	三筑1丁目	三筑遺跡	一般業者	その他	2003.11.27	×	慎重工事	15-288	
15-2-0701	住吉2丁目	住吉神社遺跡近隣	個人	共同住宅	2003.11.13	○	要調査	15-280	
15-2-0723	店屋町	博多遺跡群	一般業者	その他	2003.12.24	○	要協議	15-330	
15-2-0767	吉塚本町	吉塚祝町遺跡隣接	個人	共同住宅	2003.12.11	×	開発同意	15-317	
15-2-0769	冷泉町	博多遺跡群	一般業者	共同住宅	2004.1.15	○	要調査	15-345	
15-2-0797	須崎町	博多遺跡群	一般業者	その他	2003.12.11	○	要協議	15-306	
15-2-0819	東雲町4丁目	麦野C遺跡群隣接	個人	共同住宅	2004.2.19	×	慎重工事	15-386	
15-2-0821	竹下3丁目	那珂遺跡群	一般業者	工場	2003.12.9	○	工事立会	15-307	
15-2-0831	綱場町	博多遺跡群	一般業者	商業ビル建築	2004.1.6	×	要調査	15-333	
15-2-0846	井相田3丁目	麦野C遺跡群隣接	個人	共同住宅	2004.1.6	×	開発同意	15-332	
15-2-0859	板付4丁目	板付遺跡	一般業者	共同住宅	2004.1.6	○	慎重工事	15-331	
15-2-0861	板付4丁目	板付遺跡	一般業者	共同住宅	2004.1.6	×	慎重工事	15-331	
15-2-0878	吉塚本町	吉塚本町遺跡群	個人	個人住宅	2003.12.17	×	慎重工事	15-318	
15-2-0896	光丘町3丁目	中ノ原遺跡	個人	その他	2004.1.13	×	慎重工事	15-344	
15-2-0901	山王1丁目	山王遺跡	一般業者	社員寮	2004.1.13	×	工事立会	15-346	
15-2-0903	那珂4丁目	那珂井体遺跡群	個人	その他	2004.1.26	○	要協議	15-352	
15-2-0918	竪粕4丁目	吉塚遺跡群	個人	その他	2004.1.27	×	慎重工事	15-354	
15-2-0924	博多駅南5丁目	比恵遺跡群	一般業者	その他	2004.2.5	○	要協議	15-369	
15-2-0935	博多駅南4丁目	比恵遺跡群	一般業者	工場・店舗	2004.3.4	○	要協議	15-395	
15-2-0960	東光寺町1丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2004.2.12	○	要調査	15-383	
15-2-0963	東比恵3丁目	東比恵3丁目遺跡	一般業者	共同住宅	2004.1.29	○	工事立会	15-355	
15-2-0969	元町2丁目	南八幡遺跡群	個人	共同住宅	2004.3.11	○	工事立会	15-406	
15-2-1011	東那珂3丁目	東那珂遺跡	個人	個人住宅	2004.3.18	×	慎重工事	15-411	
15-2-1012	竹下3丁目	那珂遺跡群	一般業者	工場	2004.2.19	×	工事立会	15-393	
15-2-1043	立花寺2丁目	立花寺遺跡群隣接	一般業者	保育園建設	2004.3.9	○	要調査	15-404	
15-2-1070	東那珂1丁目	東那珂遺跡	一般業者	遊技場	2004.3.4	○	工事立会	15-409	
15-2-1083	馬出2丁目	箱崎遺跡隣接	一般業者	個人住宅兼店舗	2004.3.2	×	開発同意	15-394	
15-2-1094	南木町1丁目	麦野B遺跡群	一般業者	個人住宅	2004.3.5	○	慎重工事	15-402	
15-2-1095	竹下5丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2004.3.22	○	要調査	15-415	

中央区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘書類	発掘調査
15-1-094	赤坂1丁目	福岡城跡	福岡市	その他	2004.02.18	○	要協議	15-420	
14-2-0778	赤坂2丁目	福岡城跡	一般業者	共同住宅	2003.04.04	×	慎重工事	15-002	
14-2-0870	舞鶴1丁目	福岡城跡	一般業者	共同住宅	2003.10.28	×	慎重工事	15-262	
15-2-0059	唐人町3丁目	元寇防塁	一般業者	寺院増築	2003.05.08	×	慎重工事	15-044	
15-2-0368	地行4丁目	元寇防塁	個人	個人住宅	2003.08.11	×	慎重工事	15-196	
15-2-0450	赤坂2丁目	福岡城跡	一般業者	共同住宅	2003.10.23	×	慎重工事	15-247	
15-2-0710	赤坂2丁目	福岡城跡	個人	個人住宅	2003.11.10	○	慎重工事	15-281	
15-2-0758	唐人町2丁目	元寇防塁隣接	一般業者	共同住宅	2003.12.01	×	開発同意	15-298	
15-2-0948	地行4丁目	元寇防塁	個人	個人住宅	2004.02.05	×	慎重工事	15-371	

南区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘書類	発掘調査
14-1-075	老司２丁目	野多目Ｃ遺跡群	福岡市	市営住宅建替	2003.11.12	×	慎重工事	15-276	
15-1-018	野多目５丁目	野多目浦ノ池遺跡	福岡市	学校	2003.07.07	○	要調査	15-115	0338
15-1-023	弥永４丁目	弥永遺跡群隣接	国	その他	2003.07.02	○	要協議	15-109	
15-1-029	横手３丁目	横手遺跡群外	福岡市	道路整備	2003.07.29	×	慎重工事	15-141	
15-1-098	鶴田４丁目	包蔵地外	福岡市	公民館等改築	2004.03.03	×	開発同意	15-423	
14-2-0706	五十川１丁目	那珂遺跡群	個人	個人住宅	2003.04.14	○	慎重工事	15-015	
14-2-0857	和田２丁目	和田Ａ遺跡群	個人	不明	2003.04.01	×	慎重工事	15-003	
14-2-0871	中尾３丁目	屋形原遺跡	一般業者	店舗	2003.05.01	×	慎重工事	15-034	
14-2-0872	弥永４丁目	警弥郷Ｂ遺跡群	個人	共同住宅	2003.04.24	×	慎重工事	15-018	
14-2-0886	横手３丁目	横手遺跡群	個人	共同住宅	2003.04.01	×	慎重工事	15-004	
14-2-0910	曰佐３丁目	弥永原遺跡	個人	共同住宅	2003.04.15	○	要協議	15-035	0347
15-2-0001	五十川１丁目	那珂遺跡群	個人	共同住宅	2003.04.14	○	工事立会	15-014	
15-2-0025	中尾３丁目	屋形原遺跡	一般業者	店舗ビル	2003.05.01	×	慎重工事	15-034	
15-2-0037	老司１丁目	野多目Ｃ遺跡群	個人	個人住宅	2003.05.09	×	慎重工事	15-039	
15-2-0087	屋形原１丁目	花畑Ｃ遺跡群	個人	個人住宅	2003.05.22	×	慎重工事	15-051	
15-2-0105	井尻３丁目	井尻Ｂ遺跡群	個人	個人住宅	2003.05.22	×	慎重工事	15-056	
15-2-0128	曰佐４丁目	曰佐遺跡群	一般業者	戸建分譲住宅	2003.06.05	×	慎重工事	15-074	
15-2-0146	曰佐４丁目	曰佐遺跡群隣接	個人	共同住宅	2003.06.26	×	開発同意	15-100	
15-2-0149	屋形原１丁目	花畑Ｃ遺跡群	個人	個人住宅	2003.06.05	×	慎重工事	15-075	
15-2-0174	曰佐４丁目	曰佐遺跡群	個人	共同住宅	2003.06.12	○	工事立会	15-084	
15-2-0183	柏原１丁目	古野遺跡隣接	一般業者	戸建分譲住宅	2003.07.09	×	開発同意	15-121	
15-2-0184	柏原３丁目	大牟田古墳群Ｂ群隣接	一般業者	戸建分譲住宅	2003.07.23	×	開発同意	15-138	
15-2-0218	老司３丁目	野多目Ｃ遺跡群	個人	共同住宅	2003.07.15	○	慎重工事	15-128	
15-2-0241	南大橋２丁目	三宅遺跡群	個人	共同住宅	2003.08.07	×	慎重工事	15-163	
15-2-0247	井尻５丁目	井尻Ｂ遺跡群	一般業者	共同住宅	2003.07.10	○	慎重工事	15-123	
15-2-0253	老司５丁目	老司古墳隣接	一般業者	保育所建設	2003.07.17	×	開発同意	15-131	
15-2-0303	三宅３丁目	三宅Ｃ遺跡隣接	一般業者	工場	2003.08.07	○	慎重工事	15-153	
15-2-0309	柏原３丁目	大牟田古墳群Ｂ群隣接	一般業者	戸建分譲住宅	2003.07.23	×	開発同意	15-138	
15-2-0312	柏原１丁目	古野遺跡隣接	一般業者	宅地造成	2003.07.09	×	開発同意	15-121	
15-2-0331	老司４丁目	老司Ａ遺跡隣接	個人	その他	2003.08.07	×	開発同意	15-156	
15-2-0332	曰佐３丁目	弥永原遺跡群	一般業者	共同住宅	2003.07.22	○	工事立会	15-184	
15-2-0345	五十川２丁目	五十川遺跡群	個人	個人住宅	2003.08.11	×	慎重工事	15-162	
15-2-0367	花畑３丁目	花畑Ａ遺跡群	一般業者	店舗	2003.08.18	×	慎重工事	15-176	
15-2-0377	老司３丁目	卯内尻古墳群	一般業者	医院	2003.09.04	×	慎重工事	15-194	
15-2-0383	高宮４丁目	高宮Ａ遺跡	一般業者	神社社務所	2003.07.30	×	慎重工事	15-148	
15-2-0405	三宅２丁目	三宅Ｂ遺跡	一般業者	長家住宅	2003.08.04	○	慎重工事	15-157	
15-2-0407	曰佐３丁目	弥永原遺跡群	一般業者	個人住宅	2003.08.07	×	慎重工事	15-167	
15-2-0440	高宮４丁目	高宮Ａ遺跡	一般業者	共同住宅	2003.09.30	×	慎重工事	15-225	
15-2-0454	野多目１丁目	野多目Ａ遺跡群	個人	医院	2003.09.11	○	慎重工事	15-204	
15-2-0492	老司１丁目	野多目Ｃ遺跡群	一般業者	未定	2003.09.18	×	慎重工事	15-207	
15-2-0531	曰佐２丁目	曰佐遺跡群	個人	共同住宅	2003.09.24	○	慎重工事	15-210	
15-2-0540	井尻１丁目	井尻Ｂ遺跡群	個人	個人住宅	2003.09.24	×	慎重工事	15-213	
15-2-0558	曰佐１丁目	曰佐遺跡群	個人	共同住宅	2003.10.09	×	慎重工事	15-233	
15-2-0599	高木２丁目	井尻Ａ遺跡群	個人	個人住宅	2003.10.29	×	慎重工事	15-260	
15-2-0603	弥永３丁目	警弥郷Ｂ遺跡群	個人	祝その他	2003.10.09	×	慎重工事	15-232	
15-2-0604	弥永３丁目	警弥郷Ｂ遺跡群	個人	診療所増築	2003.10.09	×	慎重工事	15-232	
15-2-0605	弥永３丁目	警弥郷Ｂ遺跡群	個人	その他	2003.10.09	×	慎重工事	15-232	
15-2-0640	花畑３丁目	花畑Ｂ遺跡群	個人	個人住宅	2003.10.23	×	慎重工事	15-252	
15-2-0651	井尻４丁目	井尻Ｂ遺跡群	個人	個人住宅	2003.10.16	×	慎重工事	15-240	
15-2-0676	大平寺１丁目	大平寺遺跡群	一般業者	共同住宅	2003.11.06	×	慎重工事	15-275	
15-2-0729	五十川１丁目	五十川遺跡群	一般業者	その他	2003.12.18	○	要協議	15-316	
15-2-0735	大橋４丁目	大橋Ｅ遺跡	個人	個人住宅	2003.11.27	○	要調査	15-295	0366
15-2-0887	曰佐４丁目	曰佐遺跡群	個人	共同住宅	2004.01.15	×	慎重工事	15-348	
15-2-0900	野多目４丁目	野多目Ｃ遺跡群隣接	個人	その他	2004.01.15	×	開発同意	15-347	
15-2-0926	弥永５丁目	警弥郷Ｂ遺跡群	一般業者	その他	2004.02.05	×	慎重工事	15-370	
15-2-0978	五十川１丁目	五十川遺跡群	個人	個人住宅	2004.02.05	○	要調査	15-374	
15-2-0996	三宅３丁目	三宅Ｃ遺跡	一般業者	共同住宅	2004.02.26	×	慎重工事	15-392	
15-2-1001	五十川２丁目	五十川遺跡群	個人	個人住宅	2004.02.12	○	工事立会	15-376	
15-2-1004	曰佐４丁目	上曰佐遺跡	個人	共同住宅	2004.03.09	○	継続	15-399	
15-2-1074	柏原１丁目	花畑Ａ遺跡群	一般業者	共同住宅	2004.03.26	×	慎重工事	15-416	
15-2-1077	的場２丁目	曰佐遺跡群隣接	一般業者	商業ビル建築	2004.03.26	×	開発同意	15-414	
15-2-1108	野間３丁目	中村町遺跡	一般業者	共同住宅	2004.03.26	○	要調査	15-424	

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘書類	発掘調査
15-2-1118	和田３丁目	三宅Ｂ遺跡	個人	共同住宅	2004.03.18	×	慎重工事	15-413	

城南区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘書類	発掘調査
13-1-926	七隈６丁目外	飯倉Ｅ遺跡	福岡市	公園建設	10 月 1 日	×	工事立会	15-243	
15-1-026	片江５丁目	西の堤池遺跡隣接	福岡県	その他	6 月 23 日	×	開発同意	15-092	
15-1-039	南片江４丁目	瀬戸口古墳群近接	福岡市	公園整備	8 月 27 日	×	開発同意	15-193	
15-1-053	片江５丁目	西の堤池遺跡隣接	福岡県	その他	10 月 22 日	○	要調査	15-257	
15-1-054	片江５丁目	西の堤池遺跡	福岡県	その他	2003.10.22	×	慎重工事	15-258	
14-2-0878	荒江１丁目	飯倉Ｂ遺跡	個人	共同住宅	2003.04.02	×	慎重工事	15-001	
14-2-0906	干隈１丁目	干隈古墳群Ａ群	一般業者	その他	2003.04.17	○	要協議	15-036	
14-2-0907	荒江１丁目	飯倉Ａ遺跡	個人	共同住宅	2003.04.08	×	慎重工事	15-012	
15-2-0045	田島３丁目	田島和尚頭遺跡	一般業者	個人住宅	2003.05.29	×	工事立会	15-060	
15-2-0071	七隈２丁目	飯倉Ｃ遺跡	個人	個人住宅	2003.11.27	×	慎重工事	15-292	
15-2-0074	干隈２丁目	飯倉Ｅ遺跡	個人	医院	2003.05.06	×	慎重工事	15-038	
15-2-0085	樋井川４丁目	宝台遺跡群	個人	個人住宅	2003.05.20	○	要調査	15-080	0319
15-2-0109	樋井川３丁目	樋井川Ａ遺跡群	一般業者	個人住宅	2003.05.29	×	慎重工事	15-063	
15-2-0154	樋井川３丁目	樋井川Ａ遺跡群	個人	個人住宅	2003.05.29	×	慎重工事	15-066	
15-2-0248	樋井川１丁目	長尾遺跡群	個人	その他	2003.07.29	×	慎重工事	15-168	
15-2-0249	梅林３丁目	飯倉Ｆ遺跡	個人	その他	2003.07.31	×	慎重工事	15-144	
15-2-0250	西片江２丁目	七隈古墳群隣接	個人	その他	2003.07.31	×	開発同意	15-145	
15-2-0261	飯倉１丁目	飯倉Ｂ遺跡	個人	個人住宅	2003.07.30	×	慎重工事	15-151	
15-2-0272	七隈１丁目	飯倉Ｂ遺跡	個人	個人住宅	2003.09.02	×	慎重工事	15-197	
15-2-0325	片江３丁目	片江Ａ遺跡群隣接	個人	その他	2003.08.12	×	開発同意	15-166	
15-2-0423	西片江１丁目	早苗田古墳群隣接	個人	共同住宅	2003.08.19	×	開発同意	15-174	
15-2-0426	樋井川４丁目	宝台遺跡群	個人	個人住宅	2003.08.26	×	慎重工事	15-182	
15-2-0429	長尾４丁目	長尾遺跡群	個人	個人住宅	2003.08.20	○	工事立会	15-186	
15-2-0521	田島１丁目	田島Ａ遺跡群	個人	個人住宅	2003.09.12	○	慎重工事	15-227	
15-2-0543	神松寺３丁目	カルメル修道院遺跡	一般業者	個人住宅	2003.10.01	○	慎重工事	15-219	
15-2-0546	長尾１丁目	長尾遺跡群隣接	一般業者	社屋建築	2003.10.16	×	開発同意	15-244・372	
15-2-0552	片江３丁目	片江Ａ遺跡群	個人	共同住宅	2003.10.07	×	慎重工事	15-229	
15-2-0556	片江３丁目	片江Ａ遺跡群	一般業者	共同住宅	2003.10.07	×	慎重工事	15-229	
15-2-0557	片江３丁目	片江Ａ遺跡群	一般業者	共同住宅	2003.10.07	×	慎重工事	15-229	
15-2-0562	長尾１丁目	長尾遺跡群隣接	一般業者	社屋建築	2003.10.16	×	開発同意	15-244・372	
15-2-0563	東油山６丁目	東油山古墳群近隣	一般業者	戸建分譲住宅	2003.10.16	×	開発同意	15-245	
15-2-0567	七隈１丁目	飯倉Ｂ遺跡	一般業者	個人住宅	2003.10.07	×	慎重工事	15-230	
15-2-0589	梅林３丁目	飯倉Ｆ遺跡	個人	個人住宅	2003.10.15	×	慎重工事	15-239	
15-2-0672	樋井川４丁目	宝台遺跡群	個人	個人住宅	2003.11.14	×	慎重工事	15-282	
15-2-0681	茶山６丁目	茶山遺跡	個人	個人住宅	2003.12.02	×	慎重工事	15-303	
15-2-0719	樋井川２丁目	長尾遺跡群	個人	その他	2003.12.02	×	慎重工事	15-304	
15-2-0835	別府６丁目	茶山遺跡	個人	個人住宅	2004.02.10	×	慎重工事	15-373	
15-2-0869	南片江５丁目	早苗田古墳群隣接	個人	その他	2004.01.08	×	開発同意	15-339	
15-2-0912	友丘２丁目	神松寺遺跡群	個人	共同住宅	2004.01.20	×	慎重工事	15-351	
15-2-0913	干隈１丁目	飯倉Ｅ遺跡	一般業者	個人住宅	2004.01.20	×	慎重工事	15-350	
15-2-0916	七隈２丁目	飯倉Ｃ遺跡	一般業者	共同住宅	2004.02.17	×	慎重工事	15-380	
15-2-0950	別府７丁目	田島和尚頭遺跡隣接	個人	個人住宅	2004.03.10	×	開発同意	15-403	
15-2-0967	干隈１丁目	飯倉Ｅ遺跡	個人	個人住宅	2004.03.10	×	慎重工事	15-398	
15-2-1040	大字東油山	駄ヶ原古墳群Ｆ群	一般業者	個人住宅	2004.03.02	×	慎重工事	15-391	
15-2-1097	飯倉１丁目	飯倉Ａ遺跡	個人	個人住宅	2004.03.08	×	慎重工事	15-396	

早良区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘書類	発掘調査
13-1-193	大字脇山	脇山Ａ遺跡群	福岡市	道路拡幅	2004.01.28	○	要調査	15-357	
13-1-557	大字西、内野	広瀬遺跡	福岡市	圃場整備	2003.07.16	○	要調査	15-161	0326
13-1-820	田隈２丁目外	田村遺跡群	福岡市	道路拡幅	2003.10.08	×	慎重工事	15-241	
13-1-820	次郎丸６丁目	次郎丸高石遺跡	福岡市	道路改良	2003.05.28	○	要調査	15-069	0315
14-1-032	次郎丸６丁目	次郎丸高石遺跡	福岡市	校舎改築	2003.08.12	×	慎重工事	15-159	
14-1-079	内野１丁目	大坪遺跡	福岡市	市営住宅建替	2003.11.21	○	慎重工事	15-296	
15-1-016	東入部２丁目	東入部遺跡群	福岡市	庁舎	2003.06.23	×	慎重工事	15-093	
15-1-028	四箇６丁目	四箇遺跡群	福岡市	公民館改築	2003.10.08	×	慎重工事	15-242	
15-1-030	飯倉２丁目	飯倉Ｅ遺跡	福岡県	その他	2003.07.16	×	慎重工事	15-125	
15-1-032	内野８丁目	広瀬遺跡	福岡市	道路改良	2003.08.20	○	要調査	15-170	0358

早良区（つづき）

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘書類	発掘調査
15-1-087	干隈６丁目	野芥遺跡群	福岡市	道路新設	2004.02.18	×	慎重工事	15-377	
15-1-088	脇山１丁目	脇山城ノ原遺跡	福岡市	道路新設	2004.01.28	×	慎重工事	15-365	
15-1-133	原５丁目	原遺跡群	福岡市	公園整備	2003.05.28	○	慎重工事	15-052	
14-2-0814	重留７丁目	四箇遺跡群	個人	店舗	2003.04.08	×	慎重工事	15-009	
14-2-0882	賀茂４丁目	次郎丸高石遺跡	個人	共同住宅	2003.04.08	×	慎重工事	15-010	
14-2-0912	四箇６丁目	四箇遺跡群	一般業者	老人ホーム	2003.04.22	×	慎重工事	15-031	
15-2-0013	高取１丁目	藤崎遺跡	一般業者	個人住宅	2003.07.16	×	慎重工事	15-135	
15-2-0024	有田２丁目	有田遺跡群	一般業者	その他	2003.05.20	○	要協議	15-059	
15-2-0054	早良２丁目	内野熊山遺跡群	個人	その他	2003.05.15	○	要協議	15-061	
15-2-0068	干隈６丁目	野芥遺跡群	一般業者	個人住宅	2003.04.24	×	慎重工事	15-028	
15-2-0076	藤崎１丁目	藤崎遺跡	個人	個人住宅	2003.05.15	○	慎重工事	15-050	
15-2-0088	有田２丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2003.05.20	○	工事立会	15-212	
15-2-0122	有田１丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2003.05.28	○	慎重工事	15-077	
15-2-0131	有田１丁目	有田遺跡群	個人	相続税その他	2003.05.29	○	要協議	15-065	
15-2-0132	有田１丁目	有田遺跡群	個人	相続税その他	2003.12.21	○	要協議	15-248	
15-2-0137	飯倉４丁目	原東遺跡群	個人	個人住宅	2003.06.20	○	要調査	15-091	
15-2-0171	原６丁目	原遺跡群	個人	個人住宅	2003.07.11	○	慎重工事	15-116	
15-2-0236	原５丁目	原遺跡群	個人	共同住宅	2003.10.30	○	慎重工事	15-263	
15-2-0314	小田部５丁目	有田遺跡群	個人	不明	2003.08.07	○	要協議	15-181	
15-2-0321	西新４丁目	西新町遺跡	一般業者	店舗	2003.08.21	×	慎重工事	15-171	
15-2-0336	西新２丁目	元寇防塁	一般業者	共同住宅	2003.11.13	×	慎重工事	15-278	
15-2-0353	飯倉４丁目	原東遺跡群	個人	個人住宅	2003.07.22	×	慎重工事	15-134	
15-2-0355	飯倉３丁目	原東遺跡群	一般業者	その他	2003.08.12	×	要協議	15-169	
15-2-0387	野芥１丁目	野芥遺跡群	個人	共同住宅	2003.08.19	○	要調査	15-173	0360
15-2-0403	大字西油山	油山古墳群Ｈ群隣接	一般業者	幼稚園建設	2003.11.25	×	開発同意	15-291	
15-2-0410	小田部５丁目	有田遺跡群	一般業者	個人住宅	2003.08.21	×	慎重工事	15-172	
15-2-0459	西新２丁目	元寇防塁	一般業者	共同住宅	2003.11.13	×	慎重工事	15-278	
15-2-0503	有田６丁目	有田遺跡群	個人	共同住宅	2003.09.11	×	慎重工事	15-216	
15-2-0511	次郎丸６丁目	次郎丸高石遺跡	個人	個人住宅	2003.09.19	○	慎重工事	15-209	
15-2-0534	重留２丁目	浦田鷺焼遺跡	個人	共同住宅	2003.11.04	×	開発同意	15-266	
15-2-0581	賀茂３丁目	次郎丸高石遺跡	個人	個人住宅	2003.10.16	×	慎重工事	15-246	
15-2-0585	小田部２丁目	有田遺跡群	個人	店舗	2003.09.26	○	工事立会	15-220	
15-2-0646	大字脇山	野中遺跡外隣接	一般業者	その他	2003.11.18	×	開発同意	15-284	
15-2-0648	早良１丁目	内野熊山遺跡群隣接	一般業者	宅地分譲	2003.11.18	×	開発同意	15-283	
15-2-0656	小田部３丁目	有田遺跡群	個人	その他	2003.11.26	×	慎重工事	15-293	
15-2-0709	田村４丁目	田村遺跡群	個人	共同住宅	2003.11.26	×	慎重工事	15-290	
15-2-0779	有田１丁目	有田遺跡群	個人	共同住宅	2003.11.26	○	工事立会	15-299	0359
15-2-0820	田村５丁目	田村遺跡群隣接	個人	個人住宅	2003.12.09	×	開発同意	15-309	
15-2-0830	東入部１丁目	熊本遺跡群	個人	個人住宅	2004.02.17	○	慎重工事	15-379	
15-2-0865	野芥４丁目	野芥遺跡群	一般業者	その他	2004.01.08	×	慎重工事	15-338	
15-2-0880	小田部３丁目	有田遺跡群	個人	個人住宅	2004.01.08	×	工事立会	15-340	
15-2-0893	重留７丁目	四箇遺跡群	個人	個人住宅	2004.01.20	×	慎重工事	15-349	
15-2-0920	原８丁目	有田木坪遺跡隣接	一般業者	戸建分譲住宅	2004.02.17	×	開発同意	15-381	
15-2-0941	野芥２丁目	野芥大歳遺跡隣接	一般業者	個人住宅	2004.03.02	×	開発同意	15-389	
15-2-0944	原５丁目	原遺跡群	個人	共同住宅	2004.02.09	×	慎重工事	15-368	
15-2-0972	原７丁目	原遺跡群	個人	共同住宅	2004.03.02	×	慎重工事	15-390	
15-2-0994	高取２丁目	藤崎遺跡	個人	個人住宅	2004.02.18	×	慎重工事	15-384	
15-2-1000	飯倉８丁目	原東遺跡群隣接	個人	個人住宅	2004.03.19	×	開発同意	15-410	
15-2-1052	重留６丁目	重留村下遺跡群	個人	共同住宅	2004.03.10	×	慎重工事	15-400	
15-2-1054	重留６丁目	重留村下遺跡群	個人	共同住宅	2004.03.10	○	工事立会	15-400	
15-2-1055	重留６丁目	重留村下遺跡群	個人	共同住宅	2004.03.10	×	慎重工事	15-400	
15-2-1069	賀茂４丁目	次郎丸高石遺跡	個人	個人住宅	2004.03.11	×	慎重工事	15-401	

西区

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘書類	発掘調査
10-1-142	大字金武	金武城旧遺跡	福岡市	園場整備	2003.05.14	○	要調査	15-089	0329
14-1-031	能古島	能古Ｃ遺跡	福岡市	公園整備	2003.06.27	×	慎重工事	15-107	
14-1-073	大字女原	女原遺跡	福岡市	市営住宅建替	2003.09.24	×	慎重工事	15-235	
14-1-074	大字女原	女原遺跡	福岡市	市営住宅建替	2003.09.24	×	慎重工事	15-236	
15-1-017	小戸３丁目	元寇防塁	福岡市	公園整備	2003.05.23	×	工事立会	15-067	
15-1-020	金武	都地遺跡	福岡市	校舎増築	2003.05.15	○	要調査	15-047	

受付番号	所在地	遺跡名	申請者	開発内容	実施日	有無	指示	試掘書類	発掘調査
15-1-040	福重3・4丁目	福重稲木遺跡	福岡市	道路改良	2003.09.10	○	要調査		
15-1-095	生の松原1丁目	生の松原遺跡	福岡市	その他	2004.02.05	○	要協議	15-366	
15-1-096	野方2丁目	戸切遺跡群	福岡市	その他	2004.02.05	×	慎重工事	15-367	
15-1-101	大字宇田川原	千里遺跡群	福岡市	道路拡幅	2004.02.13	×	慎重工事	15-378	
14-2-0578	橋本1丁目	橋本椀田遺跡近隣	一般業者	店舗	2003.04.24	×	開発同意	15-029	
14-2-0867	野方4丁目	羽根戸原A遺跡群	一般業者	学校	2003.04.15	×	慎重工事	15-017	
14-2-0897	福重2丁目	橋本一丁田遺跡近接	一般業者	その他	2003.04.10	×	開発同意	15-011	
14-2-0901	吉武	都地遺跡	個人	資材置場	2003.04.10	○	要協議	15-037	
14-2-0914	周船寺1丁目	周船寺遺跡群	一般業者	店舗	2003.06.10	○	要調査	15-189	
15-2-0002	今宿駅前1丁目	今宿遺跡群	個人	店舗	2003.04.17	×	慎重工事	15-021	
15-2-0017	下山門4丁目	下山門南C遺跡	一般業者	幼稚園増築	2003.04.22	×	慎重工事	15-030	
15-2-0038	西新3丁目	元寇防塁	一般業者	校舎新築	2003.09.16	×	慎重工事	15-226	
15-2-0098	石丸2丁目	拾六町平田遺跡	個人	個人住宅	2003.05.14	×	慎重工事	15-054	
15-2-0101	横浜2丁目	今山遺跡	個人	個人住宅	2003.05.20	×	慎重工事	15-055	
15-2-0116	野方6丁目	打ノ浦遺跡隣接	個人	共同住宅	2003.05.19	○	慎重工事	15-064	
15-2-0133	飯氏ゾウサ	周船寺遺跡群	一般業者	その他	2003.06.10	○	要協議	15-082	
15-2-0168	野方5丁目	野方中原遺跡近接	個人	戸建分譲住宅	2003.06.24	×	開発同意	15-103	
15-2-0172	生の松原2丁目	生の松原遺跡接	個人	個人住宅	2003.06.17	○	要協議	15-087	
15-2-0245	拾六町5丁目	大林遺跡	一般業者	事務所兼住宅	2003.06.24	○	慎重工事	15-104	
15-2-0267	拾六町4丁目	包蔵地外	一般業者	店舗	2003.07.29	×	開発同意	15-139	
15-2-0294	横浜1丁目	今宿遺跡群隣接	個人	共同住宅	2003.07.30	×	慎重工事	15-152	
15-2-0435	大字飯盛字	吉武遺跡群	一般業者	事務所・倉庫	2003.08.27	×	慎重工事	15-183	
15-2-0439	大字元岡	元岡A遺跡	個人	造成	2003.09.08	×	慎重工事	15-205	
15-2-0460	女原	女原遺跡	個人	倉庫	2003.09.02	○	慎重工事	15-195	
15-2-0467	福重4丁目	福重稲木遺跡	個人	共同住宅	2003.08.27	○	要調査	15-341	0344
15-2-0510	橋本2丁目	包蔵地外	一般業者	土地区画整理	2003.10.08	×	開発同意	15-234	
15-2-0545	今宿東1丁	青木遺跡群	個人	共同住宅	2003.10.21	○	慎重工事	15-249	
15-2-0568	大字周船寺	丸隈山遺跡群隣接	個人	その他	2003.10.21	×	開発同意	15-250	
15-2-0576	野方3丁目	羽根戸原B遺跡群	個人	個人住宅	2003.10.07	×	慎重工事	15-228	
15-2-0590	姪の浜3丁目	姪浜遺跡群	一般業者	共同住宅	2004.02.03	○	慎重工事	15-363	
15-2-0614	周船寺3丁目	山崎古墳	個人	個人住宅	2003.10.30	×	開発同意	15-264	
15-2-0616	千里	周船寺遺跡群	個人	共同住宅	2003.12.09	×	慎重工事	15-308	
15-2-0627	吉武	都地遺跡	個人	工場	2003.10.30	○	慎重工事	15-265	
15-2-0628	野方3丁目	羽根戸原B遺跡群	個人	その他	2003.11.11	○	要協議	15-279	
15-2-0678	拾六町5丁目	大林遺跡	個人	個人住宅	2003.10.21	×	慎重工事	15-267	
15-2-0740	元岡	元岡B遺跡	一般業者	幼稚園建設	2003.12.04	○	要調査	15-315	
15-2-0791	大字吉武	都地遺跡	個人	工場	2003.12.10	○	工事立会	15-310	
15-2-0840	今宿駅前1丁目	今宿遺跡群隣接	一般業者	個人住宅	2003.12.11	×	開発同意	15-311	
15-2-0849	大字千里	千里向川原遺跡	個人	個人住宅	2003.12.22	○	工事立会	15-322	
15-2-0860	石丸3丁目	下山門飯町遺跡	個人	個人住宅	2003.12.22	×	慎重工事	15-323	
15-2-0885	横浜2丁目	今山遺跡	個人	その他	2004.01.13	×	慎重工事	15-343	
15-2-0939	今宿東3丁目	ショウガ谷製鉄跡近隣	一般業者	宅地分譲	2004.02.24	×	開発同意	15-385	
15-2-0940	今宿東3丁目	ショウガ谷製鉄跡近隣	一般業者	宅地分譲	2004.02.24	×	開発同意	15-385	
15-2-0956	大字羽根戸	羽根戸古墳群	個人	家庭菜園	2004.02.03	○	要調査	15-362	
15-2-0993	今津東3丁目	鋤崎遺跡隣接	個人	個人住宅	2004.02.10	×	開発同意	15-375	
15-2-1049	今宿東2丁目	今宿遺跡群隣接	一般業者	共同住宅	2004.03.16	×	開発同意	15-407	
15-2-1073	今宿2丁目	今宿遺跡群	一般業者	斎場	2004.03.11	×	慎重工事	15-408	

Ⅲ 発掘調査

本市における埋蔵文化財の発掘調査は、西部地域（早良区、城南区、西区）を埋蔵文化財課第1係、東部地区（中央区、博多区、東区、南区）を同第2係が担当している。また、西区元岡一帯にかかる九州大学移転用地については、別途大規模事業等担当課を置き調査を実施している。また史跡整備にともなう確認調査を文化財整備課、鴻臚館跡調査担当課が実施している。

発掘調査にあたっては、本市の「整理収蔵要項」に従い、個々の遺跡に調査番号をつけ、遺構・遺物及び記録類の登録を行っている。調査番号は、西暦年度下2桁と年度中の番号を組み合わせた4桁で表している。1遺跡の調査が複数年にまたがる場合は、開始年度の登録番号のみとなる。なお、複数の遺跡を同一調査事業で調査する場合は、原則として遺跡ごとに調査番号を付している。

平成15年度の概要

市域内で実施された本年度の発掘調査件数は、表7に示したように14年度からの継続事業が4件、15年度新規事業が71件の計75件である（ただし、調査番号0351東区箱崎遺跡第42次調査が、令達と国補＋民受の2事業地に分かれるため表4、表6では総計が76件となっている）。発掘件数は公共・民間とも増加の傾向にある（表4）。

発掘調査総面積は75,137㎡（古墳23基を含む）で、前年度に比べ減少しているが、これは圃場整備事業の減少に伴うもので、それ以外は増加している（表5）。発掘調査面積は、100㎡未満が18件、101～300㎡が24件、301～500㎡が9件、501～1,000㎡が6件、1,001～5,000㎡が14件、5001㎡以上が3件、平均で1,018㎡となる。最も少ないのは那珂遺跡群第17次の16㎡、最も多いのが圃場整備に伴う金武城田遺跡群第2次の17,690㎡である。<15頁に続く>

表4　発掘調査件数の推移（　）前年度からの継続件数

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
民　間	35(2)	54(2)	43(4)	37(0)	43(0)	47(4)
圃場整備	3(0)	1(0)	1(0)	2(0)	1(3)	2(0)
公　共	34(5)	33(3)	34(4)	22(0)	18(1)	27(0)
合計	72(7)	88(5)	78(9)	61(0)	62(4)	76(4)

表5　発掘調査面積の推移（㎡）

	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	15年度
民　間	9,033	19,842	28,474	11,465	12,421	13,282
圃場整備	2,999	7,843	399	6,200	39,799	23,937
公　共	55,032	73,849	71,055	32,663	36,914	38,093
合　計	67,064	101,534	99,928	50,328	89,134	75,312

表6　平成15年度発掘調査総括表

区名		令達	受託	補助事業				小計	県教委	総計	調査主体別内訳					
				補助	補助＋民受	補助＋令達	市単費		民　間		埋蔵文化財課	大規模事業	鴻臚館跡担当	文化財整備課	福岡県教委	民間調査機関
東	公共	3						3		9	3					
	民間		3		3			6			6					
博多	公共	1	2					3		30	3					
	民間		11	13	1			25	2		25					2
中央	公共			1				1		1			1			
	民間							0								
南	公共	1		1				2		4	2					
	民間			1			1	2			2					
城南	公共		1					1		3	1					
	民間			2				2			2					
早良	公共	1		1		1	1	4	1	10	4			1		
	民間		1	2	1		1	5			5					
西	公共	2	9	3		1		15		19	5	9		1		
	民間		1	3				4			4					
小計	公共	8	12	6	0	2	1	29	1	76	18	9	1	1	1	0
	民間	0	16	21	5	0	2	44	2		44	0	0	0	0	2
合計		8	28	27	5	2	3	73	3	76	62	9	1	1	1	2

表7　平成15年度調査一覧（前年度からの継続含む）

調査番号	遺跡名	次数	地点	区	所在地	調査原因	予算種別	申請面積(㎡)	調査面積(㎡)	古墳基数	調査開始 調査終了	担当者
0001	元岡・桑原遺跡群	20		西	大字桑原字戸山	大学移転用地造成	公受	2,750,000	2,130		2000.04.05 2003.05.23	菅波
0204	元岡・桑原遺跡群	29	元岡古墳群N群1～9号墳	西	大字元岡字石ヶ原	大学移転用地造成	公受	2,750,000	1,000	2	2002.04.04 2003.09.30	星野 菅波
0242	元岡・桑原遺跡群	31		西	大字元岡字宮草	大学移転用地造成	公受	2,750,000	5,000		2002.10.01 継続中	二宮 上角
0255	今宿五郎江遺跡	9		西	今宿町79-1外	伊都区画整理	令達	1,300,000	2,960		2002.12.26 2004.03.31	杉山
0301	有田遺跡群	206		早良	南庄3丁目72-3	個人住宅建築	国補	160	66		2003.04.07 2003.04.10	池田
0302	箱崎遺跡	39		東	箱崎1丁目2031、2029-1外	共同住宅建築	民受	404	149		2003.04.10 2003.05.09	中村
0303	元岡・桑原遺跡群	33	錦田古墳群1号墳	西	大字桑原字平川	大学移転用地造成	公受	2,750,000	450	1	2003.04.07 2003.05.19	濱石
0304	麦野C遺跡群	7		博多	麦野6丁目18-1	個人住宅建築	国補	162	116		2003.04.14 2003.04.23	本田
0305	麦野C遺跡群	8		博多	麦野6丁目18-15	共同住宅建築	国補	162	121		2003.04.24 2003.05.07	本田
0306	麦野C遺跡群	9		博多	麦野6丁目18-16	個人住宅建築	国補	162	41		2003.05.08 2003.05.20	本田
0307	長垂大谷遺跡	1	+長垂山古墳群7号墳	西	大字下山門1718-2外	駐車場造成	民受	19,122	620	1	2003.04.14 2003.05.30	加藤良
0308	比恵遺跡群	82		博多	博多駅南6丁目9-7	店舗建設		6,612	1,360		2003.05.06 2003.08.14	岡三リビック
0309	福岡城跡	50	鴻臚館20次	中央	城内1	確認調査	国補		2,309		2003.04.01 2004.03.31	折尾 大庭
0310	元岡・桑原遺跡群	34	元岡古墳群J群1～3号墳	西	大字元岡字石ヶ原	大学移転用地造成	公受	2,750,000	7,000	3	2003.04.01 2003.08.12	屋山
0311	吉武遺跡群	16		西	大字飯盛地内	下水道工事	国補	403	62		2003.05.07 2003.05.16	松浦
0312	比恵遺跡群	83		博多	山王1丁目152	共同住宅建築	民受	438	273		2003.05.12 2003.07.15	荒牧
0313	那珂遺跡群	88		博多	那珂2丁目83-2、83-3、83-4	共同住宅建築	国補	488	87		2003.05.12 2003.05.27	大塚
0314	五十川遺跡群	11		南	五十川2丁目地内	都市計画道路側溝供所井尻線	令達		1,368		2003.05.15 2004.01.31	吉武
0315	次郎丸高石遺跡	6		早良	次郎丸6丁目地内	都市計画道路有田重留線	令達		1,307		2003.05.21 2004.01.30	池田
0316	那珂遺跡群	89		博多	東光寺町1丁目373	共同住宅建築	国補	142	16		2003.05.19 2003.05.27	本田
0317	比恵遺跡群	84		博多	博多駅南5丁目42	共同住宅建築	国補	542	198		2003.05.22 2003.06.05	中村
0318	箱崎遺跡	40		東	箱崎1丁目3・4、馬出1丁目30	筥崎土地区画整理	令達		3,527	3	2003.05.14 2004.03.25	佐藤 赤坂
0319	宝台遺跡群	3		城南	樋井川4丁目361	個人住宅建築	国補	135	67		2003.05.28 2003.06.04	星野
0320	七隈古墳群C群	2	2号墳	城南	梅林4丁目地内	福岡外環状道路	公受		28	1	2003.05.19 2003.06.02	藏冨士
0321	比恵遺跡群	85		博多	博多駅南3丁目58	共同住宅建築	民受	991	290		2003.06.04 2003.07.31	長家
0322	西新町遺跡	16		早良	高取1丁目105、106、107、108	共同住宅建築	民受	679	394		2003.05.28 2003.08.12	松浦
0323	那珂遺跡群	90		博多	那珂1丁目91	個人住宅建築	国補	700	48		2003.06.10 2003.06.23	本田
0324	比恵遺跡群	86		博多	山王1丁目104-1、105、129-1	老人ホーム建築	国補	2,003	116		2003.06.26 2003.07.02	大塚
0325	飯氏古墳群A群	2	兜塚古墳(1号墳)	西	大字飯氏字松尾635、631の一部	確認調査	国補		25	1	2003.06.13 2003.07.08	藏冨士

調査番号	遺跡名	次数	地点	区	所在地	調査原因	予算種別	申請面積(㎡)	調査面積(㎡)	古墳基数	調査開始 調査終了	担当者
0326	広瀬遺跡	1		早良	大字西、内野８丁目地内	石釜圃場整備	国補 令達	245,000	6,247		2003.06.16 2003.12.26	加藤良
0327	下月隈Ｃ遺跡群	9		博多	月隈４丁目８	空港整備（調節池建設）	公受		2,000		2003.06.01 2003.10.30	山崎
0328	蒲田部木原遺跡群	7		東	蒲田３丁目771-1、1772-1 外	倉庫建築	国補 民受	10,403	213		2003.06.27 2003.08.11	中村
0329	金武城田遺跡	2		西	大字金武字城田地内	金武圃場整備	国補 令達	70,000	17,690	2	2003.05.08 2004.01.30	吉留
0330	飯倉Ｄ遺跡	2		城南	干隈１丁目400-8、34	個人住宅建築	国補	367	212		2003.07.03 2003.07.28	池田
0331	東那珂遺跡	5		博多	東那珂１丁目304、310	共同住宅建築	国補	1,474	118		2003.07.07 2003.07.29	本田
0332	博多遺跡群	142		博多	祇園町583-4	共同住宅建築	民受	282	163		2003.07.28 2003.10.24	大塚
0333	博多遺跡群	143		博多	綱場町121	共同住宅建築	民受	345	303		2003.07.22 2003.10.21	荒牧
0334	博多遺跡群	144		博多	綱場町117-1 外	共同住宅建築	民受	1,249	400		2003.07.28 2003.11.28	星野
0335	那珂遺跡群	91		博多	竹下５丁目７-3、20 の一部	個人住宅建築	国補	110	41		2003.07.30 2003.08.05	本田
0336	周船寺遺跡群	15		西	周船寺１丁目523-1 外	店舗建築	国補	12,040	231		2003.08.19 2003.09.05	松浦
0337	那珂遺跡群	92		博多	那珂１丁目401、402、403	共同住宅建築	国補	615	191		2003.08.18 2003.09.01	本田
0338	野多目浦ノ池古墳	1		南	野多目５丁目地内	確認調査	国補		400	1	2003.08.01 2003.08.28	長家
0339	西新町遺跡	17		早良	西新６丁目19-1	高等学校建築	／		2,250		2003.08.26 2004.03.16	県教委
0340	元岡・桑原遺跡群	35	元岡石ヶ原古墳（2次）	西	大字元岡字石ヶ原	大学移転用地造成	公受	2,750,000	1,853	1	2004.05.20 継続中	濱石
0341	元岡・桑原遺跡群	36	経塚古墳	西	大字桑原字牛坂	大学移転用地造成	公受	2,750,000	2,220	1	2003.09.01 継続中	屋山 菅波
0342	博多遺跡群	145		博多	御供所町313-2	共同住宅建築	民受	254	254		2003.09.03 2003.12.05	本田
0343	箱崎遺跡	41		東	箱崎３丁目2426 外	共同住宅建築	民受	1,506	1,000		2003.09.16 2003.12.11	中村
0344	福重稲木遺跡	2		西	福重４丁目283-6	共同住宅建築	国補	205	116		2003.09.24 2003.10.14	池田
0345	福重稲木遺跡	3		西	福重４丁目地内	都市計画道路姪浜飯盛線	令達		181		2003.10.15 2003.11.08	池田
0346	重留村下遺跡群	3		早良	重留６丁目655	個人住宅建築	国補	434	104		2003.09.24 2003.10.16	松浦
0347	弥永原遺跡群	8		南	日佐３丁目79-1、109-1、111	共同住宅建築	市単費	2,980	96		2003.09.16 2003.09.19	久住
0348	那珂遺跡群	93		博多	東光寺町２丁目34、35-1・3・4 外	共同住宅建築	民受	2,924	781		2003.09.22 2003.11.07	長家
0349	雑餉隈遺跡群	15		博多	新和町２丁目25	共同住宅建築	／	1,932	650		2003.11.01 2004.03.31	岡三リビック
0350	久保園遺跡	3		博多	東平尾２丁目地内	都市計画道路福岡空港線	令達		373		2003.09.25 2003.11.21	吉武
0351	箱崎遺跡	42	A区	東	箱崎３丁目2379-1	専用住宅および車庫設築	国補 民受	2,031	263		2003.10.21 2004.01.27	赤坂
			B区	東	箱崎３丁目2379-1	都市計画道路箱崎阿恵線	令達		46		2003.10.21 2004.01.27	
0352	徳永古墳群	5		西	大字徳永字アラタ384-20	個人住宅建築	国補	924	525	2	2003.10.20 2004.02.13	松浦
0353	比恵遺跡群	87		博多	博多駅南６丁目9-4	共同住宅建築	民受	3,713	1,402		2003.11.04 2004.01.20	荒牧
0354	比恵遺跡群	88		博多	博多駅南６丁目9-7	店舗看板設置	国補	6,612	29		2003.11.12 2003.11.13	荒牧

調査番号	遺跡名	次数	地点	区	所在地	調査原因	予算種別	申請面積(㎡)	調査面積(㎡)	古墳基数	調査開始 調査終了	担当者
0355	比恵遺跡群	89		博多	博多駅南4丁目9-21	自宅兼診療所建築	国補 民受	430	250		2003.11.19 2003.12.10	長家
0356	箱崎遺跡	43		東	箱崎1丁目2697-1	自宅兼共同住宅建築	国補 民受	199	83		2003.11.21 2003.12.15	大塚
0357	博多遺跡群	146		博多	店屋町125、126	個人住宅建築	国補	269	79		2003.11.26 2004.01.13	山崎龍
0358	広瀬遺跡	2		早良	内野8丁目地内	防火水槽移設	市単費		43		2003.11.13 2003.11.21	田上 米倉
0359	有田遺跡群	207		早良	有田1丁目16-3	共同住宅建築	市単費	367	35		2003.12.22 2003.12.24	井上 米倉
0360	野芥遺跡群	12		早良	野芥1丁目853-1、854-8・13外	自宅兼共同住宅建築	国補 民受	828	291		2004.01.06 2004.02.18	加藤良
0361	那珂遺跡群	94		博多	竹下5丁目283-1、284-1	共同住宅建築	民受	419	250		2004.01.08 2004.02.18	長家
0362	吉塚祝町遺跡	2		博多	吉塚1丁目、2丁目地内	共同住宅建築	公受	5,422	300		2004.02.03 2004.09.27	星野
0363	吉武遺跡群	17		西	大字吉武183番外	確認調査	国補		753		2004.01.19 2004.03.26	本田
0364	比恵遺跡群	90		博多	博多駅南4丁目222	共同住宅建築	民受	641	332		2004.01.21 2004.03.05	大塚
0365	元岡・桑原遺跡群	37	元岡古墳群O群1～4号墳	西	大字元岡字石ヶ原	大学移転用地造成	公受	2,750,000	461	4	2003.10.20 2004.02.26	濱石
0366	大橋E遺跡群	10		南	大橋4丁目11-22	個人住宅建築	国補	734	233		2004.02.02 2004.02.27	山崎龍
0367	麦野A遺跡群	14		博多	麦野5丁目5-39	共同住宅建築	民受	684	260		2004.02.02 2004.03.03	荒牧
0368	箱崎遺跡	44		東	箱崎1丁目35-3	共同住宅建築	民受	165	115		2004.02.16 2004.03.15	中村
0369	箱崎遺跡	45		東	馬出5丁目24地内	都市計画道路馬出東浜線	令達		152		2004.03.01 2004.03.22	吉武
0370	四箇船石遺跡群	7		早良	四箇5丁目10	確認調査	国補		56		2004.03.10 2004.03.19	藏富士
0371	元岡・桑原遺跡群	38	水崎城跡	西	大字元岡字大久保	大学移転用地造成	公受	2,750,000	140		2004.03.08 継続中	濱石

<12頁から>

調査地の区別では、博多区が最も多く30件（14年度19件）、西区19件（同10件）、早良区10件（同10件）、東区8件（同10件）、南区4件（同11件）、城南区3件（同1件）、中央区1件（同1件）である。博多区では博多、那珂、比恵遺跡群での、西区では九州大学移転用地である元岡・桑原遺跡群での調査が顕著である。

調査主体別では埋蔵文化財課が63件、大規模事業等担当課による九州大学移転用地の調査が9件、文化財整備課、鴻臚館跡調査担当課の史跡指定地の確認調査が各1件である。また福岡県教育委員会が1件、民間調査機関が2件の調査を行った。

予算別では、国庫補助事業が34件（国補27件、国補＋民間受託5件、国庫＋令達2件）、公共受託事業が12件、民間受託事業が16件、令達事業が8件、市単費事業が3件である。国庫補助事業が増加しつつある。

平成 15 年度発掘調査地点位置図

（●番号は 17 頁遺跡索引の位置番号と一致する）

Ⅳ　平成15年度発掘調査概要および報告

調査概要および報告は前年度からの継続分も含め表7の調査番号順に掲載している。ただし調査番号0204元岡・桑原遺跡群第29次調査は昨年度の年報に掲載済みなので割愛した。下に「あいうえお」順の索引をつけたが、このうち太字のものが報告である。各概要・報告中の図「1. 調査地点の位置」の（）内は、左から福岡市都市計画地図図幅番号・図幅名称・遺跡番号・地図の縮尺である。調査地点は地図中央に黒塗りで示した。

遺跡索引

	遺跡名	調査番号	位置番号	頁
あ	有田遺跡群206次	0301	1	21
	有田遺跡群207次	0359	1	101
	飯倉D遺跡2次	0330	2	56
	飯氏古墳群A群2次	0325	3	51
	今宿五郎江遺跡9次	0255	4	20
	大橋E遺跡群10次	0366	5	108
か	金武城田遺跡2次	0329	6	55
	蒲田部木原遺跡群7次	0328	7	54
	久保園遺跡3次	0350	8	88
	五十川遺跡群11次	0314	9	34
さ	雑餉隈遺跡群15次	0349	10	87
	四箇船石遺跡群7次	0370	11	112
	重留村下遺跡群3次	0346	12	77
	下月隈C遺跡群9次	0327	13	53
	次郎丸高石遺跡6次	0315	14	35
	周船寺遺跡群15次	0336	15	62
た	**宝台遺跡群3次**	**0319**	16	43
	徳永古墳群5次	0352	17	90
な	那珂遺跡群88次	0313	18	33
	那珂遺跡群89次	0316	18	36
	那珂遺跡群90次	0323	18	49
	那珂遺跡群91次	0335	18	61
	那珂遺跡群92次	0337	18	63
	那珂遺跡群93次	0348	18	86
	那珂遺跡群94次	0361	18	103
	長垂大谷遺跡1次	0307	19	27
	七隈古墳群C群2次	0320	20	46
	西新町遺跡16次	0322	21	48
	西新町遺跡17次	0339	21	70
	野芥遺跡群12次	0360	22	102
	野多目浦ノ池古墳1次	**0338**	23	64
は	博多遺跡群142次	0332	24	58
	博多遺跡群143次	0333	24	59
	博多遺跡群144次	0334	24	60
	博多遺跡群145次	0342	24	73
	博多遺跡群146次	0357	24	98
	箱崎遺跡39次	0302	25	22

	遺跡名	調査番号	位置番号	頁
は	箱崎遺跡40次	0318	25	41･42
	箱崎遺跡41次	0343	25	74
	箱崎遺跡42次	0351	25	89
	箱崎遺跡43次	0356	25	97
	箱崎遺跡44次	0368	25	110
	箱崎遺跡45次	0369	25	111
	比恵遺跡群82次	0308	26	28
	比恵遺跡群83次	0312	26	32
	比恵遺跡群84次	**0317**	26	37
	比恵遺跡群85次	0321	26	47
	比恵遺跡群86次	0324	26	50
	比恵遺跡群87次	0353	26	91
	比恵遺跡群88次	**0354**	26	92
	比恵遺跡群89次	0355	26	96
	比恵遺跡群90次	0364	26	106
	東那珂遺跡5次	0331	27	57
	広瀬遺跡1次	0326	28	52
	広瀬遺跡2次	**0358**	28	99
	福岡城跡50次	0309	29	29
	福重稲木遺跡2次	0344	30	75
	福重稲木遺跡3次	0345	30	76
ま	麦野A遺跡群14次	0367	31	109
	麦野C遺跡群7次	0304	32	24
	麦野C遺跡群8次	0305	32	25
	麦野C遺跡群9次	0306	32	26
	元岡・桑原遺跡群20次	0001	33	18
	元岡・桑原遺跡群31次	0242	33	19
	元岡・桑原遺跡群33次	0303	33	23
	元岡・桑原遺跡群34次	0310	33	30
	元岡・桑原遺跡群35次	0340	33	71
	元岡・桑原遺跡群36次	0341	33	72
	元岡・桑原遺跡群37次	0365	33	107
	元岡・桑原遺跡群38次	0371	33	113
や	**弥永原遺跡群8次**	**0347**	34	78
	吉塚祝町遺跡2次	0362	35	104
	吉武遺跡群16次	0311	36	31
	吉武遺跡群17次	0363	36	105

0001 元岡・桑原遺跡群第 20 次調査(MOT-20)

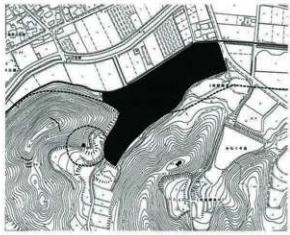
所 在 地　西区大字桑原字戸山
調査原因　大学移転用地造成
調査期間　2000.4.5 ～ 2003.5.23
調査面積　2,130㎡（総調査面積 20,130㎡）
担 当 者　菅波 正人
処　　置　埋め戻し保存、一部記録保存

位置と環境　平成12年度から継続していた調査が終了した。調査地点は九州大学統合移転用地の東側にあり、西側に山城の戸山城が位置し、北東方向に開口する、幅約50m程の谷部に当たる。

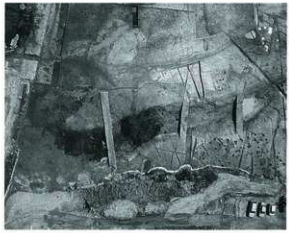
検出遺構出土遺物　遺構は谷部の西側斜面の整地層上面で古代、その下層で古墳時代のものを検出した。遺構面の標高は 8 ～ 10m を測る。遺構は古墳時代の竪穴住居跡 90 軒＋α、掘立柱建物、溜池状遺構、土坑他、古代(奈良時代～平安時代)の掘立柱建物 40 棟＋α、池状遺構、製鉄炉、鍛冶炉、土坑他となる。遺物は各遺構から須恵器、土師器等の土器類、池状遺構から木簡をはじめとする木製品、鉄鏃、刀子等の鉄製品などが多量に出土した。木簡には年号を記したものが 3 点あり、8 号木簡の「大寶元年」（西暦 701 年）と 1 号木簡、26 号木簡の「延暦四年」(西暦 785 年)である。また、墨書土器も数多く出土している。遺物の総量はコンテナ約 2000 箱程度になる。

ま と め　遺跡の変遷を簡単にまとめると、この地点では古墳時代前期から集落が営まれ、古墳時代後期、7 世紀頃まで継続している。溜池状遺構 SX044 はその間機能しており、溜水の利用や木器の貯蔵に使用されたと考えられる。周辺の前方後円墳（塩除古墳、金屋古墳、石ヶ原古墳）の分布からもこの地域の拠点集落であったと考えられる。その後、8 世紀を前後する時期にそれまでの集落域を造成し、池状遺構 SX001、倉庫群が設置される。これらの遺構から木簡や硯、帯金具などが出土しており、何らかの官衙的施設が想定される。8 世紀後半代には製鉄関連遺構が見られるが、大規模なものではない。この地点の倉庫群等の官衙的施設は 9 世紀代には終焉を迎えるのではないかと考える。遺跡は調査後、埋め戻し保存となった。

調査報告書は 2006 年度以降に刊行予定である。



1．調査地点の位置（129 桑原 2782 1：8000）



2．ＳＸ 044 全景（西から）

3．ＳＸ 163 石敷検出状況（西から）

0242 元岡・桑原遺跡群第 31 次調査（MOT-31）

所 在 地　西区大字元岡字宮草
調査原因　大学移転用地造成
調査期間　2002. 10. 1 ～継続中
調査面積　5,000㎡
担 当 者　二宮 忠司・上角 智希
処　　置　調査中

位置と環境　元岡・桑原遺跡群は玄界灘に突出する糸島半島の丘陵地帯に位置する。31 次調査区は丘陵南側に開析する谷のひとつである。

2002 年度の調査では、瓦が面的に分布する瓦溜り、鍛冶炉などを検出している。

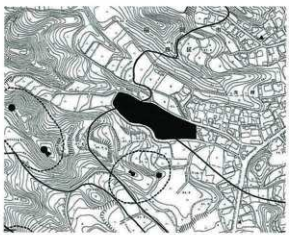
検出遺構　谷の包含層は大きく古代と古墳時代に分けられる。今年度は古代の調査を実施した。検出した主な遺構は、瓦窯址 1 基、瓦溜り、鍛冶炉 10 基、焼土壙（炭焼窯）15 基程度である。瓦窯址は登窯であるが、後世に旧斜面が削平されており遺存状況は悪い。焼成部のごく一部と燃焼部が残る。瓦窯址の発見は元岡・桑原遺跡群で初めてである。

掘立柱建物、竪穴住居址も谷の北側斜面で検出しているが、官衙的施設に見合うようなしっかりしたものはほとんどない。

出土遺物　平瓦は円筒桶 4 枚作りである。軒瓦が一点もなく、平瓦・丸瓦のみである。土師器、須恵器の日常生活具のほかに、土製印章、コップ形須恵器、中空円面硯、銅製銙帯、緑釉陶器（猿投産・防長産）、越州青磁などが出土している。

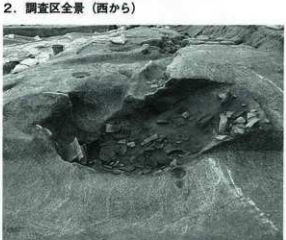
ま と め　平安時代、この谷には官的な工房が設置されていたと考えられる。ただし、建物群については不明な部分が多い。瓦窯址は残りの悪さにも関わらず、非常に重要である。福岡市内全体でも、瓦窯址の調査は南区老司の老司瓦窯址、西区生の松原の斜ヶ浦瓦窯址に続く 3 例目である。また、瓦の叩具痕の観察から、元岡瓦窯址の瓦が湯觸館、海ノ中道遺跡に運ばれていることがわかった。

調査報告書は 2006 年度以降に刊行予定である。



1．調査地点の位置（140　元岡　2782　1：8000）

2．調査区全景（西から）

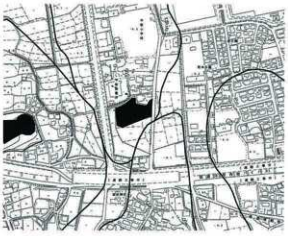


3．瓦窯址（北西から）

0255 今宿五郎江遺跡第９次調査(IMJ-9)

所 在 地 西区今宿町 79-1 外
調査原因 区画整理
調査期間 2002.12.26 ～ 2004.3.31
調査面積 2,960㎡
担 当 者 杉山 富雄
処　　置 記録保存

位置と環境　2003 年度は３区の調査を行った。調査区は遺跡の立地する台地（中位段丘）の南縁部と、広く浅い谷の一部にかかり、１区の延長となる位置にある。台地部は広く、ごく緩く南へ傾斜する。全体に後世の削平を受け、Aso4 火山灰層は痕跡程度に残るのみである。調査区東部分は戦前までさらに一段高くなっており、これを反映して現状では遺構が分布しない。



1．調査地点の位置（112 今宿 0626 1：8000）

検出遺構　台地部の遺構は北西部に集中する。遺構は、柱穴および小穴が殆どである。ほかに小規模の溝を検出した。土壙とする遺構も大形の柱穴である可能性が大きい。柱穴から１×３間の掘建柱建物４棟、１間×１間の掘建柱建物２棟を復原できる。遺物は少量の弥生土器（中期・後期）が出土した。以上の遺構とは別に台地縁部に孤立して弥生時代中期の土壙２基がある。

谷部では、台地縁辺に沿い、谷の粘土層中に遺物の集中する包含層がある。それの下位に１区から続く溝を検出した。東端部では台地の高まりを切り開いて東北方向に流れる。包含層では弥生時代後期から終末期の土器、少量の土師器、須恵器？が出土した。溝からは弥生時代後期・中期の土器、木器、割材が出土した。

2．3区全景（南から）

出土遺物　遺物は総量でコンテナ 700 箱程が出土した。大部分は弥生土器で、古墳時代前期の土師器も少量ある。ほかに先土器時代では台形石器、縄文時代では石鏃の資料がある。谷部の包含層からはガラス製の小玉、勾玉も出土している。

ま と め　溝は、台地縁辺に沿うように掘削されている。台地北東部の試掘結果から、台地東縁部にそって伸びる可能性がある。また、台地西縁部の第２次調査の成果を併せて検討し環濠となる可能性も検討する必要がある。

調査報告書は 2005 年度から刊行の予定。

3．溝 427 東半部（西から）

0301 有田遺跡群第 206 次調査（ART-206）

所 在 地　早良区南庄 3 丁目 72-3
調査原因　個人住宅建築
調査期間　2003. 4. 7 ～ 4. 10
調査面積　66㎡
担 当 者　池田 祐司
処　　置　記録保存

位置と環境　早良平野北部、有田丘陵の北側に位置する。調査区は八つ手状の丘陵に挟まれた谷状の地形内である。現況で標高 3.9 ～ 4.5 m を測る。

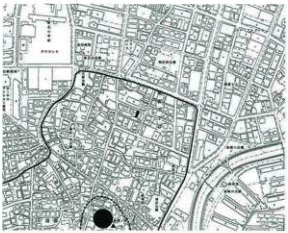
検出遺構　客土約 110 cm、旧表土および床土 35 cmを除去した八女ロームと考えられる青灰色粘質土上面で遺構検出を行った。検出した遺構は溝状、円形のくぼみで、いずれも 4 ～ 8 cmほどの深さで残りが悪い。埋土は暗褐色粘質土で水田耕作土に近い。遺物は出土していない。土壌からも炭化物等の検出はできなかった。

　遺構面の上面は調査区内の標高差は 5 cmでほぼ平坦。標高 3 m を測る。

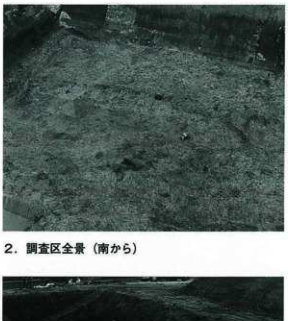
出土遺物　客土は花崗岩バイラン土、黄褐色砂で、そのうち砂層から古式土師器、中世陶磁器・土器片、近世陶磁器片等が出土した。

ま と め　調査地は丘陵端の浅い谷部で、生産地として利用された土地と考えられる。

　調査報告書は 2005 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（81 室見 0309 1：8000）



2．調査区全景（南から）

3．調査区全景（西から）

0302 箱崎遺跡第 39 次調査(HKZ-39)

所 在 地　東区箱崎 1 丁目 2031 外
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2003. 4. 10 ～ 5. 9
調査面積　149.17㎡
担 当 者　中村 啓太郎
処　　置　記録保存

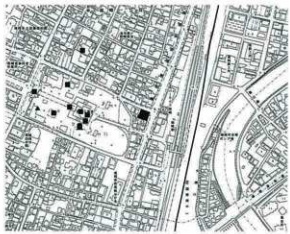
位置と環境　箱崎遺跡は宇美川下流域、多々良川河口左岸の博多湾に面し、南北に延びる砂丘上に位置する。本調査区は遺跡群の東、筥崎八幡宮の東に接して位置する。

検出遺構　遺構検出面までの層序は現代整地層、暗～黒褐色砂質土、暗黄褐色砂、標高約 3 mで地山の黄褐色砂となる。本来の遺構の切り込み面は 1 層上であるが、検出が困難であるため地山面で遺構を検出した。検出した遺構は井戸、溝、土坑、柱穴等である。井戸は地下水位が低いためか井筒は確認できなかった。またその上層では土師器の坏、小皿類を投棄したものがあった。これは上位の井筒を抜いた後投棄されたものとおもわれる。土坑も坏、小皿を完形で出土するものが多くみられた。柱穴は現在のところ、建物にまとめきれていないが東側の調査と合わせ検討したい。時期は 12 世紀代を中心とするとおもわれる。

出土遺物　出土遺物は土師器、須恵器、瓦器、輸入陶磁器類、陶器類、瓦、鉄製品等がコンテナ 24 箱出土している。このうちの多くを瓦が占める。また古墳時代の土師器高坏、古代の須恵器蓋等が少量出土したが該期の遺構は確認できなかった。東側からの流れ込みであろう。

ま と め　今回の調査では中世前期の集落の一端を検出したと考えられるが、調査地点が筥崎宮に近いことからか南側の地点に比べ時期がやや古いようである。

調査報告書は 2004 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（34 箱崎 2639 1：8000）

2．北半区全景（南から）

3．南半区全景（南から）

0303 元岡・桑原遺跡群第 33 次調査(MOT-33)

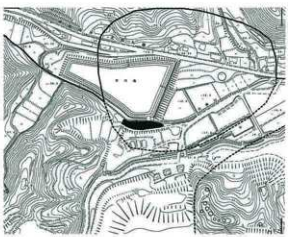
所 在 地 西区大字桑原字平川
調査原因 大学移転用地造成
調査期間 2003.4.7 ～ 5.19
調査面積 450㎡（古墳１基）
担 当 者 濱石 哲也
処　　置 記録保存

位置と環境　調査地点は遺跡群の北側中央に位置する。西から東に延びる山稜の先端部にあたるが、尾根線を境に北側部分は平川池で大きく削られ、また南斜面にも畑や道路の造成がみられる。尾根の最も高い所での標高は 30 m前後、南側の水田から約 10 mほど高い。この丘陵の東端尾根部が丸みをもち、その上に幅１～ 1.5 mの割石が２個あり、これが踏査時に円墳（桑原錦田古墳群１号墳）として登録されていた。

検出遺構出土遺物　古墳は頂部で標高 28 mをはかる。南北側とも大きく削り取られており、墳頂西側の尾根部分がかろうじてもとの状況をとどめているようにみえた。表土を剥いだところ、すぐ直下に地山があらわれ、墳丘の盛土は見あたらなかった。頂部の石も固定された状況ではなく、主体部構築石とは断定しがたい。ただ頂部の二石の間には幅 1.2 m、深さ 10 cmほどの掘り込みがあり、須恵器の破片が出土した。また西尾根上には幅 1.5 m、深さ 20 cmの溝を検出した。

ま と め　以上の状況から見ると、１号墳は大きく破壊され、南側下部の一部をとどめているだけと想定される。西側の溝からすれば墳裾の標高は 27 m前後で、頂部の掘り込みを主体部（あるいは羨道部か）の痕跡とみれば、径 12 m前後、高さ３m程度の円墳に復元できる。出土遺物からみても主体部は横穴式石室と考えられ、玄室は破壊された北側部分にあったものと想定される。築造時期は６世紀後半以降であろうか。

調査報告書は 2007 年度以降に刊行予定である。



1．調査地点の位置（139 桑原西部 2782 1：8000）

2．調査地点全景（南東から）

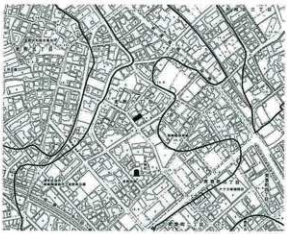
3．１号墳（東から）

0304 麦野C遺跡群第７次調査(MGC-7)

所 在 地　博多区麦野６丁目 18-1
調査原因　個人住宅建築
調査期間　2003.4.14 ～ 4.23
調査面積　115.83㎡
担 当 者　本田 浩二郎
処　　置　記録保存

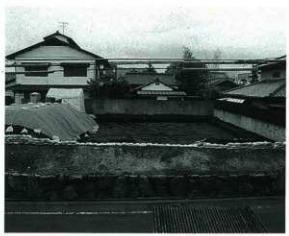
位置と環境　麦野C遺跡は福岡市の南端部に位置しており、周辺には麦野A・B遺跡、雑餉隈遺跡、南八幡遺跡、井相田遺跡などの遺跡が展開している。これらの遺跡は近接する舌状台地状の丘陵上に点在するが、その地形的な境界は現在のところ判然としていない。麦野C遺跡は南北方向800 m、東西方向400 mの分布範囲を持ち、現在までの調査は、その南側半分に集中している。遺跡範囲内は戦後の区画整理によって道路部分が大きく地下げされており、遺構は分断され点状に残存する宅地で検出される状況である。

第７次調査地点は、第８・９次調査地点に接しており、遺跡内の中央部より北側に位置している。現状は宅地で、前面道路より1.5 mほど高く残る。遺構面は鳥栖ローム層で、標高18 m前後を測る。



1．調査地点の位置（12 麦野 0050 1：8000）

検出遺構　検出した遺構は建物としてはまとめられない柱穴群・溝状遺構などである。柱穴群は列状に検出され底面には柱痕跡が見られるが、調査区内では建物としては復元できないため、柵列の可能性も考えられる。これらの遺構の埋土は黒褐色土であり、弥生時代の時期が考えられる黒曜石剥片や古代の土師器片が出土する。



2．調査区全景（南西から）

出土遺物　遺物は土師器・須恵器・貿易陶磁器・黒曜石剥片などがコンテナケース１箱分出土した。

ま と め　調査区付近は戦前の地形図より南北方向に延びる低丘陵の西側斜面上に位置していたことが分かる。本調査地点は丘陵の尾根線に近い位置にあり、過去の宅地造成時に大幅な削平が行われ古代の遺構の大半が消失してしまっていることが推測される。

調査報告書は2004年度に刊行予定である。

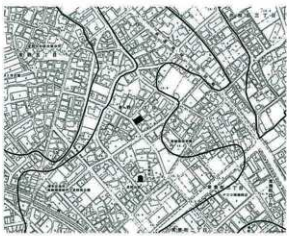
3．調査区全景（北西から）

0305 麦野C遺跡群第8次調査（MGC-8）

所 在 地　博多区麦野6丁目18-15
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2003.4.24～5.7
調査面積　121.38㎡
担 当 者　本田 浩二郎
処　　置　記録保存

位置と環境　麦野C遺跡は福岡市の南端部に位置する。周囲には麦野A・B遺跡、雑餉隈遺跡、南八幡遺跡、井相田遺跡などの遺跡が展開し、古代の大規模な集落の存在が推定されている。

第8次調査地点は第7・9次調査地点に挟まれた地点に位置し、遺跡中央部より北側に位置し、調査地点の現状は宅地である。7次調査に引き続き、重機により表土を除去した後に着手した。遺構面は鳥栖ローム土層面上で設定し、標高は18m前後を測る。



1．調査地点の位置（12 麦野 0050 1：8000）

検出遺構　検出した遺構は古代の竪穴住居2軒・柱穴群・落し穴遺構などである。竪穴住居は平面形が方形で、一辺2.8m前後を測る。柱穴群は調査区内では建物として復元できるものは少なく、調査区外に延びる可能性も考えられる。落し穴状遺構は上面が崩壊し楕円形の平面形を呈するが、底面では長方形となる。底面には杭の痕跡が検出された。出土遺物はなく、時期は確定しがたいがこれまでの調査成果より弥生時代以前の可能性が考えられる。

2．調査区全景（南西から）

出土遺物　遺物は遺構埋土より甕などの土師器・坏や壺などの須恵器・貿易陶磁器・黒曜石剥片などがコンテナケース1箱分が出土した。

ま と め　これまでの調査より、遺跡周辺は古代の時期には大規模な集落が展開していたことが知られており、調査区付近もこの集落の一端であったことが判明した。また、戦前の地形図からは調査地点一帯は、丘陵上に拓かれた一辺約50m前後の方形区画内に位置していたことがわかる。周辺の調査成果より中世の段階で行われた地形改変の痕跡と推測されるが、本調査では中世の遺構の検出はなかった。

調査報告書は2004年度に刊行予定である。

3．落し穴状遺構（南東から）

0306 麦野C遺跡群第9次調査(MGC-9)

所 在 地　博多区麦野6丁目18-16
調査原因　個人住宅建築
調査期間　2003.05.08～05.20
調査面積　40.97㎡
担 当 者　本田 浩二郎
処　　置　記録保存

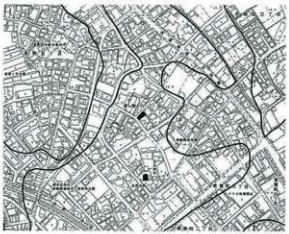
位置と環境　麦野C遺跡は福岡市の南端部に位置する。周辺には麦野A・B遺跡、雑餉隈遺跡、南八幡遺跡、井相田遺跡などの遺跡が展開するが、これらの遺跡は近接する舌状台地状の丘陵上に点在し地形的な境界は現在のところ判然としない。

検出遺構　第9次調査地点は第7・8次調査地点に接しており、遺跡中央部より北側に位置している。7次・8次調査に引き続き、重機により表土を除去した後に着手した。遺構面は鳥栖ローム土層面上で設定し、標高は18m前後を測る。検出した遺構は古代の竪穴住居1軒・柱穴群・掘立柱建物などである。竪穴住居は8次調査で検出されたものと同一であり、9次調査では北側半分を調査した。住居は平面形が方形であり、一辺2.8m前後を測る。住居の北側隅部にはカマドの痕跡が検出される。カマド本体は住居廃絶時に破壊されていたが、煙道が良好に遺存していた。壁溝は掘削されておらず、住居外に柱穴が並んで検出される。掘立柱建物は調査区内で1間×1間分が検出された。柱穴は直径50cm前後の円形であり、底面には柱痕が残る。調査区外である北側に延びる可能性が考えられる。

出土遺物　遺物は土師器・須恵器・貿易陶磁器などがコンテナケース1箱分が出土した。

ま と め　調査地点周辺のこれまでの調査より、古代の時期には大規模な集落が付近一帯に展開していたことが知られており、調査地点付近もこの集落の一端であったことが判明した。7・8・9次調査地点は丘陵西側斜面上に位置しており、丘陵頂部に近い7次調査地点では削平が著しく遺構の残存もわずかであったが、9次調査地点は裾部に近いため遺構の残存は良好であった。

調査報告書は2004年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（12 麦野 0050 1：8000）

2．調査区全景（南から）

3．竪穴住居完掘状況（南東から）

0307 長垂大谷遺跡第１次調査（NTO-1）

所 在 地　西区大字下山門 1718-2 外
調査原因　駐車場造成
調査期間　2003. 4. 14 ～ 5. 30
調査面積　620㎡（古墳１基）
担 当 者　加藤 良彦
処　　置　記録保存

位置と環境　本調査区は早良平野の西端部、長垂山から北に派生する標高 12 m程の小丘陵先端部に位置する。

検出遺構　遺構は 30 ～ 40cm 程の、縄文～弥生時代遺物を包含する黄灰～暗黄灰色土下の赤褐色花崗岩バイラン土上で検出した。遺構は縄文時代早期の倒木痕・自然流路等 10 基、弥生時代後期の溝１条・掘立柱建物１棟、古墳時代後期の横穴式石室古墳１基（長垂山古墳群７号墳）である。

弥生終末期の建物は１×２間の東西棟で柱穴の底面から円形滑石製碇石が、平面を上にして根石状に据えられて出土した。

７号古墳は削平され、西に開口する石室の腰石が残る程度で、石室前半部も残っていない。玄室幅は 190 cm、奥壁は長さ 50 ～ 90 cm、高さ 30 ㎝程の低い腰石３石からなり、この上に幅 20 ㎝程の角礫を小口に積む。床面には小礫を敷くが、床直上まで攪乱を受けている。奥壁より 290 ㎝手前の位置に 80 ㎝間隔で径 25 ㎝程の２本の柱穴があり、後世に玄室を祠堂に転用した際の木扉の支柱と思われる。石室に近接する南と西の調査区壁の包含層上に、厚さ 20 ㎝程の赤褐色バイラン土の墳丘盛土が観察される。径 12.5 mの周溝をもたない円墳になると思われる。

出土遺物　縄文時代の遺物として早期押型文土器・石匙・石鏃・黒曜石・サヌカイト剥片、弥生時代として終末期土器片と滑石製碇石、また古墳からは玄室右奥を中心に三尾鉄衝角付冑・肩甲と思われる鉄片多数と鉄鏃、滑石製臼玉多数、土師器小片が出土した。

ま と め　７号古墳は石室の形態と近畿首長級の出土遺物から５世紀代前半の古墳である可能性が高い。

調査報告書は 2004 年度刊行予定である。

1．調査地点の位置（103 長垂 0550 1：8000）

2．全景（西から）

3．７号墳石室検出状況（北から）

0308 比恵遺跡群第 82 次調査(HIE-82)

所 在 地　博多区博多駅南 6 丁目 9-7
調査原因　店舗建設
調査期間　2003.5.6 ～ 8.14
調査面積　1,360㎡
担 当 者　(財)福岡市埋蔵文化財調査課　堀苑 孝志・中山 浩
処　　置　記録保存

位置と環境　福岡平野のほぼ中央に位置し、御笠川と那珂川に挟まれた、標高 7 m前後の台地上にある。この辺りは多くの開解谷が形成され、以前は八つ手状の景観が望めたと思われる。しかし戦前の区画整理や、近年の市街化により、著しく削平された現状に、往時の面影を見出すのは困難である

検出遺構　弥生時代中期から古墳代後期にかけての、井戸跡を主体として 22 基を確認した。その大多数の底からは完形の土器が出土し、複数の個体を有するのも珍しくない。これ以外では竪穴式住居跡を 2 軒を確認しているが、井戸跡と相対的に数量を比較した場合、かなり少ない印象を受ける。これについては、後世の削平により消滅した可能性を考慮すると、大規模な集落が営まれていた可能性が推察できる。

出土遺物　井戸跡から出土する遺物には良好な状態のものが多く、遺跡の消長を捉え易い状況であった。まず古い段階から見ていくと、弥生時代中期を初現とする土器は、器面に丁寧な磨きを施し、更に朱を塗った壺が目を引く。引き続き後期の井戸跡が最も量が多いが、中期に比べ同時に埋納される個体数は減少する傾向が看て取れる。古墳時代に至ると井戸の数は少なくなり、その個体数も更に減少傾向に転じるようである。そして庄内系や布留系が在地系土器と共に出土するようになる。

ま と め　今回の調査において当該地点での遺跡の消長を概観すると、まず弥生中期に井戸が掘られ集落も形成されたと推察できる。そして後期に入ると井戸跡の数が増加し、ピークを向かえるようである。以後の古墳時代も井戸は存在するが、数は減少し、集落も衰退していくようである。しかし壺や甕を廃絶時に埋納する祭祀行為は、全期間を通し普遍的に行われていたようである。

報告書は 2004 年度に刊行済み（市報告第 832 集）であり、詳細はこちらを参照して頂きたい。

1．調査地点の位置（37 東光寺 0127 1：8000）

2．全景（南東から）

3．井戸遺物出土状況

0309 福岡城跡第 50 次調査（鴻臚館 20 次）（FUE-50）

所 在 地　中央区城内 1
調査原因　確認調査
調査期間　2003. 4. 1 ～ 2004. 3. 31
調査面積　2,309.2㎡
担 当 者　折尾 学・大庭 康時
処　　置　埋め戻し保存

位置と環境　福岡市の海岸部、旧福岡城内に位置している。これまでの発掘調査で、鴻臚館の施設は谷を挟んで北と南に営まれたことが明らかとなっているが、本年度は鴻臚館北館の北辺両角に該当する地点に 2 ヶ所、南館の北東角から谷にかかる地点に 1 ヶ所の調査区を設定し、さらに 12 年度調査区の一部未掘部分を調査した。

検出遺構　鴻臚館北館北辺に設定した 03－1・03－2 調査区では、グラウンド造成土の直下で遺構検出し、第Ⅱ期布掘り掘立柱列の北西角・北東角を確認した。

南館から谷にかけて設定した 03－3 調査区においては、南館第Ⅱ期布掘り掘立柱列の北東角を検出したが、全体に削平が激しく、礎石建物などは確認できなかった。また、谷の落ち際に穿たれた溝が検出された。

12 年度調査未掘部分では、北館にともなう奈良時代前半の便所を検出した。

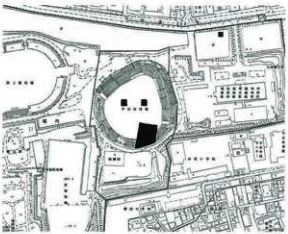
出土遺物　谷の包含層や、削平を免れた土坑などからは、瓦を主とした多量の遺物が出土した。陶磁器では、晩唐三彩盤の出土が注目される。また、11 世紀前半の溝から、「開」字石印が出土した。

土師器・須恵器・輸入陶磁器・木製品など、コンテナ 600 箱ほどが出土している。

ま と め　03－1・03－2 区の調査によって、鴻臚館の北辺がほぼ確定した。

03－3 調査区は、これまでの南館の調査区とは違って盛土整地層を伴っており、丘陵縁辺部の造成を示すものである。今後、調査は東側の谷に及ぶが、谷内部にさらに何らかの施設を設けている可能性を含め、解明すべき課題は多い。

調査報告書は 2005 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（60 舞鶴 0193 1：8000）

2．平成 15 年度調査 03-3 区全景（北から）

3．奈良時代前半便所遺構 SK1124（南から）

0310 元岡・桑原遺跡群第 34 次調査(MOT-34)

所 在 地　西区大字元岡字石ヶ原
調査原因　大学移転用地造成
調査期間　2003.4.1 ～ 2003.8.12
調査面積　約 7,000㎡（古墳 3 基）
担 当 者　屋山　洋
処　　置　記録保存

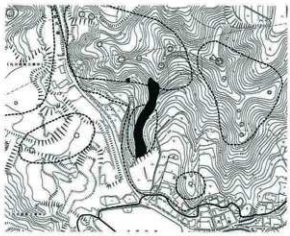
位置と環境　南に向かって延びる丘陵尾根上に位置する。1986 年に土砂採掘に伴い古墳 1 基の調査が行われている。今回は尾根上約 7000 ㎡で試掘を行った結果、1986 年の古墳を含めて 3 基の古墳が存在することを確認し、発掘調査を行った。以前畑として造成されていたためいずれの古墳も破壊が進んでおり、遺存状態は悪い。

検出遺構　1 号墳は 1986 年に調査されており、主体部は調査済みである。今回古墳北側の周溝を確認した。2 号墳は墳丘の半分が遺存している。墳丘径 14.3 m を測る。周溝の外径は 20.6 m を測る。墳丘は削り出しで盛土は 1 m程である。石室は旧表土から約 1.8 m掘り下げており、長さ約 2.5 m、幅約 1.7 m を測る。3 号墳は墳丘は削平されており今回の試掘調査で新しく確認した古墳である。石室遺存は悪く南側側壁はほとんど抜かれ、遺存している石も重機などで動かされている。北側側壁は入り口側がわずかに残っていた。石室床面の敷石は 2 面あり、下面は径 15 cm程の礫、上面は下面の凹凸を小石で埋めた後、径 5 cm程の礫を敷いている。

出土遺物　2 号墳は石室全体が掘り返されており、遺物がほとんど出土していない。墳丘や羨道から少量の須恵器が出土している。3 号墳石室も床面直上まで一度掘り返されており遺物は少ない。腰石の抜き跡から須恵器提瓶が 1 点と奥壁際床面からガラス玉と耳環が出土している。

ま と め　3 号墳上面は 6 世紀中頃と思われる。また、3 号墳南側 30 m で数点の須恵器が出土しており、他にも西側の畑内で古墳石材と思われる石を纏めて埋めた穴があり、他にも古墳が存在したが造成時に破壊されたものと思われる。

報告書刊行予定は 2005 年度である。



1．調査地点の位置（129 桑原 2782 1：8000）

2．調査区全景（西から）

3．3 号墳石室床面上面（東から）

0311 吉武遺跡群第 16 次調査（YST-16）

所 在 地	西区大字飯盛地内	**調査面積**	61.5㎡
調査原因	下水道工事	**担 当 者**	松浦 一之介
調査期間	2003. 5. 7 ～ 5. 16	**処　　置**	記録保存

位置と環境　吉武遺跡群は、早良平野を北流する室見川の中流域左岸にひろがる広大な扇状地に展開した遺跡群である。遺跡群は時期的に旧石器時代後期から中世にかけての複合遺跡であるが、特に弥生時代前期末から中期末、及び古墳時代中期にその隆盛を窺うことができる。今回調査した第 14 次調査地点は、早良平野における弥生時代の拠点集落「吉武高木遺跡」の北側に立地する幅 1 mのトレンチ状の調査区である。

検出遺構　調査はまず重機による表土層の除去から開始した。現地表から約 0.8 m掘削した標高 21.4 m で遺構面を検出した。検出した遺構は、竪穴住居跡、土壙、ピットなどである。また調査区の西半部は後世の撹乱により遺構が破壊されていた。竪穴住居跡は 2 棟を検出したが、トレンチ状の調査であるためその一部を検出したにすぎず、規模や主柱穴の配列など不明な点が多い。うち、SC－002 は、検出面からの深さ約 20 ㎝で床面に達した。床面には黄褐色粘土で貼床が施され、一部ベッドと考えられる段差が確認された。土壙は 8 基を検出したが、調査区が狭小なためいずれもその規模や平面形など不明確な点が多い。

出土遺物　出土遺物はコンテナケース 2 箱分で、弥生時代中期の土器の他、黒曜石の剥片などがある。

ま と め　今回の調査はトレンチ状の狭小な調査区であったため、検出した遺構について不明確な点が多い。遺構の時期はおおむね弥生時代中期である。南側には前期末から中期末にかけての拠点集落である吉武高木遺跡が立地しており、当該期の集落の一部であったと考えられる。

調査報告書は 2005 年度に刊行予定である。

1．調査地点の位置（93 都地 0405 1：8000）

2．Ⅰ区調査区全景（東から）

3．ＳＫ-005 遺物出土状況（北から）

0312 比恵遺跡群第 83 次調査(HIE-83)

所 在 地 博多区山王 1 丁目 152
調査原因 共同住宅建築
調査期間 2002. 5. 12 ～ 7. 15
調査面積 273㎡
担 当 者 荒牧 宏行
処　　置 記録保存

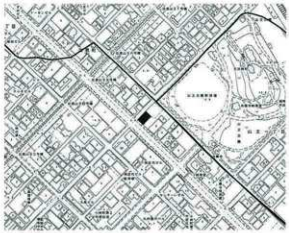
位置と環境　本調査地点は比恵遺跡群の北東際に立地する。遺構検出は地山の鳥栖ロームで行なった。地山の標高は南側で 4.9m 前後を測り、遺構は深く削平を受ける。北側は鳥栖ロームがわずかに下降し竪穴住居跡が比較的良好に残る。

検出遺構　検出した主な遺構は弥生中期以降の竪穴住居跡 2 軒、小型方形土壙 1 基、貯蔵穴 1 基、井戸 1 基、掘立柱建物跡 3 棟以上、弥生終末の溝 1 条、隣接する第 71 次調査で検出された中世の溝の延長が検出された。並列した 2 棟の竪穴住居跡は南北に棟を向け、東に入口を構える。全体が検出された 1 棟は 3.1 × 4.8m の長方形プランを呈し、壁高約 30 ㎝の遺存である。掘立柱建物跡は竪穴住居跡の南側で検出され、最も東側で検出された 1 棟は梁行 2 間（4.4m）を測り、棟持ち柱と考えられる柱穴が検出された。桁行は 1 間のみの検出であるが、大型建物跡の可能性がある。柱穴には細長い柱抜き取りの掘削がみられる。中世の溝は本調査区において 3 方向に分岐し、水田水路と思われる。

出土遺物　出土遺物は少なく、総量コンテナ 13 箱が出土した。弥生中期～後期の遺物が大半を占める。

ま と め　比恵遺跡群の北東方向へ下降していく台地落ち際が明らかになった。東側にかけては隣接する第 71 次調査同様に遺構の削平が深く、近くには古代官道が推定されている。弥生時代の大きな柱抜き穴のある掘立柱建物跡は台地落ち際の遺構が疎となった位置に独立したような配置で構築され注目される。

報告書は 2004 年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（37 東光寺 0127 1：8000）

2．調査区東半全景（東から）

3．柱抜き穴のある掘立柱建物（南から）

0313 那珂遺跡群第 88 次調査（NAK-88）

所 在 地	博多区那珂２丁目 83-2 外	調査面積	86.7㎡
調査原因	共同住宅建築	担 当 者	大塚 紀宣
調査期間	2003.5.12 ～ 5.27	処　　置	記録保存

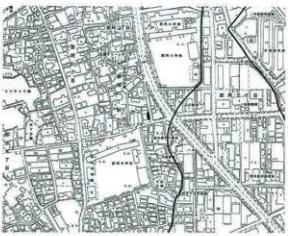
位置と環境　比恵・那珂遺跡群が立地する台地の南東端部に位置する。調査地点の標高は約 8 mである。調査区周辺は本来は台地端部の緩斜面であったと考えられ、現況でも東側に緩く傾斜する地形を呈する。周辺は宅地化による造成が進み、丘陵上面はかなりの削平を受けているとみられる。敷地の一部を駐車場として切り下げるため、当該範囲の調査を実施した。

検出遺構　調査区の北側部分で溝状遺構（SD-01）を検出し、南側部分で柱穴群などを検出した。全体に削平や攪乱を受け、特に南側部分では攪乱による影響が大きい。溝状遺構は調査区の北側部分に南北方向に延びるもので、幅 3 m、検出時の深さ 1 m～ 1.2 mを測る。溝床面は平坦で、側面は下部でほぼ直立して壁面上部は開き気味に立ち上がる。東壁側面に柱穴列と見られるピットが並ぶ。柱穴群は調査区南側部分で検出され、多くが径 50 ㎝前後で、建物が存在していた可能性が高いが、調査区内で建物の規模や方向が確認されたものはない。

出土遺物　出土遺物の多くは溝状遺構から出土し、弥生土器、須恵器・土師器を中心とする遺物が出土している。須恵器は完形のものが多く、5 世紀後半～ 6 世紀後半のものを主とする。弥生土器は小片が多く、丘陵上から流れ込んだものと考えられる。また溝内部から滑石製の小型の勾玉が検出されている。

ま と め　溝状遺構は調査範囲内で一部しか検出できず、全体像は不明である。形状からみて居館の周囲に巡らされた区画溝や、古墳の周溝の可能性もある。出土遺物の時期から、5 世紀後半～ 6 世紀前半の遺構と考えられる。

調査報告書は 2006 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（24 板付 0085 1：8000）

2．調査区全景（南から）

3．SD－01（東から）

0314 五十川遺跡群第 11 次調査（GJK-11）

所在地	南区五十川２丁目地内	調査面積	1,368㎡
調査原因	道路建設	担当者	吉武　学
調査期間	2003. 5. 15 ～ 2004. 1. 31	処置	記録保存

位置と環境　五十川遺跡群は御笠川と那珂川に挟まれた南北約 800 m、東西 240 m、標高 9 ～ 11 mほどの低丘陵上に立地し、鞍部を挟んで北に那珂・比恵遺跡群、谷部を挟んで南に井尻Ｂ遺跡群が接する。この低丘陵の南端を貫通して新設される道路建設に伴い、第 10 次調査に継続して実施した。

検出遺構　調査区は前年度調査のＣ区を挟んで南北に分かれる。北側のＥ区では弥生時代中期初頭の貯蔵穴 3、古墳時代前期の方形周溝墓 2、室町時代の溝 2のほか、土坑、ピット多数を検出した。

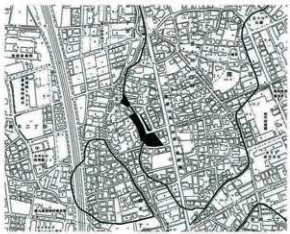
南側のＦ・Ｇ区では弥生時代前期～中期の貯蔵穴 21・木棺墓 4・甕棺墓 10・土壙墓 1・円形竪穴住居跡 2・弧状溝 2、古墳時代前期の方形竪穴住居跡 4、弥生～古墳時代の土坑・柱穴多数、奈良時代の溝 1、室町時代の溝 5・掘立柱建物 1・柵列 1・土坑 1 を検出した。

出土遺物　弥生土器、土師器等の土器類を中心に、管玉片、磨製石剣片、磨製石鏃片、石庖丁、黒曜石製石器等が出土した。コンテナ 100 箱。

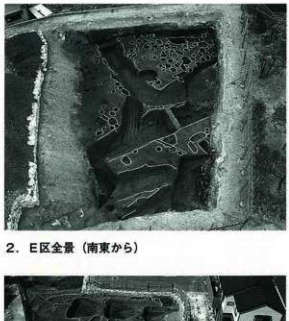
ま と め　貯蔵穴は断面袋状を呈し、調査区内で環状に分布する。弥生時代中期に下るものが多く、前期に遡るものは少ないようである。弥生時代の墓群は丘陵の縁に沿って帯状に分布する傾向にあり、甕棺墓は大半が弥生時代中期前半に属し、木棺墓は前期に遡る可能性がある。

中世の溝は北側から伸びてきた溝が東に折れ、南側の堀状の溝（幅 4.5 m、深さ 2 m弱）との間に陸橋を造る。陸橋部には南から伸びた 2条の溝が東へ折れながら進入しており、おそらく崖下からの登坂道と考えられる。溝で囲まれる区画内には中世の遺構は少なく、掘立柱建物・柵列・浅い溝・大きめの廃棄土坑各 1 を確認したのみである。出土遺物も少ない。

更に調査が継続するため、報告書は 2006 年度以降に刊行予定。



1．調査地点の位置（24 板付 0088 1：8000）



2．Ｅ区全景（南東から）

3．Ｆ区南半部全景（南東から）

0315 次郎丸高石遺跡第６次調査（JRK-6）

所 在 地 早良区次郎丸６丁目地内
調査原因 道路建設
調査期間 2003.5.21 ～ 2004.1.30
調査面積 1,307㎡
担 当 者 池田 祐司
処　　置 記録保存

位置と環境　早良平野の中央に位置し、室見川の支流で金屑川中流域西岸の標高10ｍ前後の低位段丘上にあたる。現況は１ｍ前後の盛り土が成された宅地である。現在の道路等に区切られ、３区に分けて調査を行った。

検出遺構　１区では盛土、旧耕作土を除去すると暗茶褐色粘質土が０から20㎝の厚さで堆積し、これを除去した黄茶褐色粘質土上面で弥生時代中期前半の土坑、掘立柱建物、ピット等を確認した。２区では暗褐色土でこれを覆土とするピットを確認したが、遺物はない。

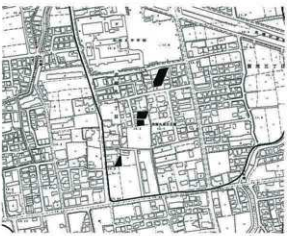
３区では現在の方形プランの屋敷地をめぐる溝の一部、土坑等を確認した。

出土遺物　１区で弥生時代中期の土器が出土している。３区では近世から近代の遺物が出土した。

ま と め　１区北に隣接する１次調査でも同様の遺構、遺物が確認されており、この時期の集落が東側に広がると考えられる。

３区は近世までに形成された１町規模の屋敷地の一角であろう。

調査報告書は2004年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（83 野芥 2447 1：8000）

2．１区北半全景（南から）

3．土坑ＳＫ０１（南から）

0316 那珂遺跡群第 89 次調査（NAK-89）

所 在 地　博多区東光寺町 1 丁目 373
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2003. 5. 19 ～ 5. 27
調査面積　15.8㎡
担 当 者　本田 浩二郎
処　　置　記録保存

位置と環境　那珂遺跡群第 89 次調査地点は、那珂遺跡群の北端部近くに位置しており、西側には第 87 次調査区、南側には東光寺剣塚古墳が存在する。調査地点の現状は宅地で、遺構面の標高は 8.9 m前後を測る。

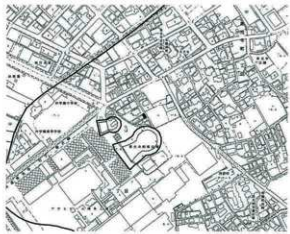
検出遺構　調査では、弥生時代中期の小児甕棺 2 基、中期後半から後期前半にかけての甕棺墓 5 基、弥生時代後期後半の土坑墓 1 基、東光寺剣塚古墳の第二周溝の一部を検出・調査した。甕棺はいずれも合口式で、埋置形態は水平に近いものから斜位の状態のものが検出される。小児甕棺は墓坑が浅いため、上半部が削平により失われるものが多い。これらの甕棺墓は大きく三時期に分けられ、時期毎に主軸をそろえて埋葬されていることが検出状況から推測される。甕棺内からの人骨・遺物の出土はなかった。

古墳周溝内からは、古墳本体方向から倒れ込んだ状態で検出されており、埴輪列が周溝内側に存在していたことが復元できる。出土した埴輪はいずれも円筒埴輪であり、形象埴輪などの破片は出土していない。

出土遺物　遺物としては弥生土器・土師器・円筒埴輪・須恵器・黒曜石剥片などがコンテナケース 25 箱分出土した。

ま と め　今回の調査は、発掘面積が 15.8 ㎡と限られた範囲であったが、甕棺 7 基、古墳周溝と濃密な遺構分布状況で検出された。今回の調査範囲内では検出されなかったが、本調査地点付近は弥生時代終末から古墳時代初頭にかけての並列溝が検出される推定線上に位置しており、今後の周辺の開発には十分な注意が必要である。

調査報告書は 2005 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（37 東光寺 0085 1：8000）

2．剣塚古墳周溝遺物出土状況（南から）

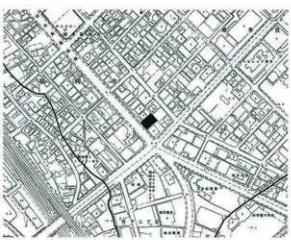
3．甕棺墓検出状況（北西から）

0317 比恵遺跡群第 84 次調査(HIE-84)

所在地	博多区博多駅南 5 丁目 42	**調査面積**	198㎡
調査原因	共同住宅建築	**担当者**	中村 啓太郎
調査期間	2003. 5. 22 ～ 2003. 6. 5	**処置**	記録保存

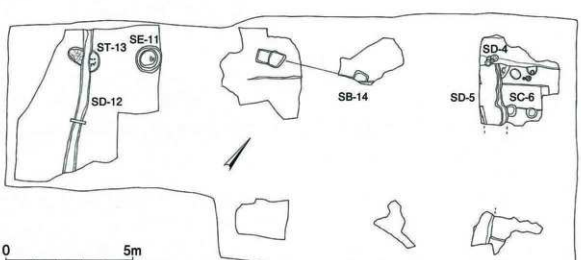
1．調査に至る経過

平成 15 年 4 月 30 日、立川順一氏より埋蔵文化財課へ共同住宅建設に伴う福岡市博多区博多駅南 5 丁目地内における埋蔵文化財の事前審査について依頼がなされた。これを受けた埋蔵文化財課では事業計画地が周知の埋蔵文化財包蔵地である比恵遺跡群に含まれることから試掘調査が必要であるとの判断がなされた。同年 5 月 13 日、試掘調査を行い、その結果、柱穴等の遺構が検出された。この成果をもとに協議を重ねたが現状での設計変更は不可能との判断から記録保存のための発掘調査を行うこととなった。

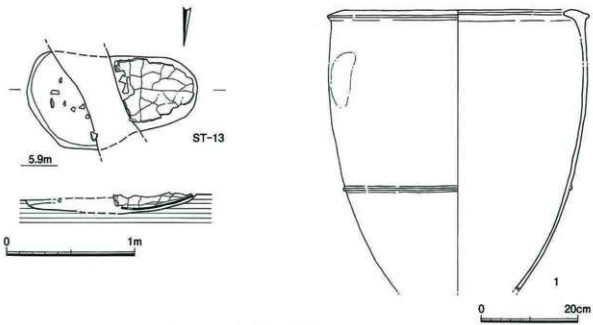


1図　調査地点の位置（37 東光寺 0127 1：8000）

2図　調査区位置図（1：1000）



3図　遺構配置図（1：150）



4図　ＳＴ-13及び出土遺物実測図（1：30、1：3）

2．位置・環境

比恵遺跡群は福岡平野の中央に位置し、平野を流れる御笠川と那珂川に挟まれた丘陵上に立地する。また南に接して那珂遺跡群が位置する。84次調査区は遺跡の南西部に立地し、遺構検出面で標高約5.5ｍを測る。遺構は鳥栖ローム層上で検出したが、削平、攪乱が著しい（1・2図）。

3．調査の記録

甕棺墓1基、竪穴住居？1軒、掘立柱建物1棟、井戸1基、溝3条、柱穴を検出した（3図）。

ST-13（4・8図）

拡張した調査区西に位置する甕棺墓である。中央部をSD-12に切られる。削平が著しく、下甕のみの遺存であるが本来は合口であろう。現状で墓壙は長さ134㎝、幅76㎝を測り、主軸方位はＮ－84°－Ｅ　にとる。埋置角はほぼ水平である。

上甕は細片のみで詳細不明。

下甕（4図1、10図上）は復元口径55.0㎝を測り、底部を欠く。器高は70㎝程度か。口縁は内側に張り出し外傾する。砲弾形の胴部中位には山形凸帯が1条巡る。風化が著しく調整は不明。

SC-6

調査区北東に位置する。竪穴住居の可能性があるが四方を切られ規模は不明。遺物は弥生土器、土師器の細片が出土した。

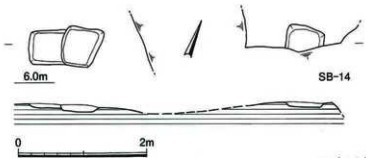
SB-14（5図）

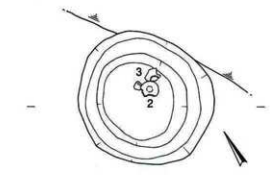
現状で1間分を確認した。各柱穴間は3.5～3.9mを測る。攪乱された部分に柱穴が存在する可能性がある。柱穴は方形を呈し、一辺が55～60㎝を測る。遺物は土師器の細片が出土した。

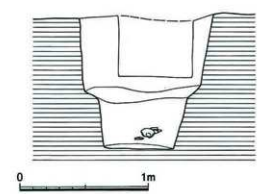
SE-11（5図）

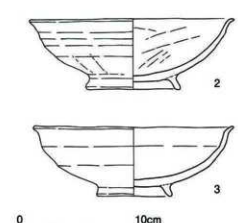
拡張した調査区西に位置する。径100㎝前後の円形を呈し、深さ105㎝を測る。深さ50㎝で段が付く。

出土遺物（5図2･3、10図下）　2は黒色土器Ａ類の碗で口径15.9㎝、器高5.6㎝を測る。調整は外面がナデ、内面はヘラミガキを施す。3は土師器の碗で復元口径15.6㎝、5.5㎝を測る。器面の風化により調整不明。









5図　SB-14・SE-11 及び出土遺物実測図
(1：60、1：30、1：3)

SD-4

調査区北東に位置し、東西方向に延びる。SD-5、SC-6 を切る。深さ 15 ㎝を測る。遺物は須恵器の甕、蓋坏、土師器の細片が出土した。古墳時代後期以降の所産であろう。

SD-5

調査区東に位置し、南北方向にに延びる。SD-4 に切られ、SC-6 を切る。幅 100 ㎝、深さ 20 ㎝を測る。遺物は須恵器、土師器の細片が出土した。

SD-12

拡張した調査区西側に位置し、ST-13 を切って南北方向に延びる。幅 40 ㎝、深さ 15 ㎝を測る。遺物は弥生土器が出土しているが、これは ST-13 等の甕棺墓を破壊した際の混入であろう。

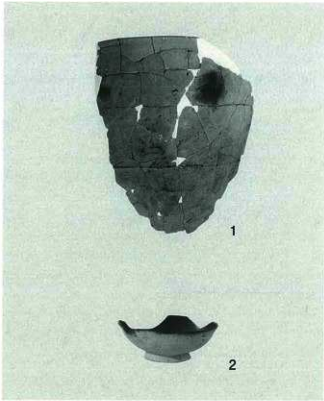
4　まとめ

今回の調査は攪乱が多く、調査面積に比べ確認できた遺構、遺物は少ないが、調査の少ない南西部において甕棺墓が確認できたことは重要である。検出したのは 1 基のみであるが他は削平により消滅したのであろう。またこれ以降古墳時代、古代の集落が展開した考えられるが、東側の第 23、73 次調査成果からほぼその際とおもわれる。

6図　調査区全景（西から）

7図　西部拡張区全景（南東から）

8図　ＳＴ－13（北から）



10図　ＳＴ－13・ＳＥ－11出土遺物

9図　ＳＥ－11（南から）

0318 箱崎遺跡第 40 次調査 -18 区 (HKZ-40)

所 在 地	東区箱崎 1 丁目 3・4	**調査面積**	1,360㎡
調査原因	土地区画整理	**担 当 者**	佐藤 一郎・赤坂 亨
調査期間	2003. 5. 14 ～ 2004. 1. 9	**処　　置**	記録保存

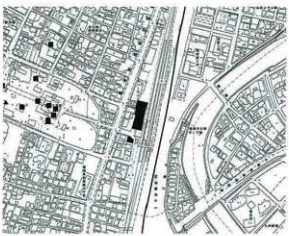
位置と環境　18 区の調査地点は宇美川下流域、多々良川河口左岸の古砂丘上に立地する箱崎遺跡の南東部、式内社筥崎宮の東 250 mに位置する。

検出遺構　遺構面は表土（撹乱層）直下、標高 3 m前後の砂層上面で確認した。検出した遺構は 10 ～ 15 世紀の溝 11 条、井戸 34 基、土坑 41 基、柱穴・ピット状遺構 830 個である。井戸ＳＥ 01 は石組の井戸枠をもつ。径 20 ～ 30 cmのやや扁平な石を組み上げたもので、3 段残存する。石組の下部には瓦片を放射状に 1 枚ずつ敷き詰め、そのさらに下部には桶枠が据えられる。

出土遺物　井戸枠の底面から中国元青花磁（碗か）の底部片が出土した。内底見込には龍が描かれる。遺構の時期は 14 世紀後半から 15 世紀前半とみられる。18 区からの出土遺物はコンテナ 120 箱分。

ま と め　南北長 100 m、東西幅 15 mの長大な調査区であるが、井戸が集中する地域と柱穴が集中する地域が 10 mごとに交互に展開していることがつかめた。そのいずれも疎らとなっている中央部では平行な溝が複数みられ、路面は削平されて残っていないが、道路に伴う側溝の可能性が考えられる。各遺構の出土遺物から個々の年代を決定することによって、10 ～ 15 世紀の町屋の変遷を追うことが可能となるであろう。

調査報告書は 2006 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（34 箱崎 2639 1：8000）

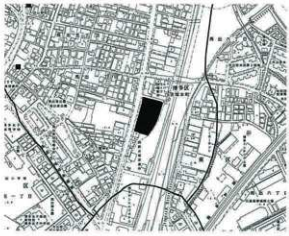
2．ＳＥ 01 井戸（南から）

3．調査区南側（北から）

0318 箱崎遺跡第 40 次調査 -19 区 (HKZ-40)

所 在 地 東区馬出 1 丁目 30
調査原因 土地区画整理
調査期間 2003. 7. 10 ～ 2004. 3. 25
調査面積 2,167.17㎡（古墳 3 基）
担 当 者 佐藤 一郎・赤坂 亨
処　　置 記録保存

位置と環境　19 区は箱崎遺跡の南端に位置する。JR 鹿児島本線と県道浜新建堅粕線に挟まれた宮崎土地区画整理事業地の南端に当たる。北側では箱崎遺跡第 22 次調査 4 区、第 26 次調査 6 区の調査が行われている。



1．調査地点の位置（35 箱崎 2639 1：8000）

検出遺構　土砂を場内で反転するため、まず調査地北半分（約 1000 ㎡）をバックホウで約 150 ㎝の表土を除去することから始めた。遺構面は地山である明褐色砂層で設定した。埋め戻した後 10 月から 1 月まで中断をはさみ、1 月より調査地南半分（約 1100 ㎡）に着手。3 月 30 日に終了した。

弥生時代から古墳時代のものとして方形周溝墓 2 基、葺石をもつ円墳 1 基、石室床面の残った円墳 1 基、小石室 1 を、10 世紀から 13 世紀のものとして井戸、方形竪穴、土坑、柱穴を、時期不明遺構として石室状遺構 2 基を確認した。

2．1 号墳全景（北から）

出土遺物　出土遺物は弥生土器、古墳時代土師器、直刀、鉄鏃、鎌、古代土師器、かわらけ、輸入陶磁器をコンテナ 48 箱分検出した。また撹乱よりイスラム陶器残片が出土している。

ま と め　弥生終末の方形周溝墓から古墳時代の石室をもつ古墳まで、それぞれが切りあうことなく存在しており、一種の墓域として利用され続けてきたことが明らかになった。また以前の調査結果同様、箱崎遺跡南側では 10 世紀に利用が開始されることを確認できた。その後は 13 世紀までは継続した土地利用が続くようであるが、箱崎遺跡北側に比べると遺跡密度は低い。撹乱からの出土ではあるがイスラム陶器が発見されたことは箱崎遺跡の性格を考える一材料となるだろう。

3．方形周溝墓全景（南から）

調査報告書は 2006 年度に刊行予定である。

0319 宝台遺跡群第3次調査(TKD-3)

所在地	城南区樋井川4丁目361	調査面積	66.5㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	星野 惠美
調査期間	2003.5.28～6.4	処置	記録保存

1．調査に至る経緯

2003年4月28日、木本雅隆氏より福岡市教育委員会埋蔵文化財課に城南区樋井川4丁目361番における専用住宅建設に伴う埋蔵文化財事前審査申請書が提出された。これを受け、埋蔵文化財課では同年5月20日に試掘調査を実施し、21日に立会を行った結果、土壙、ピット等の遺構が検出されたので、記録保存のための発掘調査を実施することとなった。

2．遺跡の立地と環境（1・2図）

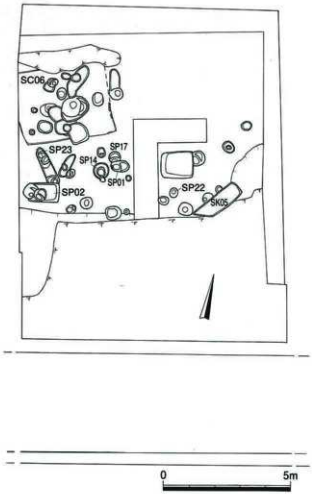
宝台遺跡は油山山塊から北方の博多湾に向かってのびる低い丘陵群の一つに立地する。丘陵群は樋井川水系の支流や支谷によって開析され、流域には小さな沖積地が形成されている。第3次調査地点は宝台遺跡の北端に位置する。南側は宅地化される以前は沼地であり、小さな谷が形成されていた。その谷を隔てた地点で第1次調査が行われ、弥生時代中期の集落が確認されている。北東側では第2次調査（長尾遺跡）が行われた。東側には谷が形成されていたが、団地の造成等により宅地化され、本来の地形が失われている。明治33年の地図からは、調査区が南側から延びてきた細い丘陵上に位置し、北側と南側には細い谷が入り込み、狭い台地であったと考えられる。標高は26.8mを測り、地山は花崗岩風化土である。

1図　調査地点の位置（63 長尾 0208 1：8000）

2図　調査区周辺図（1：3000）

3．遺構と遺物（3～5図）

調査区は緩やかに南側に向かって傾斜し、SK05付近から南側は大きく削平される。地山は花崗岩風化土であり、その上には厚さ30cm程の盛土がある。遺構の遺存状況は悪く、住居は貼床部分しか遺存していない。検出した遺構は古代の土壙1基、弥生時代中期の方形竪穴住居1軒、土壙、ピットである。調査区の北東隅には遺構は検出できなかった。



3図　第3次調査遺構配置図（1：150）

4図　調査地点全景（南から）

5図　遺構全景（南から）

ＳＣ06（3～8図）

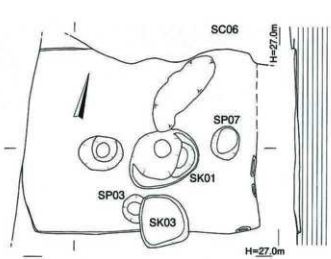
調査区北西側に位置し、貼床面が遺存している方形プランの竪穴住居である。北側は配管により削平され、西側は一部調査区外に延びる。現況で東西約3.6m、南北約2.9m、壁の残存高は約10㎝を測る。中央には110×90㎝、深さ35㎝の隅丸方形に近い土坑（SK01）が位置し、それを挟んで東西に2本の主柱穴（SP07）を配する。主柱穴は深さ37～45㎝を測る。南側中央に位置する径45㎝、深さ40㎝の小ピット（SP03）は出入口の可能性が考えられる。南東隅には周溝状の細い溝を検出した。貼床は黄褐色を呈し、部分的に黒褐色を呈する花崗岩風化土であり、土坑、ピットは黒褐色土と褐色土の覆土であった。出土遺物から時期は弥生時代中期と考えられる。1～3は甕の口縁部片、4は壺の胴部片である。5は粘板岩製の仕上げ砥石で、4面使用され、1面には筋状の窪みが遺存する。

ＳＫ05（6・8図）

調査区南東側に位置し、東側と南側は削平される。現存で長さ2.0m、幅55cm、深さは15㎝である。覆土は灰色を呈する。遺物は黒色土器Aが出土しており、時期は平安時代と考えられる。13は黒色土器Aの底部片で、内面は黒色、外面は橙色を呈する。

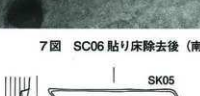
その他の出土遺物（8図）

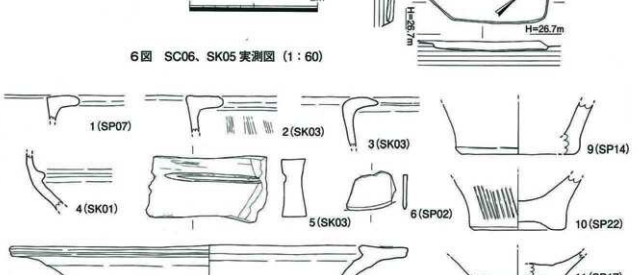
7・8はSP01出土の弥生時代の壺である。8は胴部にM字状突帯をもち、外面に赤色顔料を塗布する。内面にも一部赤色顔料がみられる。9～12はピット出土の弥生時代の底部片である。6は攪乱出土で、玄武岩製の石包丁の破片である。14は南側の削平部分から出土した黒色土器Aの底部片である。体部はわずかに屈曲し、外面は橙色を呈する。



6図　SC06、SK05 実測図（1：60）

7図　SC06 貼り床除去後（南から）





8図　出土遺物実測図（1：3）

4．まとめ

宝台遺跡第1次調査では弥生時代中期中葉から後葉を中心とした墓域を伴った集落が確認され、宝台遺跡が西側に位置する丸尾台遺跡とともに樋井川流域の中核的な存在であったことは出土遺物等から窺える。今回の第3次調査区は第1次調査区とは谷を隔てており、立地的には独立した状況を呈している。また、北東側の第2次調査では弥生時代中期中葉から後葉の遺物が出土しており、第3次調査区は第2次調査区とともに小単位の集落を形成していた可能性が考えられる。宝台遺跡は宅地化に伴って大きく地形が改変され、現況では丘陵と谷の関係が判別し難くなっている。今回調査を行った集落の中心と第1次調査の大集落との関係は今後の周辺の調査を待って、改めて検討したい。

0320 七隈古墳群C群第2次調査(NNK-C-2)

所 在 地 城南区梅林4丁目地内
調査原因 道路建設
調査期間 2003.5.19～6.2
調査面積 27.5㎡（古墳1基）
担 当 者 藏冨士 寛
処　　置 記録保存

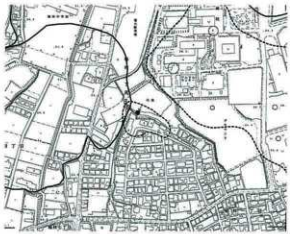
位置と環境　早良平野の東縁に存在する油山山塊から延びる丘陵一帯には多くの群集墳が営まれており、七隈古墳群もその内の一つである。C群は2基が確認されており、「弓池」と呼ばれる溜池の南側斜面に存在する。

検出遺構　古墳1基のみを確認した（C群第2号墳）。主体部は竪穴式石槨で、長さ1.7m、幅0.8mを測る。壁面には腰石の使用が認められる。周溝の一部が残っており、それを元にすれば、墳形は長軸5m、短軸3mの楕円形を想定できる。

出土遺物　表土中から土師器、須恵器がわずかに出土した。

ま と め　C群第2号墳からは時期を明確に示す遺物が出土していない。しかし、壁体の構築方法などをみれば、横穴式石室との共通性を強く窺わせるものであり、それを勘案すれば、近接して存在し、主体部に横穴式石室を有する1号墳の築造時期（5世紀末葉）を前後するものといえよう。

尚、報告書は2003年度（市報告第803集）に刊行した。



1．調査地点の位置（74 七隈 2807 1：8000）

2．C群第2号墳全景（北西から）

3．主体部（南東から）

0321 比恵遺跡群第 85 次調査（HIE-85）

所 在 地　博多区博多駅南 3 丁目 58
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2003. 6. 4 ～ 7. 31
調査面積　290㎡
担 当 者　長家　伸
処　　置　記録保存

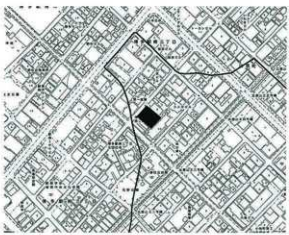
位置と環境　比恵遺跡群は福岡平野の中央部を北流する那珂川と御笠側に挟まれた洪積丘陵上に立地する。本調査地点は丘陵の北西側先端部分で、台地の落ち際に近いところである。また申請地は 1989 年に第 26 次調査として調査が行われており、今回は事業計画の変更に伴い既調査の残地部分を対象地として調査を行っている。

検出遺構　前回の 26 次調査では丘陵上において中世溝、弥生時代終末以降の溜池状遺構、弥生時代前期の竪穴住居跡・貯蔵穴・溝・土坑等を確認している。また西側の谷部に至る傾斜面上には弥生時代前期後半を中心とした包含層が形成されており、多くの土器・石器・木器が出土している。今回も出土遺物は弥生時代前期後半～中期前半にまとまっており、丘陵上においては竪穴住居跡 1 棟、貯蔵穴 1 基、溝 1 条、大型土坑 1 基が確認され、調査区西側には谷部に包含層が形成されている。溝は包含層を切り込んで掘削されており、井堰状の施設を造っている。

出土遺物　土器は大半が弥生時代前期後半～中期前半に位置付けられるもので、この他石器・木器とあわせてコンテナ 32 箱分出土している。

ま と め　今回も第 26 次調査同様、弥生時代前期後半～中期前半を中心とした遺構・遺物を検出した。また西側で確認した谷部については調査区北西隅で台地が西側に大きく張り出しており、縁辺部分に凹凸を有する状況が明らかとなった。

調査報告書は 2004 年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（37 東光寺 0127 1：8000）

2．西側斜面完掘状況（北から）

3．丘陵部分全景（南から）

0322 西新町遺跡第 16 次調査(NSJ-16)

所 在 地　早良区高取 1 丁目 105 外
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2003.5.28 ～ 8.12
調査面積　394.48㎡
担 当 者　松浦 一之介
処　　置　記録保存

位置と環境　西新町遺跡は早良平野の東北端部、博多湾に面する縄文時代晩期以降に形成された古砂丘上に立地し、調査地点は本遺跡群の西南部に位置する。

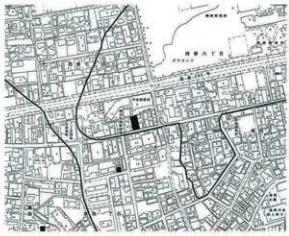
検出遺構　調査は排土処理の都合上、1・2 区に分けて行った。重機により表土及び包含層上半を除去した後、人力で包含層を下げて遺構検出した。確認が非常に困難で本来の遺構面よりかなり下がった標高約 3 m付近で遺構を認定した。遺構面は撹乱が少なく、保存状態は良好であった。検出した遺構は、弥生時代の竪穴住居址 22 基、土坑、ピット、性格不明遺構、近世から近代にかけてと考えられる井戸、土坑などである。

竪穴住居址は、内 20 基が一辺 4.4 × 3.6 m前後の長方形平面を、2 基が直径約 4.8 mの円形平面を呈する。方形住居址の主柱穴は 2 本のものが多く、円形住居址のそれは環状に巡ると考えられる。

出土遺物　包含層及び住居址の覆土からは弥生土器の他、砂岩製砥石、滑石製魚錘、同未製品、滑石剥片、不明鉄器、古墳時代の土師器などが出土している。またＳＣ-017 住居址からは、弥生土器片の下からソーダ石灰ガラス製のトンボ玉が 1 点出土した。また包含層からは高取焼やハマなどの窯道具が出土しており、高取焼東皿山に関連する資料と推定される。

ま と め　出土遺物から弥生時代の遺構の年代は、中期～後期と考えられる。西新町遺跡 8 次・9 次調査で確認された同時期の集落址の一部であり、出土した漁錘やその未製品、滑石剥片や砥石などから漁撈具の生産遺跡と考えられる。またソーダ石灰ガラス製トンボ玉の分析及び系譜などについては今後の検討課題である。

報告書は 2004 年度に刊行の予定である。



1．調査地点の位置（72 荒江 0240 1：8000）

2．1 区調査区全景（南から）

3．2 区調査区全景（南から）

0323 那珂遺跡群第 90 次調査（NAK-90）

所 在 地　博多区那珂 1 丁目 91
調査原因　個人住宅建築
調査期間　2003. 6. 10 ～ 6. 23
調査面積　47.5㎡
担 当 者　本田 浩二郎
処　　置　記録保存

位置と環境　那珂遺跡群第 90 次調査地点は、那珂遺跡群の北東側に位置しており、遺跡範囲内でも調査例の少ない地域である。調査区は低丘陵の東側斜面頂部付近に位置しており、遺構面である鳥栖ローム層の標高は 7.8 m前後を測る。

検出遺構　調査では、弥生時代後期前半の時期が考えられる竪穴住居 1 軒（SC-01）、六世紀前半代の竪穴住居 1 軒（SC-04）、六世紀後半代の竪穴住居 1 軒（SC-02）、八世紀代の時期が考えられる竪穴住居 1 軒（SC-03）、古墳時代初頭の井戸遺構 1 基（SE-11）、建物としてはまとめられない柱穴などの遺構を検出・調査した。

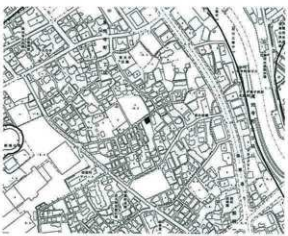
六世代前半代の竪穴住居は一辺 8 m前後の大型住居（SC-04）で、周囲にはベット状遺構を伴う。六世紀後半代の住居（SC-02）は一辺 5.2 m前後を測り、主柱穴は四本柱である。SC-03 は一辺 3.4 m前後を測り、住居内では柱穴は検出されない。いずれの住居も調査区内に一部が掛かるのみであり、完掘できたものはない。

SE-11 は SC-01 廃絶後に掘削され、これに重複して SC-02 が構築されており、井戸上部の床面はやや窪んだ状態で検出される。

出土遺物　遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・黒曜石剥片・ガラス玉・滑石製品などがコンテナケース 3 箱分出土した。

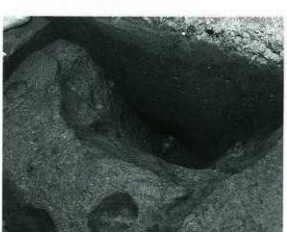
ま と め　第 90 次調査は、調査面積が 47.5 ㎡と限られた範囲であったが、竪穴住居 4 軒・井戸遺構 1 基と濃密な遺構分布状況が確認されており、周辺にも同様の遺構密度で遺構が存在していることが想定される。また、住居などの遺構は表土直下に良好な状態で残存しており、今後の開発に注意を要する地点の一つである。

調査報告書は 2005 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（37 東光寺 0085 1：8000）

2．調査区全景（東から）



3．井戸完掘状況（西から）

0324 比恵遺跡群第 86 次調査(HIE-86)

所 在 地　博多区山王 1 丁目 104-1 外
調査原因　老人ホーム建築
調査期間　2003.6.26 ～ 7.2
調査面積　115.6㎡
担 当 者　大塚 紀宜
処　　置　記録保存

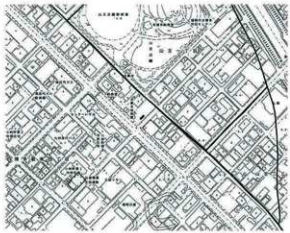
位置と環境　比恵遺跡群の東側部分に位置する。現況で標高 6 m前後、遺構面の標高は 4.5 m前後である。周囲は造成、都市化が進み、旧地形を伺うことができない。

検出遺構　造成土、旧耕作土の下で遺構面を検出する。遺構面は調査区東側半分でほぼ水平面となり、西側半分で西に緩く傾斜する。遺構面土質は東側部分で明褐色ローム層、西側の低い部分で灰白色の八女粘土層である。西側では遺構面上に水生の黒色粘質土が堆積し、遺物包含層を形成する。東側平坦部分では不整形の遺構が検出され、深さ 3 ～ 10 cmと浅く、床面に凹凸が見られる。西側斜面部分ではピット群が検出され、木根と見られるものを除いては径 30 cm程のものが多く、しっかりした作りになっている。

出土遺物　総量でパンケース 2 箱相当である。遺物は遺構内からは土器細片のみ検出されている。西側に堆積する包含層から弥生時代中期の土器、古墳時代の土師器・須恵器が出土している。

ま と め　周辺の調査結果から見て、当初今回の調査区内に奈良時代の官道が通ると考えられ、関連遺構が検出される可能性が高かったが、調査の結果それと断定できる遺構は検出されなかった。東側平坦面の不整形土坑が関連する遺構の可能性もあるが、これまで検出されているものと様相が異なり、断定できない。また調査区西側は緩く傾斜しており、南北に延びる谷地形の一部と考えられる。

調査報告書は 2006 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（37 東光寺 0127 1：8000）

2．調査区全景（西から）

3．調査区西側部分（西から）

0325 飯氏古墳群A群第2次調査(IIK-A-2)

所 在 地　西区大字飯氏字松尾635外
調査原因　確認調査
調査期間　2003.6.13～7.8
調査面積　25.4㎡（古墳1基）
担 当 者　蔵冨士　寛
処　　置　埋め戻し保存

位置と環境　兜塚古墳（飯氏古墳群A群第1号墳）は高祖山から北へ派生する標高40m程の低丘陵上に位置する。

検出遺構　調査は墳丘形態および築造の状況を明らかにすることを目的とし、4本のトレンチを設定し、発掘調査を行った。その結果、墳丘裾部に設けた第1・2トレンチでは墳丘裾部の葺石を検出し、第3トレンチでは第1段目テラスの状態を明らかにした。そして、後円部の頂上に設定した第4トレンチでは、墳丘盛土および地山整形の状況を確認できた。

出土遺物　第1・2トレンチからコンテナ2箱程の埴輪片が出土した。埴輪片はすべて円筒埴輪である。

ま と め　前方部の形態を明らかにすることはできなかったが、後円部については、第1・2トレンチの所見より、平成6年に実施した前回調査に基づく墳丘復元ラインに沿うようである。従って前回調査における指摘の通り、後円部は径43m程に復元できる。

調査報告書は2004年度に刊行予定である。

1．調査地点の位置（121 飯氏 0698 1：8000）

2．第1トレンチ葺石検出状況（北から）

3．第2トレンチ葺石検出状況（西から）

0326 広瀬遺跡第1次調査(HRS-1)

所 在 地　早良区大字西、内野8丁目地内　　調査面積　6,247㎡
調査原因　圃場整備　　担 当 者　加藤良彦
調査期間　2003.6.16～12.26　　処　　置　記録保存

位置と環境　広瀬遺跡は福岡市の西部、早良平野を貫流する室見川の上流部東岸の河岸段丘上に立地する。南北を河川に開析され、北東に延びる舌上台地上の標高78～89mに位置している。

検出遺構　遺構は耕作土下の黄褐色・黒灰色シルトの縄文時代早期～晩期包含層上面で検出される。検出した遺構は縄文時代の風倒木痕120・集石炉1・貯蔵穴3・土壙39・柱穴、中世の溝7・焼土壙41・炭焼窯3・土器焼成壙1・土壙20・柱穴多数、近世の岩石処理壙・柱穴多数である。

出土遺物　出土遺物として旧石器剥片・縄文早期～晩期土器石器・中世貿易陶磁器・土師器など，コンテナ15箱がある。

ま と め　縄文包含層からは早期近畿～東海地方の高山寺式の影響を強く受けた撚糸文土器がまとまって出土し、当該地との関係を示す貴重な資料となっている。

中世では調査区先端近くで12世紀後半～13世紀初の幅2.5m、一辺50m前後の方形区画溝が検出され、南中央に陸橋を設け、付近には貿易陶磁器と多量の土師器坏・皿廃棄の祭祀跡がある。溝の内側には2×3間の掘立柱建物をはじめ多数の柱穴と土壙が検出され、地域豪族の居館と考えられる。また、2.3×1.8m・深さ10cmの全面が被熱のため0.5～2cm程暗褐色に変色した隅丸方形皿状の土師器焼成壙を検出した。底面から坏・皿の破片数十片が出土している。窯壁がなく、被熱の度合いも弱いため「覆い焼き」であったと思われる。中世の土器焼成壙としては市域では上月隈遺跡についで2例目である。

調査報告書は2004・2005年度に刊行予定である。

1．調査地点の位置（早良17　内野0800　1：8000）

2．1区全景（南から）

3．土器焼成壙（北から）

0327 下月隈 C 遺跡群第 9 次調査(SHC-9)

所 在 地　博多区月隈 4 丁目 8
調査原因　空港整備（調節池建設）
調査期間　2003. 6. 1 ～ 10. 31
調査面積　2,000㎡（1 ～ 3 区合計）
担 当 者　山崎 龍雄
処　　置　記録保存

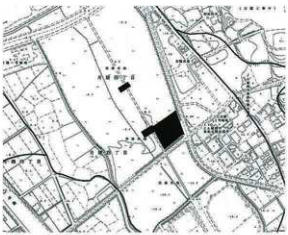
位置と環境　調査区は福岡空港の南側、御笠川右岸の沖積微高地上に広がる下月隈遺跡の中央部に位置する。現在の標高は 9 ～ 10m を測る。調節池建設に伴う調査は今年が最終年度で 6 年目を数える。過去の調査では弥生時代から鎌倉時代にかけての各時代の遺構が検出されている。

検出遺構　今年度の調査区は旧調査事務所部分と調節池の連通管部分である。事務所部分を 1 区、連通管部分を 2、3 区とした。調査は基本的に第 1 面中世、第 2 面古墳後期～古代、第 3 面弥生時代～古墳前期の 3 面について調査を行った。第 1 面では 1 区と 3 区で第 8 次調査区から続く条里制地割水田を検出した。第 2 面は 1 区で流木・木器集積遺構、3 区で水田、第 3 面は 1 区で溝や水田、2 区で柱穴やピット、3 区では旧河川を検出した。

出土遺物　遺物は弥生時代中期から中世後半迄の時期のものが出土した。土器・陶器・磁器・木製品や自然遺物などがパンコンテナ 39 箱出土した。

ま と め　今回の調査でも、弥生時代から中世の各時代の遺構を確認した。1 区は浅い谷部に位置することが判明したが、谷部埋土上面で水田面や杭列を検出した。第 4 ～ 8 次調査では弥生時代集落に伴う水田は確認されていないが、微高地上に展開する集落間の谷部には水田が営まれいた可能性がある。

今調査の調査報告書は 2006 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（11 金隈 2625 1：8000）

2．1 区第 1 面全景（上から）

3．2 区第 3 面全景（東から）

0328 蒲田部木原遺跡群第7次調査(KHH-7)

所在地	東区蒲田3丁目771-1外	調査面積	213.31㎡
調査原因	倉庫建築	担当者	中村啓太郎
調査期間	2003.6.27～8.11	処置	記録保存

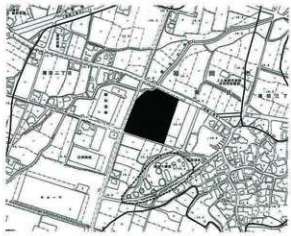
位置と環境　蒲田部木原遺跡群は福岡市の東部、粕屋郡との境、久原川と多々良川に挟まれた丘陵及び西側に広がる沖積地に立地する。第7次調査地点は遺跡群の西、部木古墳群の北、標高約14.5mの地点に位置する。西側には第4次調査地点が隣接する。現況は田であるが、遺構の遺存状況から1m程度は削平されたものと考えられる。

検出遺構　耕作土を除去すると遺構面である黄褐色シルトとなる。検出した遺構は弥生時代の甕棺墓9基、土壙墓1基、溝5条、柱穴等である。甕棺墓は中期前葉～中葉頃を中心とし、土壙墓はそれと同時期か若干先行するものとおもわれる。また墓地群に並行するように溝が延びるが時期はそれに後出するとおもわれる。遺構の遺存状況はやや悪く、甕棺墓の多くは掘り方が残らず、棺の上部が削られたものもある。柱穴は調査区西部の一部が弥生時代と考えられるが、それ以外は削平遺構の所産と思われ、時期は中世以降であろう。

出土遺物　遺物は甕棺を中心とした弥生土器等がコンテナ15箱ほど出土している。また遺構に伴わないが龍泉窯系の青磁椀片が出土している。柱穴の時期のものであろうか。特筆する遺物としては第49号甕棺墓より出土した勾玉が挙げられる。

まとめ　今回の調査は建物の杭部分のみの調査であり、全面調査に比べ、得られる成果は少ないが、本地域においてまとまった甕棺墓地群を確認したことは重要である。

報告書は2004年度発行予定である。



1．調査地点の位置（2 蒲田 0003 1：8000）

2．調査区全景（西から）

3．D－4区（南から）

0329 金武城田遺跡第２次調査（KTI-2）

所 在 地　西区大字金武字城田地内
調査原因　圃場整備
調査期間　2003.5.8 ～ 2004.1.30
調査面積　17,690㎡（古墳２基）
担 当 者　吉留・加藤良・池田・松浦・蔵冨士・阿部
処　　置　記録保存

位置と環境　城田遺跡は室見川中流域西岸の標高 40 ～ 55 mの扇状地～段丘上にあり、現状は水田、道路、水路などである。縄文時代～中世に及ぶ集落、官衙、生産、墳墓などの複合遺跡である。これまで本遺跡では道路建築に伴い一部が調査され、古墳時代住居跡、古代～中世集落、製鉄遺構などが確認されている。今回の事業対象地はこれらを含む遺跡全体約７万㎡であり、発掘調査は構造物である道路、水路と削平・超深度埋没が行われる田面部分に限り実施した。

検出遺構　水田下に１～３面の遺構面が確認され、以下の各時代の遺構がある。

縄文時代早期、晩期包含層。

弥生時代中期溝、水田跡、甕棺群（墳丘墓）。

古墳時代中期と後期の古墳各１基、後期の集落（竪穴式住居、掘立柱建物、土壙等）。

古代（飛鳥～平安期）の官衙・神社跡、掘立柱建物群、礎石、溝、製鉄遺構など。

中世の集落（掘立柱建物、溝など多数）。

出土遺物　出土遺物は以下の内容である。

縄文時代　土器類、石器など。

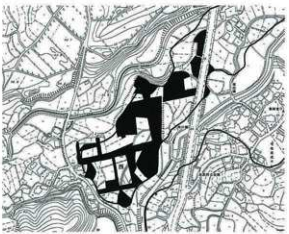
弥生時代　甕棺 33 基、土器類、石器類など。

古墳時代　須恵器、土師器、鉄器など。

古代　須恵器、土師器、輸入・国産陶磁器類、金属器、石製品、羽口、鉄滓、円面硯など。

中世　土師器、瓦器、輸入・国産陶磁器類、石製品など合計コンテナ 400 箱。

ま と め　今回の調査では注目される成果があった。弥生時代は山間部の水田・墳墓が明らかとなった。古墳時代中期の古墳石室からは魏鏡等があった。同後期の集落は台地上に展開し、大壁建物や新羅土器がある。古代には官衙的施設が造営される。官衙廃絶後は、中心部に壇状施設を設け、神社跡と推定される建物・敷石遺構や礎石が残された。中世以降は水田化している。



1．調査地点の位置（94 金武 0443 1：8000）

2．神社跡（西から）

3．礎石（北から）

0330 飯倉 D 遺跡第 2 次調査(IKR-D-2)

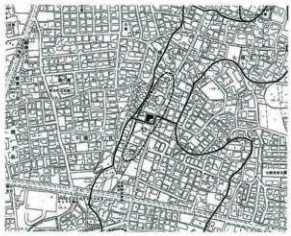
所 在 地　城南区干隈 1 丁目 400-8 外
調査原因　個人住宅建築
調査期間　2003.7.3 ～ 7.28
調査面積　212㎡
担 当 者　池田 祐司
処　　置　記録保存

位置と環境　油山丘陵から派生する飯倉丘陵頂部西側に位置する。表土を除去した黄褐色土上面、花崗岩バイラン土上面で遺構を検出した。遺構面は西側に向かって落ちる。

検出遺構　調査区中央には 1 × 2 軒の掘立柱建物を 1 棟検出した。柱穴からは土師器片が出土している。その西側斜面では斜面の上部を背にした弧状の溝を検出した。幅 20 ～ 30 cmを測る。円形を成せば径 7 m以上を測る。出土した須恵器、土師器から 6 世紀代のものと考えられる。さらに西側の調査区際では方形プランと考えられる遺構のコーナーを確認した。この部分はカマド状に赤変している。

出土遺物　須恵器、土師器が出土している。

ま と め　カマド状の遺構は方形住居の一部の可能性がある。弧状の溝はこれに伴うものであろうか。
調査報告書は 2005 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（74 七隈 0247 1：8000）

2．調査区西半調査中（北から）

3．調査区西半（北から）

0331 東那珂遺跡第5次調査（HGN-5）

所 在 地	博多区東那珂1丁目304,310	**調査面積**	117.96㎡
調査原因	共同住宅建築	**担 当 者**	本田 浩二郎
調査期間	2003.7.7～7.29	**処　　置**	記録保存

位置と環境　東那珂遺跡は、福岡平野の中央部に位置し、御笠川東岸に形成された沖積地上に分布する遺跡で、現在は水田を埋め立てて宅地化されているが、古地図によれば条里制の痕跡をよく留めた水田地帯であったことが分かる。

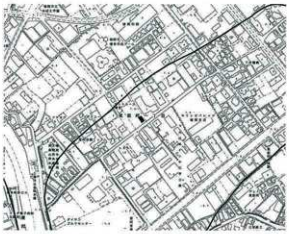
検出遺構　調査では、古代から中世前半期の土器を含む包含層と古代以前の時期が考えられる水田二面以上を検出・調査した。包含層は標高5.4mから20cm前後の厚さで形成されており、土師器・須恵器・瓦器・黒色土器・緑釉陶器等の遺物を含む。遺物の大半は古代に属するが、包含層上層部からは中世の遺物が出土する。

包含層下には御笠川氾濫時の堆積層が存在しており、この以下の標高4.8m前後の暗褐色粘質土層上面で畦畔と足跡が検出された。足跡は畦畔を横断するように残る。畦畔はほぼ東西方向に延びるが、一部を検出しただけで水田一枚の面積・区画等は不明瞭な点が残る。この水田以下には20cm程度の粗砂層を挟んで暗灰褐色粘質土面が検出される。調査範囲内では畦畔等の施設が検出されなかったが、水田遺構の可能性が考えられた。

出土遺物　遺物は、包含層より土師器・須恵器・瓦器・黒色土器・緑釉陶器などがコンテナケース11箱分出土している。須恵器には墨書土器があり、「井」等の墨書が残る。

ま と め　第5次調査地点の南側には、第1次調査地点が存在しており、古墳時代前期に属する集落の調査が行われている。本調査地点では該期の住居などの検出はなかったが、この集落に伴う水田施設の可能性が考えられる。

調査報告書は2005年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（23 雀居 2635 1：8000）

2．調査区全景（南から）

3．水田畦畔検出状況（南東から）

0332 博多遺跡群第 142 次調査(HKT-142)

所在地	博多区祇園町 583-4	調査面積	163.4㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	大塚 紀宜
調査期間	2003.7.28 ～ 10.24	処置	記録保存

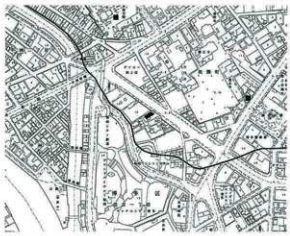
位置と環境　博多遺跡群の南西端部分に位置する。弥生・古墳時代以降の遺跡が分布する砂丘列尾根部分の西端に当たり、本地点の西隣は現況で 2 m程度低くなり、南北両方向も本地点付近を軸に緩く傾斜する。現況で本地点の標高は約 6 mである。

検出遺構　全体で 3 面の調査を実施した。第 1 面は 11 ～ 13 世紀の遺構が中心で、標高約 4 m。第 2 面は古墳時代後期～古代の遺構面で標高約 3.5 m。第 3 面は古墳時代初頭～前期の溝状遺構が検出され、遺構面の標高は約 3.2 mである。井戸は中世 10 基、古代 1 基を検出し、調査区の東側に集中して位置する。井戸枠が遺存する物はなく、木製の枠を使用したとみられる。土壙墓が 3 基検出され、うち 1 基は古墳時代の須恵器大甕を半裁して蓋とした配石墓(SK-203) で成人人骨が出土する。その他の土坑はほとんどが中世に属する。覆土に炭化物・灰や二次被熱を受けた陶磁器を多量に含む土坑があり、廃棄土坑の様相を呈する。古墳時代の溝状遺構は東西に延び、調査区中央部で屈曲する。人為的な掘削を伴う遺構とみられる。

出土遺物　総量でパンケース 153 箱相当に達する。11 ～ 13 世紀の輸入陶磁器や土師器・陶器などが出土し、第 3 面の溝状遺構からは古墳時代初頭～前期の土器が多く出土している。溝状遺構や包含層の土器は流れ込みの様相を呈し、完形になるものは少ない。

ま と め　井戸が集中している状況が注目される。砂丘周辺部にあたるため、建物の分布範囲から外れており、博多川や旧比恵川に近いために井戸などの設備を集め、また時代によっては墓や廃棄土坑も作られた地点とみることができる。

報告書は 2004 年度刊行予定である。



1. 調査地点の位置 (49 天神 0121 1：8000)

2. 第2面西側全景 (東から)

3. SK－203 (北から)

0333 博多遺跡群第 143 次調査（HKT-143）

所在地	博多区綱場町 121	調査面積	303㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	荒牧 宏行
調査期間	2003. 7. 22 ～ 10. 21	処置	記録保存

位置と環境　博多遺跡群の北側に占める、いわゆる息の濱（おきのはま）に位置する。調査区はこの息の濱の南西際にあたり、息の濱と南側の博多濱を繋ぐ砂州から背後の湿地帯にかけて厚みを増した埋立土層が南西際でみられた。地山の砂丘上面の標高は 2.8m を測る。

検出遺構　近代以降の遺構が密度濃く深いレベルまで達していた為、調査は地山の砂丘近くのレベルから遺構検出を行った。遺構の時期は 15 世紀以降が主であるが、下部に検出された井戸等の埋土に 12、13 世紀代の白磁を含む。検出された遺構には現在の町並みとほぼ同方向（若干東に振れている）の太閤町割に沿った建物、方形土壙、墓？、方形の堀方の井戸がある。建物跡は柱間約 1.2m で 7 間以上の柱列が検出された。柱穴は浅く地山の砂丘砂層とほぼ同じレベルで礎板の平石が検出された。方形土壙には 2.2 × 3 mの規模で底面周縁に壁を固定させる為の杭列がみられるものがある。墓の可能性がある土壙には土師器坏が副葬されていた。井戸は下部に 13 基連続した配列で検出された。

出土遺物　遺物は総量コンテナ 80 箱が出土し、朝鮮産の陶磁器が比較的多い。15 ～ 16 世紀初めの時期と思われる施釉陶器の甕（朝鮮産か）、明染付、備前擂鉢、土師器坏が一括廃棄されたような状態で出土した。また別の土壙から朝鮮青磁椀の完形品やベトナム産の陶器も出土している。この他、椀形鍛冶滓、炉壁体、羽口等も出土した。

ま と め　方位を揃え整然と配列された遺構や鍛冶などの産業を示す遺物など 15 世紀以降に繁栄の中心となった息の濱の具体的な様相が明らかになってきた。

報告書は 2004 年度刊行の予定である。

1．調査地点の位置（48 千代博多 0121 1：8000）

2．調査区南半全景（東から）

3．朝鮮施釉陶器、明染、備前擂鉢出土状況

0334 博多遺跡群第 144 次調査(HKT-144)

所在地	博多区綱場町 117-1 外	調査面積	400㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	星野 惠美
調査期間	2003.7.28 ～ 11.28	処置	記録保存

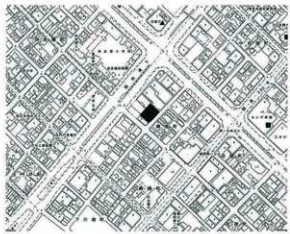
位置と環境　博多遺跡群は博多湾に面した砂丘上に立地し、西を博多川、東を石堂川、南を那珂川に挟まれ、地形的に独立した一角を成す。今回調査を行った地点は最も海側に面した「息の濱」と呼ばれる砂丘上に位置している。調査地点は息の濱とその南側の博多濱との境をなす旧湾部にかけて傾斜する南斜面上に立地する。

検出遺構　検出面は5面で、第1面を標高3.3m、第2面を2.5m、第3面を2.2mで遺構検出を行った。主な遺構は井戸約40基、石積遺構7基、溝1条、廃棄土坑、柱穴、墓である。井戸は12世紀～現代のもので、井戸側は桶・石組・瓦で構築され、井戸側による時期の変遷が窺える。石積遺構は第1・2面で検出し、16～17世紀、墓は第3・4面で検出し、12世紀と考えられる。第4面は標高2m、第5面は1.4mで、地形は湾が入り込んでいた南側に向かって傾斜していた。第4・5面はそれぞれ炭化物層を挟んでおり、部分的に焼土も確認された。検出した遺構は井戸2基、溝、大半が柱穴で、黒色土器・瓦器が出土しており、11世紀から営まれていることを確認した。

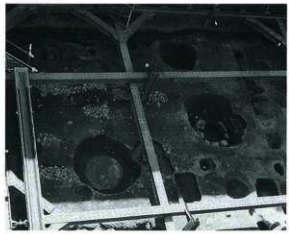
出土遺物　土師器・瓦質土器・黒色土器・瓦器の国産品とともに中国や韓半島の陶磁器をはじめ、ベトナムの東南アジアの陶磁器が出土する。コンテナ約250箱を数える。他に銅銭、るつぼ等の鋳造関連遺物、鉄釘、石錘・石鍋・砥石の石製品、博多人形やその鋳型も出土する。

ま と め　これまでの調査から息の濱が11世紀前半に初めて生活が営まれ、12世紀に本格的な博多の街として機能し、14世紀から16世紀にかけて繁栄しながら現代に至ることが確認されている。今回の調査でも11世紀から現代に至るまでの遺構・遺物を確認した。大量の輸入陶磁器は、対外貿易の拠点としての繁栄を窺わせる。

調査報告書は2004年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（48 千代博多 0121 1：8000）



2．調査区西側第2面（東から）

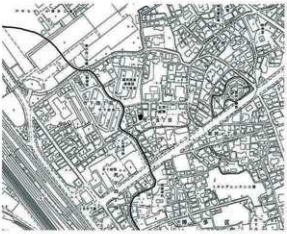
3．調査区東側第4面・西側第2面（南から）

0335 那珂遺跡群第 91 次調査（NAK-91）

所 在 地 博多区竹下 5 丁目 7-3 外　　**調査面積** 41.16㎡
調査原因 個人住宅建築　　**担 当 者** 本田 浩二郎
調査期間 2003. 7. 30 ～ 8. 5　　**処　　置** 記録保存

位置と環境　那珂遺跡群は、福岡平野の中央部に位置しており、御笠川と那珂川に挟まれた洪積丘陵の北端部近くに位置している。遺跡群の北側には比恵遺跡群が接するように存在し、両遺跡は検出された遺構・遺物群等の成果より一連の遺跡と考えられており、この両遺跡を含めた分布範囲は、南北 2.4 km×東西 0.5 ～ 0.8 kmが復元・推定されている。

第 91 次調査地点は、那珂遺跡群の中央部西側に位置しており、遺跡分布推定範囲の縁際に位置する。現状は宅地であり、標高は 8.5 m前後を測る。



1．調査地点の位置（東光寺 37 0085 1：8000）

検出遺構　調査では、土坑・柱穴などの遺構を検出したが、いずれも遺存は浅く調査地点が大幅な削平を受け、遺構の多くが既に消滅しているものと考えられる。遺構面である鳥栖ローム層の標高は 7.9 m前後を測り、調査区内ではほぼ水平な状態で検出される。調査区周辺の地形は西側に向かって急激に落ちる斜面となっているが、調査地点では開墾などにより大きく地形改変されていることが分かる。

2．調査区全景（南東から）

出土遺物　遺物は、弥生土器・土師器・須恵器などの小破片がコンテナケース 1 箱分出土した。

ま と め　調査地点周辺で行われた試掘調査では、比較的濃密な分布で遺構が検出されており、那珂遺跡群の西側縁辺にあたる調査地点一帯にも遺構群が展開していたと考えられる。なお、調査区付近に想定されていた丘陵の端部は調査では検出されず、さらに西側に位置していることが明らかとなった。縁辺部は削平はあまり受けていないと考えられ、遺構は良好に遺存している可能性が考えられる。

調査報告書は 2005 年度に刊行予定である。

3．調査区全景（南から）

0336 周船寺遺跡群第 15 次調査(SSJ-15)

所 在 地　西区周船寺 1 丁目 523-1 外
調査原因　店舗建築
調査期間　2003. 8. 19 ～ 9. 5
調査面積　231.1㎡
担 当 者　松浦 一之介
処　　置　記録保存

位置と環境　周船寺遺跡は高祖山から北に延びる沖積微高地に立地する。遺跡の前面はかつて今津湾が深く湾入していた。周辺には飯氏遺跡群、徳永遺跡群、今宿田尻遺跡などが立地する。

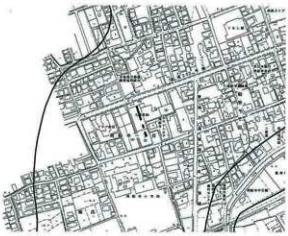
検出遺構　調査はまず重機で表土除去作業を行った。約 80 cm掘削した時点で包含層に達し、更に 20 cm下で遺構面に達した。遺構面の標高は北側で標高 6.9 m、南側で 7.3 mを測り、北側の旧古今津湾側に向かって緩やかに傾斜している。包含層までは重機で掘削し、以後遺構検出と各遺構の発掘は人力で行った。遺構発掘後に順次記録を作成した。

出土遺物　検出した遺構はピット・土壙・溝状遺構などで、遺構の密度は疎らである。土壙は 11 基検出した。この内 SK-001 は、平面形が長さ約 1.0 m×幅約 0.8 mの隅丸長方形を呈する土壙で、破砕した突帯文土器などが出土した。また SK-002 は、平面形が長さ約 1.2 m×幅約 0.7 mを測る不整形な楕円形を呈し、磨石や太型蛤刃石斧などが出土した。

出土遺物は縄文時代晩期の土器片、弥生土器片、黒曜石剥片、磨製石斧、磨石、土製紡錘車などコンテナケースに 5 箱分が出土した。

ま と め　今回の調査では、縄文時代晩期から弥生時代中期にかけての集落址を検出した。検出した遺構は、土壙やピットなどで遺構密度は疎らである。またトレンチ調査の結果、調査区南半では遺構や遺物が検出されず、遺跡外にあると考えられる。

調査報告書は 2005 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（131 泉 0689 1：8000）

2．Ⅰ区調査区全景（東から）

3．SK-001 遺物出土状況（北から）

0337 那珂遺跡群第 92 次調査（NAK-92）

所 在 地　博多区那珂 1 丁目 401 外
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2003. 8. 18 ～ 9. 1
調査面積　190.7㎡
担 当 者　本田 浩二郎
処　　置　記録保存

位置と環境　第 92 次調査地点は、那珂遺跡群の中央部付近に位置する那珂八幡古墳の東側 100 m程度の地点で現状は駐車場であり、標高は 8.0 ～ 8.1 m前後を測る。

検出遺構　調査では、土坑・柱穴・井戸遺構・溝状遺構などの遺構を検出したが、井戸遺構以外の遺構は遺存が浅く、調査地点が大幅な削平を受け、住居などの遺構の多くが既に消滅しているものと考えられる。遺構面である島栖ローム層の標高は 7.6 ～ 7.7 m前後を測り、調査区内ではほぼ水平な状態で検出される。近隣の調査では遺構が多く検出されており、本調査地点ではかなり早い段階で大きく地形改変されていることが分かる。

井戸は 3 基検出されたが、SE-01 とした井戸は近世の時期と考えられ、直径 2 mの円形堀方内に直径 1 m程度の井筒の痕跡が検出された。SE-02・SE-03 とした井戸遺構は、いずれも弥生時代後期前半の時期と考えられる遺構で、共に直径 1 m前後を測る。検出面から井戸底面までの深さは 2.5 ～ 2.8 m前後を測り、底面付近に完形の土器群が一括廃棄された状態で出土した。井戸廃絶時の祭祀行為の所産と考えられる。

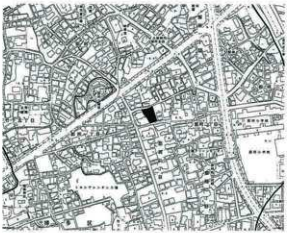
遺物は、弥生土器・土師器・須恵器などの小破片がコンテナケース 1 箱分出土した。

この他には近世の地下式土坑や時期不明のカマド底部等が検出された。

出土遺物　遺物は、弥生土器・土師器・須恵器・国産陶器などがコンテナ 6 箱分出土した。SE-03 とした井戸遺構からは畿内地方から搬入された弥生土器が出土している。

ま と め　本調査では、住居などの遺構は検出されなかったが、井戸遺構などの存在により集落の一部であったことが明らかとなった。

調査報告書は 2005 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（37 東光寺 0085 1：8000）

2．調査区全景（南から）

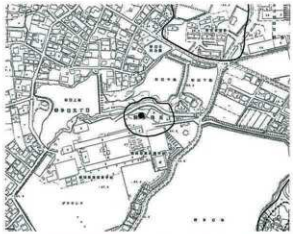
3．井戸内遺物出土状況（西から）

0338 野多目浦ノ池古墳第1次調査(NIK-1)

所 在 地　南区野多目5丁目地内
調査原因　確認調査
調査期間　2003.8.1～8.28
調査面積　400㎡（古墳1基）
担 当 者　長家 伸
処　　置　埋め戻し保存

1．調査に至る経過

対象地は市立福翔高校敷地内進入道路に面している残丘部分であるが、福岡外環状道路建設工事によって進入道路の一部が削られ、これに伴って進入路確保のため残丘の北側を法面として、最大8m前後南に削平することとなった。ここは野多目浦ノ池遺跡として周知の埋蔵文化財包蔵地として登録されているところであり、現況状況から前方後円墳の可能性も考えられた。このため踏査・試掘等の確認調査を行った後、市立福翔高校の了解を得て範囲を工事対象外の学校有地に広げ、内容確認調査を行った。調査終了後は埋め戻し、現状復旧を行った。



1図　調査地点の位置（40 老司 2826 1：8000）

2．位置と環境

野多目浦ノ池古墳は片縄山より北側に派生する花崗岩基盤の樹状丘陵の東端部に位置する。那珂川西岸の沖積地に面しており、南側1kmの丘陵上には4世紀中頃の築造とされる卵内尺古墳、5世紀初頭の築造とされる老司古墳と2基の首長系列に連なる前方後円墳が知られる。また調査地点の北側樹状丘陵上では和田B遺跡第1次調査により、5基の古墳と1基の木棺墓が調査されている。詳細な時期は不明であるが古墳時代前期前葉の土師器・鋼鏃が出土しており、これに前後する時期のものと考えられている。

今回の対象地は現在市立福翔高校敷地内にあたる。学校建設以前は丘陵上を山畑・墓所として利用していたとのことであるが、学校建設時に大規模な造成工事が行われ丘陵地の大部分が大きく削平されたため、現在は今回の対象地がかろうじて残丘状に残るのみとなっている。なお残丘部分の現況最高所標高は32.75mである。

2図　調査前全景

3図　調査前近景

3．検出遺構

調査は現況測量を行った後、A～Kまでの11ヵ所にトレンチを設定して掘り下げを行った。なお測量部分より南側の多くは削平された法面となっており、遺構の残存している可能性はほとんど無いものと考えられる。

西端Ⅰ・Ｊトレンチは当初前方後円墳の前方部の可能性を考えて設定したものである。表土・現代の流入土壌を５～10cm除去したところで明黄褐色の地山となる。盛土等はなく後述するＨトレンチで切断する周溝を確認したためこの部分は構成の削平により形作られたものと考えられる。

Ａ・Ｂ・Ｈトレンチでは周溝を確認している。Ａトレンチでは北東側から明瞭な掘り込みが認められ、底面には淡黒褐色土が堆積している。Ｂトレンチではこれに続く北側の立ち上がりは失われているが、黒色土部分を部分的に追うことができる。Ｈトレンチでは周溝部分が立ちあがっている。

Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ・Ｋの各トレンチでは盛土が認められる。特にＣトレンチでは比較的良好に状況が観察できた。地山の成形はこの部分では３ヵ所に不規則な平坦面を作りながら階段状に行っている。また最下位の平坦面以下は傾斜褐まで斜面をなし、この部分には盛土は行われていない。最下位平坦面以上に行われた盛土は地山土をブロック状に多く混合しているが、今回の調査では盛土の細かな単位は抽出することができなかった。またＤ・Ｅ・Ｆ・Ｋトレンチ部分は南側の削平法面部にかかっており、Ｆトレンチでは明瞭な盛土が認められたものの、それ以外では総じて遺存状態が悪く、盛土の多くが失われていた。また今回の調査では主体部状の遺構は確認できていない。

４．出土遺物

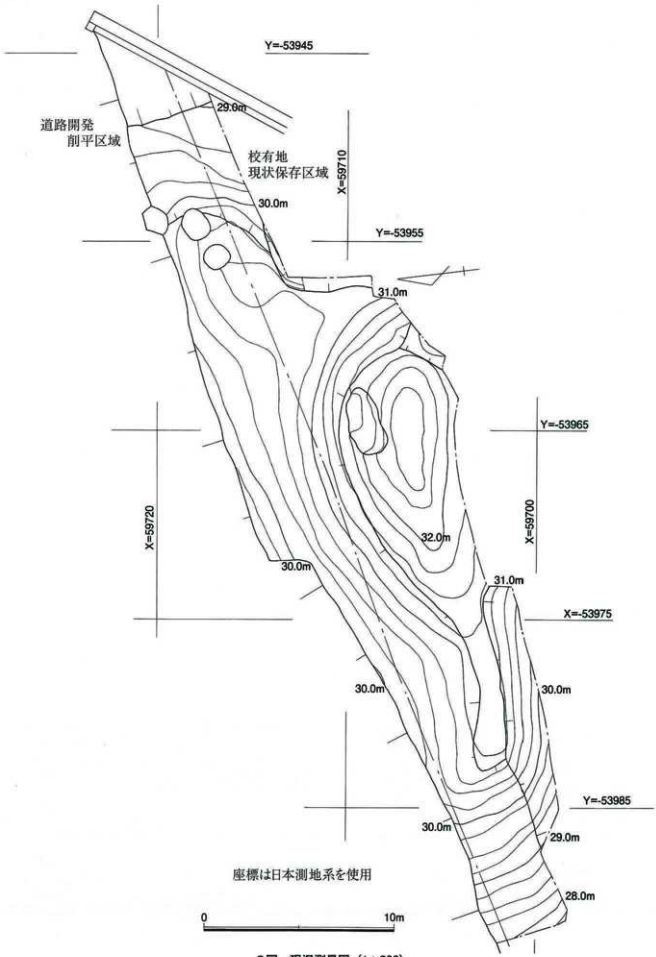
遺物は極少量でＡ・Ｈトレンチより１点づつ出土するのみである。ともに出土層位は不明である。小破片であるがともに古墳時代前期に位置付けられる土師器と考えられる。１はＡトレンチ出土の高坏基部である。摩滅が進むが脚部との接合部分に突起を有している。２はＨトレンチ出土の椀である。内外面はナデ調整を行う。

５．まとめ

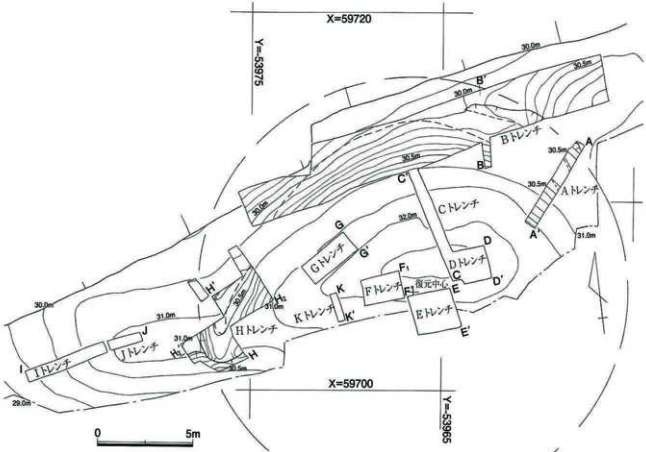
今回の調査で周溝・盛土の一部を確認することができ、少量であるが古墳時代前期の土器も出土している。確認できた周溝はやや歪に巡っており、南側が完全に削平されているため、規模はやや不明確であるが、現状では周溝を含めて22ｍ程度の円墳に復元できる。墳丘は地山成形後上半部を中心に盛土を行ったものと考えられ、墳丘裾から現況墳頂までの比高差は26ｍである。また削平のため主体部については既に失われているものと考えられる。時期・立地等、和田Ｂ遺跡で確認された５基の古墳と類似したものが想定できよう。

４図　調査区全景（北側上空から）

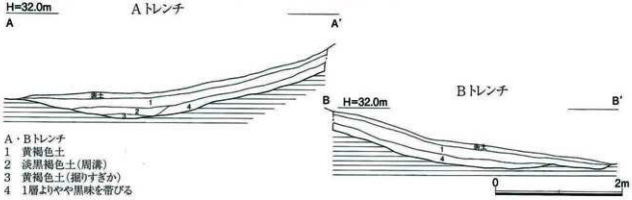
５図　調査区全景（北東から）



6図　現況測量図（1：200）



7図　トレンチ配置図（1：200）

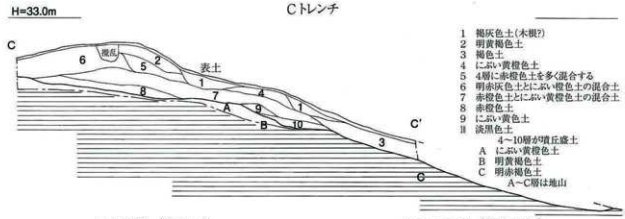


A・Bトレンチ
1　黄褐色土
2　淡黒褐色土（関漕）
3　黄褐色土（掘りすぎか）
4　1層よりやや黒味を帯びる

Aトレンチ（北から）

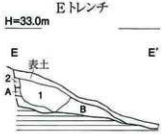
Bトレンチ（東から）

8図　A－Bトレンチ土層実測図（1：60）

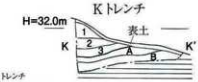


北側周溝（東から）

Cトレンチ（北東から）



Fトレンチ（西から）



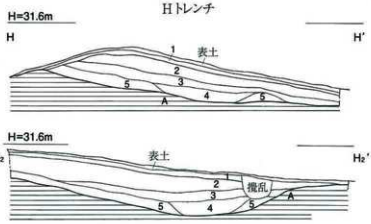
Eトレンチ
1 暗黄褐色土(木根)
2 白色土とピンク色粘質土混合
A 暗黄褐色土
B 橙色土
A・B層は地山

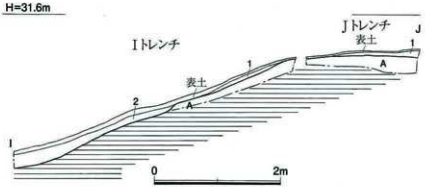
Fトレンチ
1 褐色土
2 白色ブロックを含む赤褐色土
3 黄白色粘質土
4 2層にほぼ同じ
5 暗黄褐色土に赤褐色土・黒色土小ブロック含む
A 暗黄褐色土
B 明黄褐色土
2～5層は堆丘盛土
A・B層は地山

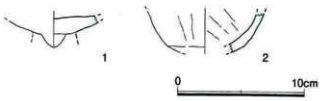
Kトレンチ
1 にぶい黄褐色土に明赤褐色ブロック混合
2 1層よりブロックが多くなる
3 浅黄色に明赤褐色土ブロックを少量含む
A 浅黄色土
B 明赤灰色粘土
1～3層は堆丘盛土
A・B層は地山

Gトレンチ
1 褐色土
2 にぶい黄橙色土に赤橙色ブロック混合
3 淡黒色土
A 明黄褐色土
B 橙色土
2・3層は堆丘
A・B層は地山

9図 C－G，Kトレンチ土層実測図（1：60）







10図　H～Jトレンチ土層実測図（1：60）、出土遺物実測図（1：3）

0339 西新町遺跡第 17 次調査（NSJ-17）

所 在 地　早良区西新 6 丁目 19-1
調査原因　高等学校建築
調査期間　2003. 8. 26 ～ 2004. 3. 16
調査面積　2,250㎡
担 当 者　福岡県教育庁福岡教育事務所　重藤 輝行外
処　　置　記録保存

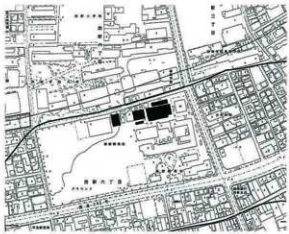
位置と環境　博多湾に面した東西方向に延びる標高 3 ～ 5 mの古砂丘上に立地する弥生時代中期・弥生時代終末～古墳時代前期の集落、弥生時代中期の甕棺墓地の複合遺跡である。今回の調査は、平成 10 年から実施している県立修猷館高校建替事業に伴うもので、福岡県教育委員会が調査を実施した。

検出遺構　今回の調査対象地は修猷館高校敷地北側であり、特に調査対象地の東部（3 区）からは、弥生時代終末～古墳時代前期の竪穴住居跡 39 基が検出された。このうち、古墳時代前期の竪穴住居跡には、8 基の竈付住居跡が含まれる。また、調査対象地の全面に近世～近代の遺構が分布し、土坑 22 基、近世溝 21 条の他、多数の柱穴・ピットが検出された。

出土遺物　出土遺物は弥生時代終末～古墳時代前期の土器・金属器、近世の陶磁器等があり、整理箱で 230 箱に達する。本遺跡ではかねてより朝鮮半島系土器が集中して出土することが注目されてきた。今回の調査でも鑪形土器を模倣した在地系土器、布留式甕を模倣した把手付甕などがある。金属器では古墳時代初頭の竪穴住居跡から出土した貨泉、素文小形青銅鏡が特筆されれる。また、7 号竪穴住居跡の床面では加工した石錘と、未加工であるが石錘とほぼ同形同大の礫がまとまって出土しており、漁網につけた状態で廃棄されたと考えられる。

ま と め　今回の調査では、これまでの修猷館高校建替事業にかかる発掘調査と同様に古墳時代初頭前後の竪穴住居が検出されており、当時の集落が修猷館高校敷地の北東～南西方向に広がっていることが明らかになった。

今回の調査成果については 2005 年度に報告書を刊行する予定である。



1. 調査地点の位置（71 西新 0240 1：8000）

2. 3区古墳時代遺構完掘状況（西北から）

3. 7号住居跡石錘出土状況（南から）

0340 元岡・桑原遺跡群第 35 次調査（MOT-35）

所在地	西区大字元岡字石ヶ原	調査面積	1,853㎡（古墳1基）
調査原因	大学移転用地造成	担当者	濱石 哲也
調査期間	2003. 5. 20 ～継続中	処置	記録保存

位置と環境　水崎山から西北に向かって派生する標高70m前後の尾根上に築かれた前方後円墳、元岡石ヶ原古墳の調査である。この古墳は平成8年度に調査が行われており、今回の調査は墳丘の遺存状況を明確にすることに主眼をおいた。

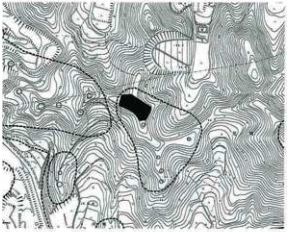
検出遺構　古墳は、前方部を西側にしてほぼ東西に主軸をとる。後円部、前方部とも、後世の大きな改変を受けている。また墳頂部は石室石材の抜き取りや盗掘で大きく破壊されている。墳丘規模は、全長51 m、後円部径 24 m、後円部高5 m、前方部長 27 m、前方部幅 21 m、前方部高3 m、くびれ幅 9.5 mとなる。後円部二段（2004 年度の調査で確認）、前方部一段築成で、地山整形の後盛土を行っている。後円部東側と北側に周溝が認められる。前方部端は地山を削り、西側からの尾根を切断する。葺石、埴輪はない。

内部主体は主軸をほぼ南北にとる両袖式単室の横穴式石室で、南側に開口する。奥壁、東側壁、袖部の腰石などだけが残存する。玄室は幅 2.1 m、長さ 3.6 m。羨道は長さ 2 mで、玄室側にふたつの棚石を配し、その間に敷石を行う。閉塞は一枚の板石を用いる。羨道の先には墓道が取りつき、この墓道の東側に新たな墓道が掘削されていることが判明した。

出土遺物　石室や表土からは須恵器（杯、杯蓋、高杯、器台、装飾付壺など）、土師器（小形丸底壺、高杯など）のほか太刀などの鉄器片が出土してが、原位置をたもって出土したものはなかった。ほかに青磁や染付椀などが少量出土した。

ま と め　元岡石ヶ原古墳は、出土土器などからみて6世紀中頃に築造され、6世紀後半頃まで追葬されたと考えられ、元岡・桑原地域ではもっとも新しい前方後円墳として位置づけられよう。自然の地形をうまく利用して築かれたこの古墳は、元岡地区のみならず糸島平野一帯からも望むことができる。

なお、調査は10月17日で一時中断し、2004年度に再開している。



1．調査地点の位置（129 桑原西部 2782 1：8000）

2．元岡石ヶ原古墳全景（北から）

3．墳丘遺存状況（西から）

0341 元岡・桑原遺跡群第 36 次調査（MOT-36）

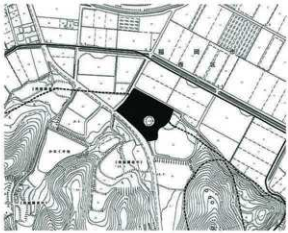
所 在 地　西区大字桑原字牛坂
調査原因　大学移転用地造成
調査期間　2002. 9. 1 ～継続中
調査面積　2,220㎡（古墳 1 基）
担 当 者　屋山　洋・管波 正人
処　　置　埋め戻し保存

位置と環境　北東に延びる丘陵の先端に位置する。東側水田と古墳との高低差は 12 m を測り、古墳築造時は今津干潟に元岡川が注ぐ河口部であったと思われる。北側と南側に谷が開口しているため古墳が存在する丘陵は干潟に突出していたと考えられる。調査区の大部分は段々畑に造成されており、それを A ～ E 区に分け調査を行った。

検出遺構　A区では 160 基の近世墓基壇を検出した。近世墓は北側が破壊されており、また全体に盛土をしており下層でも墓掘方を確認したため近世墓の総数は 500 基を超えるものと思われる。廃棄された石碑で確認した名字は複数で、現在も近隣に多い姓のため村の集合墓地と思われる。B区では経塚古墳と近世墓を確認した。経塚古墳は葺石部分の直径が 30m 近い円墳で 5 世紀中頃の築造である。墳頂部には石室の天井石 2 枚が立っており、中世に墳頂部を削平するなど大きく改変されている。墳頂部には大小様々な配石があるが周辺出土遺物からは中世まで遡る可能性がある。近世墓はA区とは違い元岡村に知行地を持っていた武士階級の家族墓と考えられる。E区は東に傾斜する斜面を 8 世紀に狭い平坦地を削出して、1 辺 2 m弱の竪穴式住居を 3 軒と、掘立柱建物を数棟立てている。窪地から炭化物や焼土と共に鉄滓や羽口が出土しており製鉄関連の遺構群であると考えられる。

出土遺物　A区の近世墓域では表土中やトレンチから細石刃や縄文土器片、古代須恵器、鉄滓、龍泉窯青磁碗などの多時期の遺物が出土しており、盛土下には古代集落や中世墓などの各時期の遺構がある可能性が高い。経塚古墳は保存されるため一部掘り下げただけで遺物は少ないが、古墳に伴うものとしては須恵器器台、円筒埴輪片、家型埴輪片が出土している。

ま と め　報告書刊行予定は 2005 年度である。



1．調査地点の位置（129 桑原 2782 1：8000）

2．調査区全景（東から）

3．経塚古墳葺石出土状況（東から）

0342 博多遺跡群第 145 次調査（HKT-145）

所 在 地　博多区御供所町 313-2
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2002.9.3 ～ 12.5
調査面積　253.98㎡
担 当 者　本田 浩二郎
処　　置　記録保存

位置と環境　博多遺跡は中世都市「博多」を中心とした弥生時代から近世にかけての複合遺跡である。

調査区は大博通り沿いに位置しており、東側は第 88 次調査地点となる。調査は試掘調査の成果に従い、4 面の遺構面を設定して行った。

検出遺構　1・2 面では中世中頃から後半代にかけての土坑・井戸・溝・柱穴群などの遺構を検出した。井戸遺構は直径 3 m以上を測り、井筒には桶を使用する。土坑には宴で使用された土師器杯等が大量に投棄されており、獣骨・銅銭・刀子などの遺物も出土した。

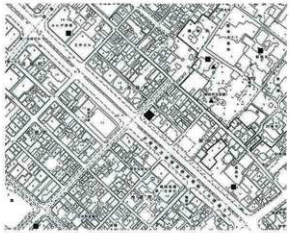
3・4 面では古代から中世前半期にかけての遺構を検出した。調査区内では 1 ～ 20 cm前後の整地層が検出され、遺構は良好に遺存する。

4 面とした遺構面では中世初期の方形土坑・廃棄土坑などを検出した。調査区内で検出された井戸の総数は 12 基を数える。古代以前の遺物としては弥生土器・古式土師器などが出土しているが、これに伴う遺構は井戸によって破壊されているため検出できなかった。

出土遺物　遺物は弥生土器・古式土師器・須恵器・土師器・貿易陶磁器・国産陶器・銅銭・金属製品・獣骨などがコンテナケース 230 箱分出土した。この他には石製の飾り具やガラス玉などの装飾品や猿面を描いた墨書土器などが出土した。

ま と め　調査区内では、溝遺構や道路遺構などの区画施設は検出されず、中世の時期を通して屋敷地等の施設範囲内に位置していたことが想定される。これまでの調査により想定されている聖福寺築地塀よりは外側に位置していることや、出土遺物より宗商人などの居留地であったこと可能性が考えられる。

報告書は 2005 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（49 天神 0121 1：8000）

2．調査区全景（南から）

3．遺物出土状況（東から）

0343 箱崎遺跡第 41 次調査（HKZ-41）

所 在 地　東区箱崎 3 丁目 2426 外
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2003.9.16 ～ 12.11
調査面積　1000.8㎡
担 当 者　中村 啓太郎
処　　置　記録保存

位置と環境　箱崎遺跡は宇美川下流域、多々良川河口左岸の博多湾に面し、南北に延びる砂丘上に位置する。本調査区は遺跡の北東端に位置する。

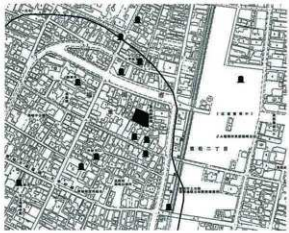
遺構検出面は東で標高 1.3 m、西で 2.3 m となり、東に向かい低くなる。

検出遺構　検出した遺構は土壙墓、木棺墓、井戸、土坑、溝、柱穴等であるが遺構の密度は薄く、攪乱が多い。柱穴は現時点では建物にまとまらない。また調査区東端で砂丘の際を確認した。この落ち際は遅くとも 12 世紀中頃～後半までに埋没する。その後 12 世紀後半から木棺墓等の遺構が確認される。墓の遺存状況は良好で 3 基の墓すべてに人骨がほぼ全身残っていた。このうち 63 号木棺墓は龍泉窯系青磁碗、皿、刀子を副葬していた。他の遺構も概ね 13 世紀までに収まり、一部井戸等に新しいものがみられるが、それ以降継続しない。その後近世から再び集落として機能するようであるがその密度は薄い。また遺跡西側でみられる焼土層は確認されなかった。

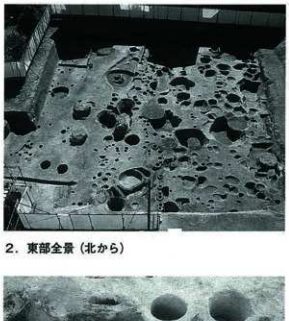
出土遺物　出土遺物は土師器、瓦器、輸入陶磁器類、陶器類等がコンテナ 50 箱出土している。大半は砂丘東側の落ち際を覆う包含層からの出土である。調査面積に比べ多くはない。

ま と め　今回の調査では遺跡の北東端付近を確認したと考えられる。埋葬遺構から出土した人骨は遺存状況がよく、該期の良好な資料である。

調査報告書は 2004 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（34 箱崎 2639 1：8000）



2．東部全景（北から）

3．63 号木棺墓（南から）

0344 福重稲木遺跡第２次調査(FSI-2)

所在地	西区福重４丁目283-6	**調査面積**	116㎡
調査原因	共同住宅建築	**担当者**	池田 祐司
調査期間	2003.9.24 ～ 10.14	**処置**	記録保存

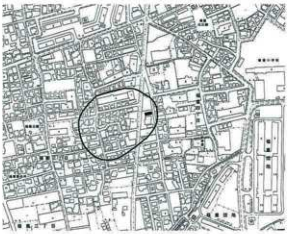
位置と環境　早良平野西部の室見川西岸の沖積低地に位置する。客土後の現在の標高４ｍを測る。道路を挟んだ西側では１次調査が行われている。

検出遺構　客土、旧表土を除去した標高４ｍから2.7ｍで弥生時代前期を主体とした遺物包含層等を検出した。調査区南西隅から北東には河川と考えられる落ちがあり、粗砂、有機物を多く含む粘質土から、弥生時代前期から中期前半の土器を主体とした遺物が多く出土した。河川埋土は湧水のため完掘していない。調査区東側は遺構面が緩やかにあがり、炭化物の広がりを確認した。炭化物の上下層の青灰色粘質シルト中からは突帯文土器等の遺物が出土している。河川の西岸は暗灰色粘質土となり、一部杭列を確認した。

出土遺物　刻目突帯文土器、弥生前期を主体とした土器が出土した。壺の中には彩文を施すものがある。河川からは石斧の柄の未製品が出土した。

ま と め　調査区の東側は低地の微高地となり、小規模な集落の広がりが予想される。西側は粘質の土壌の広がりから、水田跡が想定されよう。

調査報告書は2006年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（90 石丸 0382 1：8000）

2．調査区東半（東から）

3．遺物出土状況

0345 福重稲木遺跡第３次調査(FSI-3)

所 在 地　西区福重４丁目地内
調査原因　道路建設
調査期間　2003.10.15～11.8
調査面積　180.5㎡
担 当 者　池田 祐司
処　　置　記録保存

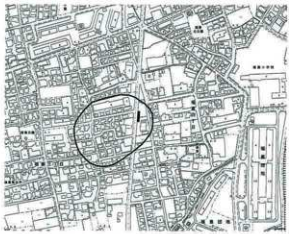
位置と環境　早良平野西部の室見川西岸の沖積低地に位置する。客土後の現在の標高４ｍを測る。道路を挟んだ西側では１次調査が行われ、東側の隣接地は２次調査地点である。

検出遺構　客土、旧表土を除去した標高２ｍから2.7ｍで弥生時代前期を主体とした遺物包含層等を検出した。調査区の南半の東側には２次調査で確認した河川の西岸に沿って２列の杭列と柵を確認した。この杭列は河川の西岸となる暗灰色粘質土に打ち込まれており、この層からは板付Ⅱ式を主体とした遺物が出土する。さらに下層の砂層およびシルト層からはやや古手の遺物が出土したが、湧水のためこの層の掘削が行えたのは調査区北側の一部のみである。

出土遺物　弥生時代前期の土器を中心とした遺物が出土し、彩文がよく残る壺や、木製品の出土が特筆される。

ま と め　調査区は粘質土の広がりから水田跡が広がると考えられるが確認できなかった。杭、柵は河川に沿って構築されていることから護岸目的と考えられる。西側の１次調査では杭列が、その南の試掘では弥生前期、中期の遺構が確認されており、小規模な微高地に集落が点在し周囲に水田が広がる状況が想定されよう。

調査報告書は2006年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（90 石丸 0382 1：8000）

2．調査区南半（南から）

3．柵（東から）

0346 重留村下遺跡群第３次調査（SGM-3）

所在地	早良区重留６丁目655	調査面積	104㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	松浦 一之介
調査期間	2003.9.24 ～ 10.16	処置	記録保存

位置と環境　重留村下遺跡は早良平野の奥部、金屑川右岸の段丘上に立地する。金屑川を挟んで左岸には、重留遺跡と前方後円墳である重留拝塚古墳が、また東側の油山西麓には、重留古窯跡や重留古墳群が所在する。

検出遺構　今回の調査は、遺構の破壊が免れない部分２ヶ所を発掘した。調査はまず重機による表土除去作業を行い、約0.8ｍ掘り下げた標高28.8ｍ付近で遺構面（黄褐色砂質土層）に達した。その後、人力による遺構の発掘を行い、順次記録を作成していった。調査地点は近・現代の所産と考えられる土壙が10数基検出され、遺構の遺存状況は良好でなかった。

検出した明確な遺構は、古墳時代前期の竪穴住居址１基（ＳＣ-01）である。この他、ピット等があるが、遺構の密度は非常に低い。

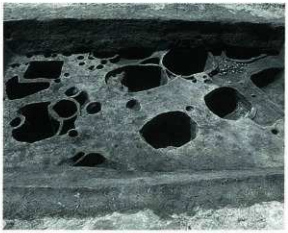
ＳＣ-01竪穴住居址は１区調査区の西隅で検出した。撹乱により遺存状況は良好でない。また、西側は調査区外に延びる。住居址の平面形は、南北１辺の長さ約3.8ｍを測る長方形を呈すると考えられる。また、ピットの検出状況から、主柱穴は４本と推定される。柱穴間の距離は南北1.5ｍ、東西2.8ｍを測る。周囲には幅15～35㎝の壁溝が廻る。住居址廃棄後の覆土から古式土師器（壺・甕・高坏・小型丸底壺など）が破砕した状況で出土した。

出土遺物　ＳＣ-01竪穴住居址の覆土を中心に、古式土師器（壺・甕・高坏・小型丸底壺など）が出土した。総量はコンテナケースに３箱である。

ま と め　出土した遺物から、ＳＣ-01竪穴住居址の年代は布留併行期の４世紀である。また10数基検出した土壙からは、遺物が殆ど出土しなかった。僅かながら出土した遺物も古式土師器の破片であるが、土層断面観察からこれらは近・現代の所産と考えられる。

報告書は2005年度に刊行予定。

1．調査地点の位置（85 入部 0324 1：8000）



2．１区調査区全景（北から）

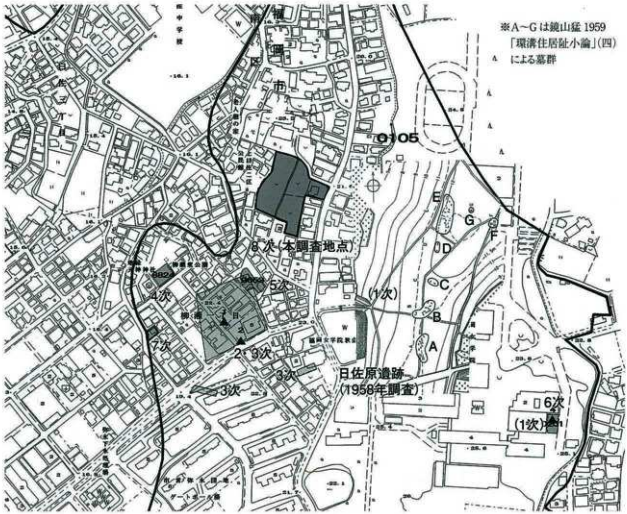
3．ＳＣ－01竪穴住居址検出状況（西から）

0347 弥永原遺跡群第8次調査（YNB-8）

所在地	南区日佐3丁目79-1外	調査面積	96.07㎡
調査原因	共同住宅建築	担当者	久住 猛雄
調査期間	2003.9.16～9.19	処置	記録保存

1 調査の経緯

平成15（2003）年3月26日、安永チヂエ氏から、南区日佐3丁目79-1外3筆における共同住宅建設に伴う埋蔵文化財事前審査申請（14-2-910）が提出された。申請地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である弥永原遺跡群の範囲内であり、開発工事の遺跡への影響が懸念された。そのため埋蔵文化財課は申請者の承諾の上、4月15日に試掘調査を行い、耕作土直下の浅い深度で遺構を検出した。このため、当初工事計画では埋蔵文化財に影響を与えることが必至であり、発掘調査が必要とされた。しかし開発工事請負業者から、共同住宅（2階建4棟）部分は全面盛土して遺構面に基礎工事等が影響を及ぼさないとする設計が提出され、工事立会の対応とした。ただし敷地周囲等の擁壁工事についてはなお遺構への影響が懸念されたため、協議の結果、工事立会の際に、遺構面以下に掘削が及ぶ場合には、工事を一時中止して必要範囲を緊急的に発掘調査することで合意に達した。9月16日より擁壁工事が開始された。その掘削工事の立会の結果、遺構が検出され、かつ遺構面以下に掘削が及ぶ範囲（第2図のAトレンチ、Cトレンチ東、Dトレンチ東拡張、Eトレンチ）については

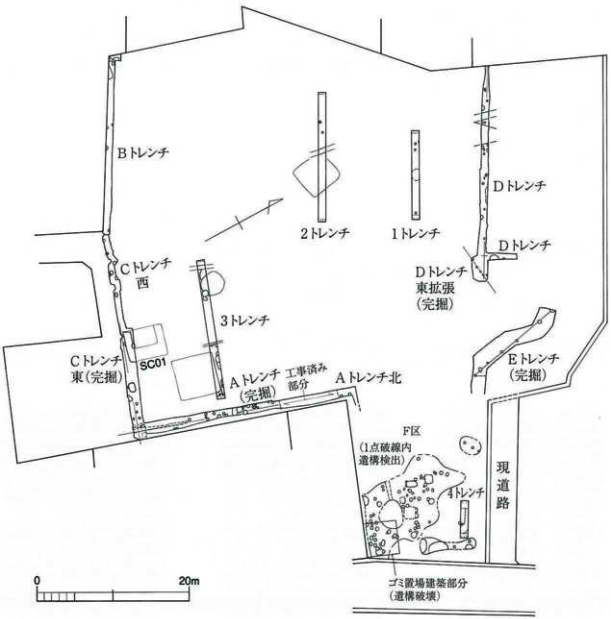


1図 弥永原（旧称日佐原）遺跡群と調査地点の位置（1：4000）

掘削工事を途中で中止させ、発掘調査を行なった（約100㎡）。なおそれ以外の部分（Bトレンチ、Cトレンチ西、Dトレンチ、F区）については、擁壁工事や整地工事の掘削底面が、遺構面ぎりぎりか僅かに下がるレベルであったため、遺構の平面確認調査でとどめた（312㎡）。なお一部において、十分な調査を経ずに遺構が工事により影響を被る部分が生じてしまい、業者に厳重注意しているが、同時に反省点として残る。本調査は平成15年9月19日に終了した。

2　遺跡の立地と既往の調査（1図）

弥永原遺跡群は福岡平野の南側に位置し、那珂川右岸の洪積段丘上に位置する。弥永原遺跡群の立地する丘陵は南北にのびる東西二つの段丘尾根があり、そのうち東側はもと臼佐原遺跡と呼称され、1958年の福岡女学院建設に際する造成工事に伴い弥生時代後期～古墳時代前期の墳墓群が調査（第1次調査とする）されたの

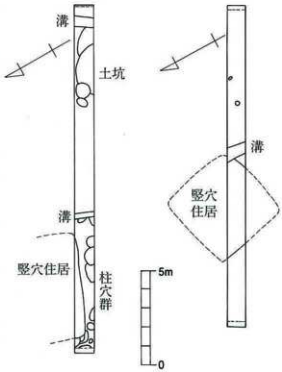


2図　弥永原8次調査全体図（1：500）

が著名である（鏡山猛 1959「環溝住居趾小論」（四）『史淵』第 78 集）。この曰佐原の段丘の西側は、弥永原地区との間に北側から谷が入るが、完全には分断されず、むしろ曰佐原には弥生時代～古墳時代前期の墳墓が多く、これに対応して弥永原には同時期の集落遺構が広がっており、補完的な関係にあり、同一の遺跡群とみてよいだろう。今回の第 8 次調査地点は、弥永原遺跡群の北西部に位置し、付近の標高は 21.5 ～ 23.0m 前後であり、敷地の西側が段丘尾根となり東にやや低くなる。付近では第 2・3・4・5・7 次調査が行なわれ、弥生時代中期後半～古墳時代前期の遺構が多く、ガラス勾玉鋳型の出土や数条の環溝または条溝の検出が注目されるところである。また第 1 次調査地点からさらに南東では弥生中期～後期前半の甕棺墓群が検出されており（第 6 次）、周囲にはこれまでの開発の影響を免れた弥生時代墓地がまだ残されている可能性がある。なお諸岡川の谷を挟んだ東側の段丘上には須玖・岡本遺跡群が広がっている。

3　調査の概要と検出遺構（2図）

第 8 次調査は「調査の経緯」で述べたように、主に擁壁工事部分の調査であったため、調査区が敷地の縁辺部に各々設けられた形になっている。またＦ区は、表土撤取り整地工事が地山上面に達して遺構が検出できたため、これを略測して記録したものである。第 3 図には試掘調査時の 1 ～ 4 トレンチも記した。このうち、2・3 トレンチでは竪穴住居・溝・土坑などの比較的多くの遺構を検出したが（3 図、写真 1 ～ 3）、これらは本調査の対象範囲となっていない。検出遺構は、半数以上が黒色～黒褐色のしまった覆土で、多くは弥生時代から古墳時代前期のものと考えられる。それ以外に暗褐色のしまった覆土の遺構があり、これらは検出時の遺物から 7 ～ 11 世紀前後のものと考えられる。敷地の南側ないし東側に向かって遺構がやや多くなる傾向があり、段丘尾根側の北～西側は削平気味とみられる。以下、本調査を行なった各トレンチについて報告し、次にその他の確認調査部分について記述する。なお、調査区のレベルは付近の道路標高から移動し、調査区の座標は各トレンチを任意で設定し平板で合わせた。これは調査の制約の都合から致し方なかったものである。

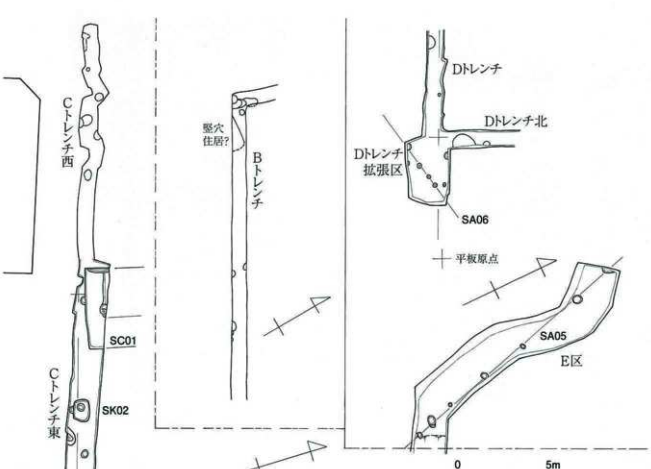


3図　試掘調査 2・3 トレンチ（1：200）

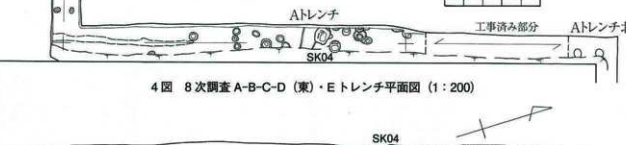
写真 1　2 トレンチ西半（東から）

写真 2　3 トレンチ東半（西から）

写真 3　3 トレンチ西半（西から）



4図　8次調査 A-B-C-D（東）・Eトレンチ平面図（1：200）



5図　Aトレンチ平面図（1：80）

（1）Aトレンチ（4・5図、写真4・5）

敷地南東側の調査区である。このうち北側の一部は立会以前にすでに下請業者が工事をしてしまい未調査である。またトレンチ東縁部は、東側既存擁壁の掘方で撹乱されている。遺構は地表から30～40cmのローム上面で検出された。検出遺構は、径60cmを最大とする中小の柱穴群と、土坑2基である。覆土の多くは黒色～黒褐色土で、出土遺物から大半が弥生時代後期～古墳時代初頭であろう。柱穴群は調査範囲が狭小で建物としてまとまらない。SK04はトレンチ中央で検出はトレンチ中央で検出した（6図、写真6・7）。浅い土坑のSK10を切り、上面75×100cmの不整楕円形、深さ42cm。底面は平坦である。下層で器台型土器が3個体出土した（12図1～4）。他の土器片も含め（同図5～7）、弥生後期後半新相か（5は高坏）。なおトレンチ内で

写真4　Aトレンチ調査状況（南から）

写真5　Aトレンチ調査状況（北から）

は、弥生後期初頭の甕底部(12図11)、弥生終末の高坏（同図8）が出土している。

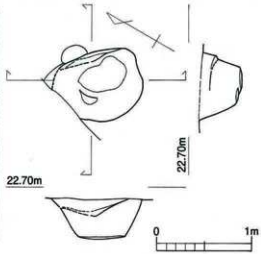
（2）Cトレンチ（4・7図）(写真8・9)

敷地南側の調査区である。西半分は工事の掘削深度から遺構確認のみに留めたが、東半分は掘削が遺構に影響するため本調査を行なった。旧耕作土直下で地山となり、西半では柱穴群を、東半では竪穴住居1棟、土坑2基、柱穴若干を検出した。遺構の大半の覆土と推定時期はAトレンチと同様である。SC01はトレンチ東半西側で検出した（8図、写真10～12)。一辺（短辺側か）4.25mの推定長方形住居である。南側に幅90～95cmのベッド遺構を

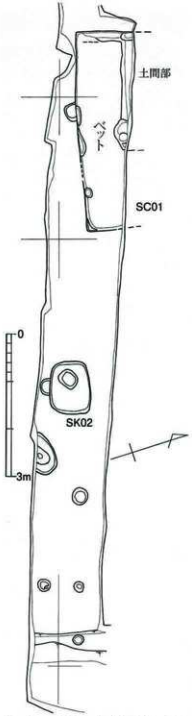
写真6　Aトレンチ SK04 遺物出土状況(南から)

写真7　Aトレンチ SK04 完掘状況(北から)

写真8　Cトレンチ（SC01）
遺構検出状況（東から）



6図　Aトレンチ SK04（1：40）



7図　Cトレンチ平面図（1：80）

写真9　Cトレンチ調査状況（東から）

写真10　Cトレンチ SC01 土層断面（東から）

写真11　Cトレンチ SC01 土層断面（西から）

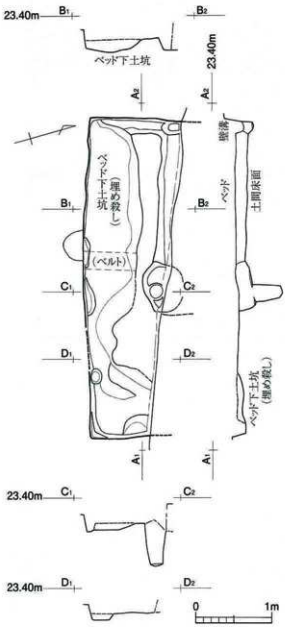
写真12　Cトレンチ SC01 完掘状況（東から）

写真13　Cトレンチ SK02 完掘状況（北から）

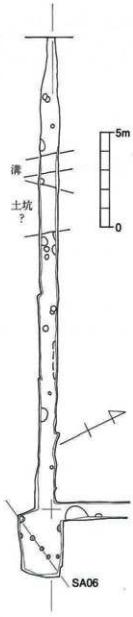
有し、ベッドは地山削り出しとともに土坑を埋殺した貼床部分があり、調査では時間の都合から土坑部分も先に掘削した。西辺には壁溝が廻り、ベッド部分も平面では不明瞭だったが土層断面の検討から壁溝があった可能性がある。ベッドは幅広に竪穴東辺も廻るとみられる。ベッドと土間床面との差は37㎝前後。南辺ベッド中央に切り込むように主柱穴があり、位置関係から2本主柱タイプか。土層断面の検討から、住居廃棄後、ベッド床面直上が少し埋まってから主柱が抜き取られたようである。出土遺物には小片が多いが、時期が分かる遺物に高坏破片がある（12図9）。古墳時代初頭のC系統である。SK02はトレンチ東半中央で検出した（9図、写真13）。84×110㎝の不整長方形、深さ（ただし削平が顕著）24㎝である。西側底面の一部が凹み、柱の圧痕部分とみれば掘方の形状から弥生時代のやや大型の建物の柱穴とも考えられる。弥生終末の鉢の破片が出土している（12図12）。

（3）Dトレンチ（4・10図、写真14・15）

敷地北～北東側の調査区。トレンチ東側の一部のみ掘削工事が深くなるため本調査とした（東拡張部）。旧耕



8図　Cトレンチ SC01（1：50）

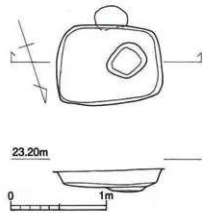


10図　Dトレンチ全体図（1：200）

写真14　Dトレンチ遺構検出状況（西から）

写真15　Dトレンチ拡張区調査状況（東から）

作土直下で地山となり、北西側では溝や土坑（竪穴住居か？）、中小の柱穴群を、東側では小柱穴群や土坑（未掘部分）を検出した。遺構覆土は黒褐色系がやや多いが、暗褐色土の遺構も見られる。東側拡張部の小柱穴群はあるいは柵列の可能性があるものがあり（SA06）、Eトレンチの SA05 とほぼ直交する方位である。Dトレンチ出土の遺物は小片が多いが、弥生中期後半～後期初頭の器台（12図10）や後期前半の甕口縁部（同図14）がある。

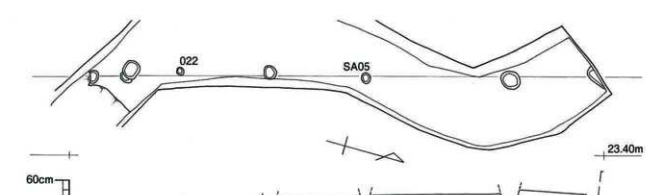


9図　Cトレンチ SK02（1：40）

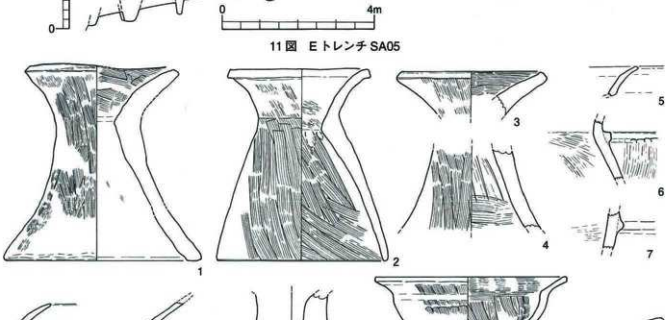
（4）Eトレンチ（11図）

敷地北東側の調査区。旧地表面～20～30cmで地山となり、柱穴を若干検出した。検出した柱穴は、柵列になる可能性がある（SA05）。ただし各柱穴の残りは悪い。SP022より10～11世紀の土師器の脚付埦破片が出土している（12図13）。

その他、敷地南東側のBトレンチ（4図）は、地表面下で遺構が検出された。遺構密度は薄いが、北西側で竪穴住居の隅角とみられる遺構があり、また中規模の柱穴が複数重複して検出された（この部分は十分な調査をせ



11図　Eトレンチ SA05



12図　弥永原8次調査出土土器（1：4）

ずに掘削工事がさらに行なわれてしまった)。F区(2図)は敷地東側隣接道路へのアプローチ部分斜面にあたり、整地工事による表土除去のため遺構が面的に検出できる状況であった。中小の柱穴が多く検出され、略方形の大型柱穴や土坑も複数検出している。段丘尾根東側斜面に遺構が多く遺存していることが伺える。盛土工事により保存されているが、南側隅一部範囲について工事側の認識不足と設計者と工事担当の意思不統一により遺構が破壊されてしまった。今回の調査での出土遺物はパンケース2箱があり、多くは弥生土器～古式土師器、少数の古代の土器がある。各トレンチの出土遺物（12図1～14）以外に、共同住宅建築部分の整地工事立会中に検出した遺物がある（同図15～17）。15は弥生終末の在来系脚付鉢、16は弥生終末～古墳初頭の在来系壺型器台（支脚か）、17は須恵器の坏で8～9世紀のものか。

4　まとめ

工事立会からの調査となったため、不十分な調査となったことは否めないが、周辺の調査と同様に、弥生時代後期を前後する集落遺跡の一端が明らかとなった。今後の周囲の開発工事には十分な注意が必要である。

0348 那珂遺跡群第 93 次調査（NAK-93）

所在地	博多区東光寺町 2 丁目 34 外	**調査面積**	781㎡
調査原因	共同住宅建築	**担当者**	長家　伸
調査期間	2003. 9. 22 ～ 11. 7	**処置**	記録保存

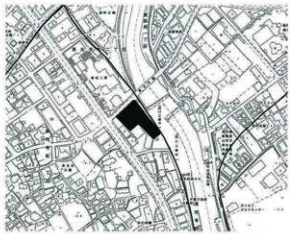
位置と環境　那珂遺跡群は福岡平野の中央部を北流する那珂川と御笠側に挟まれた洪積丘陵上に立地する。本調査地点は御笠川左岸に面しており、丘陵の東側縁辺部分にあたる。

検出遺構　申請地のうち調査対象としたのは東側川ぞいの建物建築部分である。現況標高は 7 mでほぼ平坦である。遺構面標高は南端部分で 4.7 m、中央部分は 4.4 m、北端部分は 3.4 mである。遺構面は大半が八女粘土で、南端が鳥栖ローム上面となっている。標高 4.4 mの平坦面が中央部分に広がっており、水田開発等による人為的な地形改変の可能性が考えられる。検出遺構は井戸・溝・土坑・ピットで南側の比較的高所部分で確認している。時期は弥生時代中期後半前後のものが主体を占める。また傾斜部分から遺構面上層には包含層が形成されている。包含層上層は須恵器を含み、下層は弥生時代中期後半代のものが大半である。

出土遺物　土師器・須恵器を中心にコンテナ 22 箱分出土している。またこの中には包含層下層から出土した板材も含まれる。

ま と め　今回は東側縁辺部分の調査で遺構は散漫であったが、包含層から比較的多くの遺物を確認することができた。周辺丘陵高位部分の調査が待たれる。

調査報告書は 2004 年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（37 東光寺 0085 1：8000）

2．調査区南半全景（北から）

3．調査区北半全景（西から）

0349 雑餉隈遺跡群第 15 次調査（ZSK-15）

所 在 地　博多区新和町 2 丁目 25
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2003.11.1 ～ 2004.3.31
調査面積　650㎡
担 当 者　㈱三リビック雑餉隈文化財調査室　堀苑 孝志
処　　置　記録保存

位置と環境　福岡市域でも南端に位置し、春日丘陵の東辺に平行しながら延びる台地上に立地する。この台地には緩やかな谷が幾筋も入り込み、こうして形成された舌状の起伏ごとに、麦野 A・B・C 遺跡、南八幡遺跡、そして雑餉隈遺跡が分布する。当該発掘調査地点は、遺跡の南端際を占め、周囲には緩い傾斜が認められる。

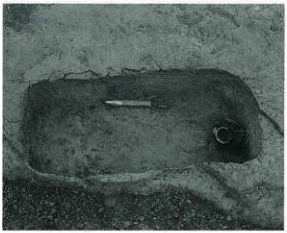
検出遺構　既存建物の基礎や整地により、遺構は著しく撹乱を受けた状態で発見された。主なものは奈良時代の竪穴式住居跡が 8 軒と、特に注目されるのが弥生時代早期の木棺墓で、4 基を確認した。その内の 3 基からは有柄式磨製石剣と有茎式磨製石鏃が伴う。

出土遺物　須恵器の坏は、高台が際の内側に貼り付けられるものを主体にしており、8 世紀前半の所産と捉えられる。4 基の木棺墓には、それぞれ夜臼式の壺が伴い、有柄式磨製石剣の相対年代も弥生時代早期として位置づけられる成果が得られた。総数は石剣 3 本、石鏃 8 本である。

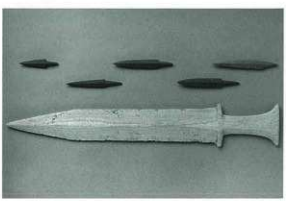
ま と め　北側に隣接する第 14 次調査で、19 軒の竪穴式住居跡を確認しており、この集落の南限がどこまで広がるのかが注目されていた。それが今回の調査で、舌状に延びた台地際まで及ぶことが明らかにでき、集落の様相を知る重要な成果が得られた。また一方では、木棺墓の発見は全く予期せぬ事であった。しかも大陸からの舶来と考えられる有柄式磨製石剣の発見は、弥生文化の伝来や後の奴国形成との関わりなどを検討していく上で、興味ある問題を提議するに至った。

報告書は 2004 年度刊行を予定しており、具体的な成果はこちらの方に譲りたい。

1．調査地点の位置（13 雑餉隈 0054 1：8000）



2．003 木棺墓（南から）



3．0015 木棺墓出土磨製石剣・石鏃

0350 久保園遺跡第3次調査(KBZ-3)

所在地　博多区東平尾2丁目地内
調査原因　道路建設
調査期間　2003.9.25～11.21
調査面積　373㎡
担当者　吉武　学
処置　記録保存

位置と環境　福岡平野東端の月隈丘陵から西へ派生する支丘の南斜面に立地する。同じ斜面のやや東寄りには弥生時代の大型掘立柱建物が確認された第1次調査地点があり、浅い谷を挟んだ南側には銅鐸鋳型が出土した席田大谷（赤穂ノ浦）遺跡が位置する。

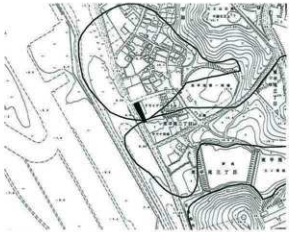
調査区は南北に細長く、丘陵斜面に立地するため遺構検出面が東へ落ちて北端と南端では1.3ｍの比高差がある。

検出遺構　検出遺構は、弥生時代中期前半の土坑1、中期後半～後期初頭の竪穴住居跡2・自然流路1・溝1、後期後半～古墳時代前期の竪穴住居跡12・溝2・土坑多数、平安時代の井戸1、鎌倉時代の土壙墓1である。調査区の北東側は削平されて遺構が少ないが、斜面が落ちていく西～南側で多数の遺構が切り合って検出でき、遺構の密度は濃いといえよう。南端で検出した自然流路は丘陵のへりに沿って流れていたものと考えられ、古墳時代前期には埋没し、上面に土坑が掘られる。

出土遺物　コンテナ213箱分が出土し、うち7割は弥生時代中期後半～後期初頭の自然流路から出土した弥生土器である。特筆すべき遺物には、この流路より出土した載頭円錐形の鋳形土製品や、弥生時代中期末の溝底面から出土した諸手鍬未製品などがある。

ま と め　弥生時代中期～古墳時代前期の集落遺構が中心で、遺構は密集しており、多量の遺物が出土した。周辺の調査状況からもかなり大規模な集落が存在したものと考えられ、西側の空港用地内にも遺跡が広がっているものと考えられる。また、遺構覆土から成人甕棺片が流れ込んだ状態で出土しており、周辺に甕棺墓の存在も示唆される。

報告書は2004年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（22 上臼井 0083 1：8000）

2．調査区全景（北西から）

3．自然流路（南東から）

0351 箱崎遺跡第 42 次調査（HKZ-42）

所 在 地　東区箱崎 3 丁目 2379 番 1
調査原因　A区庫裡等建築 B区道路建設
調査期間　2003. 10. 21 ～ 2004. 1. 27
調査面積　A区 263.21㎡　B区 45.61㎡
担 当 者　赤坂 亨
処　　置　記録保存

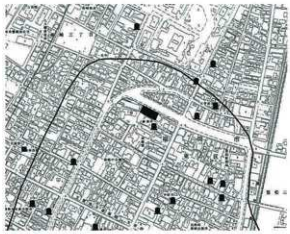
位置と環境　第 42 次調査地点は箱崎遺跡の北部に位置し、勝楽寺の境内にあたる。周辺では北西側で第 11 次調査が、南東側で第 10 次調査が行われ、12 世紀～ 13 世紀にかけての遺構が検出されている。

検出遺構　本調査は工程上、勝楽寺の調査（A区）と箱崎阿恵線の拡幅工事に伴う調査（B区）とをあわせて行なった。土砂を場内で反転するため、まず調査地北東半分をバックホウで約 100 cmの表土を除去することから始めた。遺構面は標高 2.6 m前後の地山である明褐色砂層で設定した。土層観察の結果、明褐色砂層と表土の間に黒色土の入り込む暗褐色砂層があることが判明したため、反転後の北西半分調査は標高 3.0 m前後で第 1 面を設定し、地山を第 2 面とした。北西第 1 面では 6.4m × 2m のコの字状の石敷遺構を検出した。第 2 面の溝上部にかわらけの集中廃棄がみられたがこれも第 1 面にともなうものと考える。第 2 面全体では井戸が 3 基、溝が 2 条、径 2m 前後の土坑が多重に切り合った遺構群、方形竪穴 1 基、土坑、柱穴多数を検出した。

出土遺物　輸入陶磁器、かわらけなどコンテナ 47 箱分が出土した。

ま と め　今回の調査では、第 2 面からは周辺の調査地点と同様に 12 世紀～ 13 世紀にかけての井戸・溝・方形竪穴・土坑・柱穴を発見した。それ以前の遺構はなく、この時期から急激に土地の利用が開始されたようである。上面の第 1 面である黒色土中から石敷遺構を検出した。この第 1 面からは 14 世紀代のかわらけの集中廃棄がみられ、石敷き遺構はこれを上限とする時期の遺構と考えられる。勝楽寺は『筑前国続風土記』によれば応永年中（1368 ～）に没した放牛の開基になると伝えられており、調査地点が勝楽寺境内であることもあり、この石敷き遺構は同寺院の創建時期を考える一材料となるだろう。

調査報告書は 2005 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（34 箱崎 2639 1：8000）

2．調査区北東半分全景（北東から）

3．コの字状石敷遺構（北西から）

0352 徳永古墳群第５次調査（TKK-H-5）

所在地	西区大字徳永字アラタ 384-20	**調査面積**	524.5㎡（古墳２基）
調査原因	個人住宅建築	**担当者**	松浦一之介
調査期間	2003. 10. 20 ～ 2004. 2. 13	**処置**	記録保存

位置と環境　徳永古墳群は、高祖山北麓から今宿平野にかけて分布する総基数 320 基以上よりなる後期群集墳の１支群で、Ａ～Ｈの８支群、都合 40 基の円墳から構成される。この内、Ｈ群（旧称徳永アラタ古墳群）は、28 基の円墳群である。

検出遺構　今回の調査は、Ｈ群の 10、12 号墳の２基で、内部主体は両基ともに横穴式石室、石材はすべて花崗岩である。西側の道路開削時に、石室及び墳丘は大きく削平されている。

10 号墳石室は玄室長 3.2 m、奥壁幅 2.0 m を測り、南西側に開口する。壁体上部から天井部を欠く。墳丘後背部の遺存状況が良好で、２段築成で直径 17 m の円墳である。地山成形以後の盛土工程は、大きく５段階に分かれる。各段階に外護列石を巡らせ、盛土は版築状で、特に墳丘中心側の単位が細かく丁寧である。また第１工程では、外側に盛土で土手と溝を環状に構築し、墳丘の崩壊防止を狙っている。最終段階の外護列石は、第１工程の列石上に更に２～３段石材を積んで外面を露出させている。

12 号墳石室は壁体の一部を留めるのみで、全体の規模や構造が不明である。奥壁幅は約 1.0 m と推測され、石材は小振りで南に開口する。墳丘はごく一部を留めるに過ぎないが、周溝の状況から直径 10 m 前後の円墳と推定される。

出土遺物　出土遺物はコンテナケース２箱分で、須恵器・土師器の他、鉄製武器（刀・鏃）・鉄製馬具（轡）などがある。この他、黒曜石石鏃や弥生土器片などが数点ある。

ま と め　周溝の切り合い関係から 10、12 号墳の順で築造されている。出土遺物から 10 号墳は６世紀後半の築造と考えられる。12 号墳では時期を決定しうる遺物が出土していないが、石室の形態から７世紀代もしくは８世紀代まで下がる可能性が考えられる。

報告書は 2004 年度に刊行予定。

1．調査地点の位置（121 飯氏 0713 1：8000）

2．調査区全景（北東から）

3．10 号墳石室全景（西から）

0353 比恵遺跡群第 87 次調査（HIE-87）

所 在 地　博多区博多駅南 6 丁目 9-4
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2003. 11. 4 ～ 2004. 1. 20
調査面積　1,402㎡
担 当 者　荒牧 宏行
処　　置　記録保存

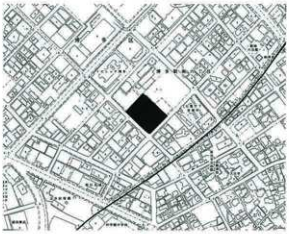
位置と環境　比恵遺跡群の洪積台地中央部に位置する。調査区の東側には 略南北方向に台地を分断する大溝が検出されている。この溝は南東部に抉り込んだ谷部に接続するとみられ、運河の可能性も指摘されている。調査区内は標高 6.5m 前後の鳥栖ローム下部まで平坦に削平されている。

検出遺構　周辺、特に北側の既往調査からみても本調査区を含む台地中央部には弥生から古代にかけての遺構が濃密に存在していたことが推測されるが、既に地山が深く削平され大半の遺構が消滅していた。検出された主な遺構は弥生中期～後期、古墳後期、奈良時代の井戸計 16 基、溝 2 条、柱穴である。奈良時代の井戸から井戸枠と井筒の一部と思われる木質が検出された他は井筒は無く素掘りである。また、飛鳥～奈良時代の可能性がある溝が検出されたが、南調 63 次で検出された道路面、側溝とは方向、位置ともに連続しない。

出土遺物　遺物は総量にしてコンテナ 67 箱分が出土した。井戸掘方内には祭祀に関連した土器類が多く埋められ、弥生時代の井戸からは完形土器が 20 個体以上出土したものがある。特筆される遺物に弥生時代の井戸から出土したガラス坩堝と奈良時代の井戸から出土した墨書土器があげられる。

ま と め　削平が大きく、大半の遺構が消滅しているが、検出された井戸から周辺の調査で検出されたほぼ同時期（弥生中期から後期、古墳後期、奈良時代）の遺構が濃密に分布していたことが判る。

報告書は 2004 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（37 東光寺 0127 1：8000）

2．調査区西半全景（北西から）

3．弥生時代井戸遺物出土状況

0354 比恵遺跡群第 88 次調査(HIE-88)

所 在 地 博多区博多駅南 6 丁目 9-7
調査原因 店舗看板設置
調査期間 2003. 11. 12 ～ 11. 13
調査面積 29㎡
担 当 者 荒牧 宏行
処 置 記録保存

1 調査に至る経過

平成 15 年 9 月 25 日、(株) 旭工務店より埋蔵文化財の有無についての照会が提出された。申請地は平成 15 年 5 月から株式会社岡三リビックによって調査された比恵 82 次調査と同じ敷地内である。現在、食料品店舗のレッドキャベツが建設されている。今回の申請はこの店舗の看板設置に依るもので、基礎の掘削は遺構面まで達する GL 下 120 ㎝深さの設計であった。このため、建築工事と平行し緊急に調査を行うことになり、平成 15 年 11 月 12 日より 2 日間にて面積 29 ㎡の調査を実施した。

1図 調査地点の位置 (37 東光寺 0127 1：8000)

2 位置と環境

調査地点は洪積台地にのった比恵遺跡群のほぼ中央部に位置する。西側の上述した比恵 82 次調査は丘陵頂部とみられるが削平が著しく井戸等の深い遺構のみが遺存する。本来は北側の 50、57 次調査同様に極めて濃密度の遺構が遺存していたものと考えられる。

2図 調査区位置 (1/1,000)

3 基本層序

表層のクラッシャー、客土を除去し、GL より約 40 ㎝下げた鳥栖ローム層が遺構面となる。標高は最高所で 6.34m を測りわずかに東へ下降していく。

4 遺構と遺物

排水土管など撹乱が多い。主な遺構は弥生後期後葉土壙 1 基、古墳後期の井戸 1 基である。

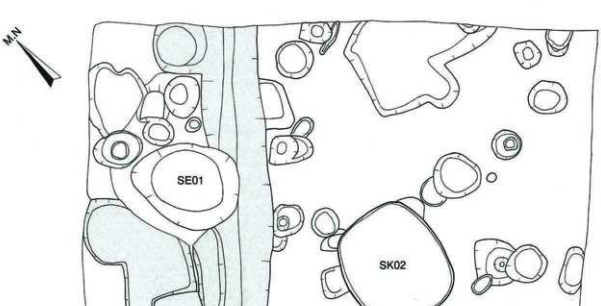
井戸 (SE10)

115 × 90 ㎝の楕円形プランを呈し、深さ 2.0m を測る。八女粘土を約 80 ㎝掘り下げた位置が底面となり、そこに土師器甕 (9、10) が埋置されていた。

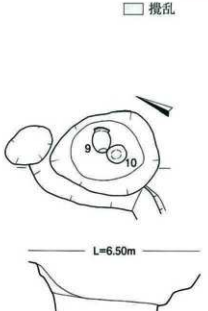
出土遺物 (7 図)

下底から出土した須恵器坏身 1 と土師器甕 9、10 が完形である。1 の受部径は 14.4 ㎝を測る。2 の受部径は 1 とほぼ変わらないが、扁平になった新しい様相が見受けられる。図示

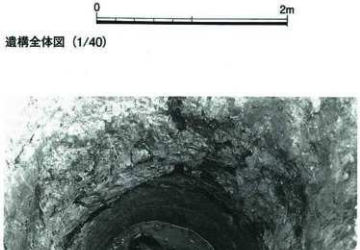
3図 遺構全景 (北から)



4図　遺構全体図（1/40）

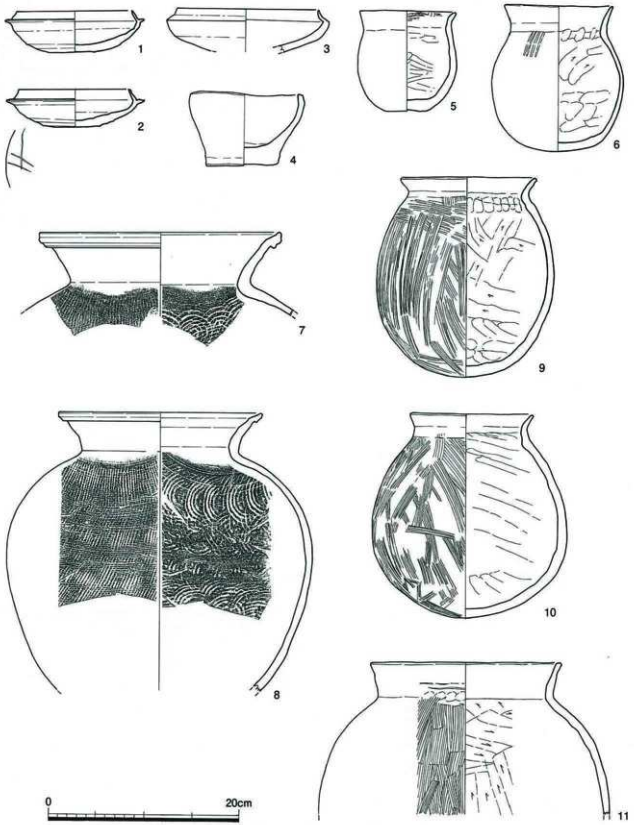


5図　SE10 実測図（1/40）



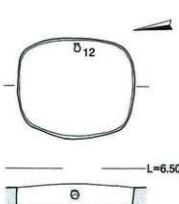
6図　SE10 遺物出土状況

していないが、口唇部に段を有したⅢA期の坏蓋も出土した。3の土師器坏は上部から出土。受部の凹みは無く屈曲のみである。淡い赤褐色を呈す。4は弥生中期土器の混入と思われる。9の土師器甕は外面に2次火熱を強く受けているが、底部の8×12cmの楕円形部分は灰白色を呈し、据え方を示す。外面体部の上位から縦方向、横～斜位、縦、横～斜位のハケメを順次施している。10は体部中位より下に最大径がある。9と異なり火熱を



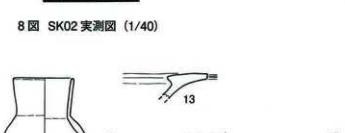
7図　SE10 出土遺物実測図（1/4）

受けず黄灰色を呈す。口縁部から体部中位にかけての位置に 10 × 15 ㎝の楕円形黒斑がみられる。11 は下底から出土した土師器甕破片である。内面に縦方向のケズリを切った横方向のケズリを施す。灰色を呈す。図示していないが下部より、内面が黒色に炭化した平底破片も出土している。



8図 SK02 実測図（1/40）

9図 SK02 断面土層（西から）



10図 SK02 出土土器実測図（1/4）

11図 SK02 出土砥石実測図（1/4）

土壙（SK02）

108 × 122 cmの方形に近いプランを呈す。深さ 25 cmを測り、底面にわずかな傾斜がみられる。埋土はロームと黒色土の混合であるが、下部はロームが大半を占める。底面より約 15 cm浮いた位置より小型壺の 12 が出土した。

出土遺物（10・11 図）

12 は口縁部を半分欠くが他の部位は完存する。底部は径 3.5 cmの小さな丸みのある平底である。13、14 は弥生中期壺の破片である。15 は砂岩製の砥石。その他、図示していないが 4.5 cm大の緑錆が付着した鉄錆が出土した。

まとめ

西側の高所に位置した比恵 82 次、87 次調査に比較し、削平の度合いが少なかった為に遺構は多く遺存していた。SE10 が古墳後期（6 世紀後半代）に、SK02 が弥生後期中葉～後葉に比定されると考えられる。近接した北西部の 14 次調査でも削平が著しいものの弥生後期の井戸が集中していた。また、SE10 と同時期の井戸も 1 基検出されていることから、弥生後期、古墳後期の集落が広く展開していたものと考えられる。さらに、出土遺物からは弥生中期後半以降の遺構も多く存在していたものと思われるが、現代において消滅したものとみられる。

0355 比恵遺跡群第 89 次調査（HIE-89）

所 在 地　博多区博多駅南 4 丁目 9-21
調査原因　自宅兼診療所建築
調査期間　2003. 11. 19 ～ 12. 10
調査面積　250㎡
担 当 者　長家　伸
処　　置　記録保存

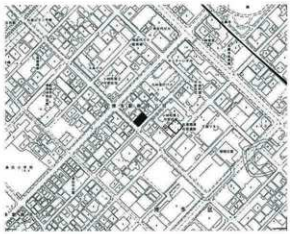
位置と環境　比恵遺跡群は福岡平野の中央部を北流する那珂川と御笠側に挟まれた洪積丘陵上に立地する。本調査地点周辺ではこれまでに 6・17 次調査等弥生時代～古墳時代の生活遺構及び甕棺墓・古墳等の埋葬遺構が確認されている地点である。

検出遺構　対象地は調査以前の区画整理・診療所建築による撹乱が著しく、遺構の残存状態は不良である。検出遺構は溝状遺構 2 条・ピットである。溝状遺構は周囲の削平が著しく全体の形状は不明で、一部分を確認するのみであるが、東側で検出したＳＤ 001 は小破片の遺物が多く出土し、弥生時代後期後半～終末に位置付けられる。

出土遺物　大半がＳＤ 001 出土土器で、全体でコンテナ 7 箱分出土している。

ま と め　遺構の残存状態が不良で本来の状況については不明であるが、周辺の調査事例から続く遺構の広がりを確認することができた。

調査報告書は 2004 年度以降に刊行予定。



1．調査地点の位置（37 東光寺 0127 1：8000）

2．調査区東半全景（西から）

3．調査区西半全景（東から）

0356 箱崎遺跡第 43 次調査（HKZ-43）

所在地	東区箱崎 1 丁目 2697-1	調査面積	83.1㎡
調査原因	自宅兼共同住宅建築	担当者	大塚 紀宜
調査期間	2003. 11. 21 ～ 12. 15	処置	記録保存

位置と環境　箱崎遺跡のほぼ中央にあたり、筥崎宮の北側 150 m付近に位置する。箱崎遺跡が立地する砂丘の尾根線上に当たるとみられる。現況では宅地化が進み、旧地形を推測するのは困難だが、北から南にごく緩く傾斜する様相が伺える。現地の標高は 3.2 m前後である。

検出遺構　表土・撹乱層の下、標高 1.8 ～ 2.0 mの深さで褐色砂層に達し、この層の上面で遺構を検出した。この面では土坑・柱穴などを主とする遺構が高い密度で検出されている。土坑は、長さ 2 m以上の大型で不整形のものと、1 m程度の楕円形又は隅丸長方形のものに大きく分類可能で、大型の土坑には埋没時に拳大の石を多量に投棄しているものがみられる。小型の土坑は形態が整っていて、検出面からの深さも 1 m以下の浅いものが多く、土壙墓の可能性が高い。柱穴は検出数が少なく、構成する建物を確定することは困難でる。

出土遺物　総量でパンケース 2 箱相当である。遺構からの出土遺物は多くが小片で時期の判明できるものは少ないが、11 ～ 12 世紀代の白磁破片が出土しているなど、平安時代末～鎌倉時代初期の遺構であると考えられる。

ま と め　調査区が狭小であるため、遺跡の具体像をつかむことが困難である。砂丘中央部で遺跡の中心部分に当たるため、遺跡密度が高い一方で、遺物の出土量は少ない。なお、出土遺物の中に鉄滓が比較的多く出土する。

調査報告書は 2006 年度に刊行予定である。

1．調査地点の位置（34 箱崎 2639 1：8000）

2．調査区西半全景（西から）

3．調査区東半全景（西から）

0357 博多遺跡群第 146 次調査（HKT-146）

所 在 地　博多区店屋町 125、126
調査原因　個人住宅建築
調査期間　2003. 11. 26 ～ 2004. 1. 13
調査面積　79㎡（× 2 面）
担 当 者　山崎 龍雄
処　　置　上部 2 面記録保存、下層現状保存

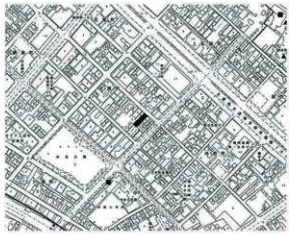
位置と環境　博多遺跡群は博多湾を臨む海浜部の砂丘上に立地する遺跡である。博多遺跡群の始まりは弥生時代からであるが、中世は国内有数の対外交易の拠点港として栄えて来た。本調査区はその博多遺跡群南側の博多浜砂丘部の北端部に位置し、現標高は 5 ～ 6m を測る。

検出遺構　本調査は土留矢板設置後、地表下 1.5 ～ 1.7m の面までバックホウで掘削し、その廃土を場外搬出し調査を行った。第 1 面は中世後期（15 世紀以降）で、道路の側溝と思われる並行する溝・土坑・鍛冶遺構・ピットなどを検出した。第 2 面は 1 面より－ 0.5m 前後で、中世前期（12 ～ 13 世紀）の面である。井戸や焼土坑・土坑・ピット・建物の一部と思われる礎石列などを検出した。事前調査では 4 時期の遺構面が予想されたが、土留が不十分で安全上問題があり、また工事による掘削が第 2 面以下に及ばないことから、一部に基盤面までのトレンチを設定し、遺構の存在と深さを確認して調査を終了した。

出土遺物　古代～近世にかけての遺物がコンテナで 70 箱出土した。古代では土師器・須恵器、中世では貿易陶磁器・国産陶器・土師器・土師質土器・瓦器・中国銭・鉄滓・羽口・動物骨・瓦・石製品など、近世では瓦・国産陶磁器・国産銭などがある。

ま と め　今回の調査は基盤の砂丘面まで完全な調査は出来なかったが、試掘トレンチで砂丘面まで遺構が存在することを確認した。撹乱が余りなく遺構の残りは良好であった。遺構の時代幅については周辺の調査例とほぼ同じであろう。周辺調査では鍛冶・鋳造遺構が確認されているが、本調査区でも多量の鉄滓や羽口片が出土しているので、鍛冶工房などが近くにあったものと考えられる。

調査報告書は 2005 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（49 天神 0121 1：8000）

2．第 1 面全景（東から）

3．第 2 面全景（東から）

0358 広瀬遺跡第２次調査（HRS-2）

所在地	早良区内野８丁目地内	**調査面積**	43㎡
調査原因	防火水槽移設	**担当者**	米倉 秀紀・田上 勇一郎
調査期間	2003.11.13 ～ 11.21	**処置**	記録保存

１．調査に至る経緯

平成15年７月22日付けで土木局道路建設部西部建設第１課より早良区内野８丁目地内の市道荒平古賀線道路改良工事について、埋蔵文化財事前審査の依頼が提出された。工事計画地は広瀬遺跡の範囲にかかっており、道路拡幅に先立ち防火水槽の移転が行われることになったため８月20日に当該地の確認調査を行った。現地表下1.5ｍで隣接して行われている１次調査地点と同様な茶褐色粘土層になった。南隣の水田からの湧水が激しく遺構の確認はできなかったが、１次調査地点で検出されている遺構群がのびてくる可能性が高いため、稲刈り後、防火水槽部分について本調査を実施することになった。

２．位置と環境

広瀬遺跡は西側を室見川、東側を椎原川支流の長尾川に画された、背振山からのびる丘陵の裾部にあたり、室見川の氾濫原よりやや微高地となっている。標高は南端が91ｍ、北端が77ｍである。今回の調査は遺跡の北部にあたり、標高は79ｍ。東側の道路を隔てた一帯は農業基盤整備に伴う広瀬遺跡１次調査が行われている。

３．検出遺構と遺物

土坑を２基検出した。出土遺物はない。

ＳＫ01

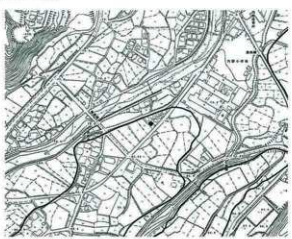
1.5ｍ×0.8ｍの隅丸長方形を呈する焼土坑である。確認面からの深さは30㎝。北側の壁が焼けて赤変している。

ＳＫ02

0.8ｍ×0.7ｍの楕円形を呈する。確認面から45㎝で底になり、底部には径20㎝、深さ10㎝の小ピットがある。

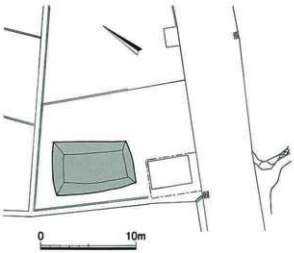
４．まとめ

調査面積が狭くはっきりしたことはいえないが、１次調査に比べ遺構密度は薄く、遺跡の縁辺部にあたると考えられる。

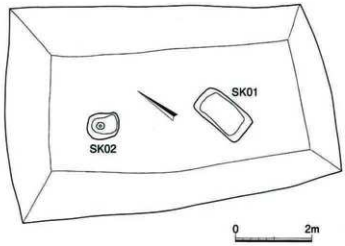


１図　調査地点の位置（早良 17 内野 0800 1：8000）

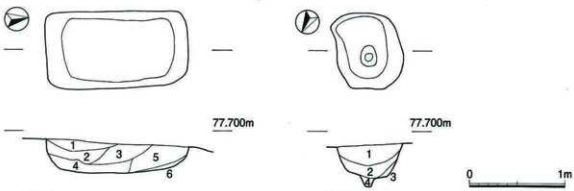
２図　調査区全景（東から）



3図　調査区位置図（1：400）



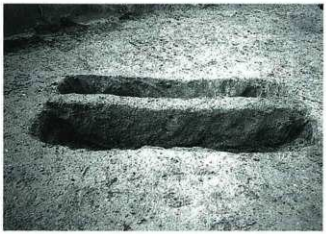
4図　遺構分布図（1：100）



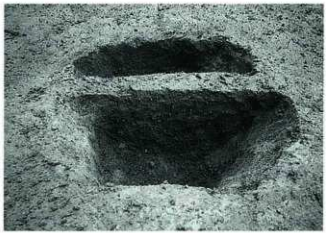
SK01
1　灰褐色土　炭化物少量含む。
2　灰褐色土　1より明るい。炭化物少量含む。
3　灰暗褐色土　5より明るい。炭化物含む。
4　灰暗褐色土　炭化物多く含む。
5　灰暗褐色土　大粒の炭化物含む。
6　炭化物層

SK02
1　黄褐色粘土ブロックと褐色粘土ブロック
2　黄褐色粘土ブロックと褐色粘土ブロックと黒色土ブロック
3　黄褐色粘土ブロックに少量の褐色土交じる
4　黄褐色粘土ブロックと褐色粘土ブロック

5図　ＳＫ01・02実測図（1：40）



6図　ＳＫ01（東から）



7図　ＳＫ02（北から）

0359 有田遺跡群第 207 次調査（ART-207）

所 在 地　早良区有田 1 丁目 16-3
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2003. 12. 22 ～ 12. 24
調査面積　35㎡
担 当 者　来倉 秀紀・井上 繭子
処　　置　記録保存

位置と環境　有田遺跡群は、早良区北部に広がる独立台地である。台地の形状は北からいくつかの谷が切れ込む八つ手状の形状を成しているが、調査地はもっとも東端の谷奥部の台地上に立地している。調査地の北西側は第 81 次調査が行われ、古代の製鉄関係の遺構や遺物などが発見されている。

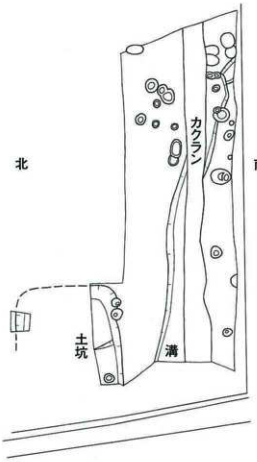
検出遺構　今回は建設される共同住宅のうち、切り下げられる車庫及び通路部分のみの 35 ㎡の調査であるため、検出された遺構は土坑 1 基と溝 1 条である。土坑は一部のみの検出である。溝は幅 70 ㎝前後、深さ 10 ㎝前後である。古代の土器が出土した。他にピット約 20 基がある。

出土遺物　総量で十数点の土器片のみで、いずれも実測不可能な細片である。溝内からは奈良時代の須恵器・土師器が出土した。

ま と め　調査面積が小さく、出土遺物も少なく、かろうじて奈良時代と考えられる溝が把握できただけであるが、その溝もほとんどが撹乱で破壊されていた。土坑は時期不明だが、溝の覆土が黒褐色であるのに対し、褐色の土であることから中世である可能性が高いと思われる。

調査報告書は 2005 年度以降に刊行予定である。

1．調査地点の位置（82 原 0309 1：8000）



2．調査区遺構配置図（1：100）

0360 野芥遺跡群第 12 次調査（NKE-12）

所在地	早良区野芥 1 丁目 853-1 外	調査面積	291㎡
調査原因	自宅兼共同住宅建築	担当者	加藤 良彦
調査期間	2004. 1. 6 ～ 2. 18	処置	記録保存

位置と環境　遺跡は福岡市の西部、早良平野の南東部の南北に細く延びる低位段丘の砂礫台地上に立地する。北に延びる微高地の稜線部にあたり、標高は約 18 mに位置している。

検出遺構　遺構面は 3 面あり、上面が古代～中世、下面が弥生時代後期～古墳時代の遺構で、さらにその下から弥生時代中期の流路を検出した。

上面では奈良時代の土壙 1 基、10 世紀代の土壙 1 基、9 ～ 10 世紀代の土壙 2 基・大型建物 1 棟、12 世紀後半～ 13 世紀初の井戸 1 基・溝 1 条を検出した。大型建物はほぼ磁北に沿う東西に庇を持つ、身舎で 2 間 × 7 間（4.2 × 15 m）以上の南北棟で堀方は 1m 弱の不整円形である。

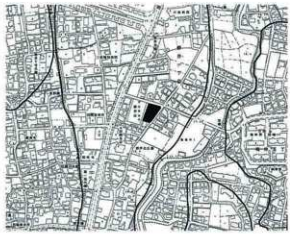
下面では古墳時代前期竪穴住居 1 軒、弥生時代後期前半竪穴住居 1 軒、中期後半～後期初頭竪穴住居 2 軒・土壙 5 基を、さらにその下から北流する弥生時代中期の流路 1 条を検出した。古墳時代の竪穴住居は土器廃棄壙に用いられ、多量の土師器が出土した。

出土遺物　板付Ⅱ a 式～終末の弥生土器、瓦質土器、古墳時代土師器、古代～中世土師器・緑釉・灰釉陶器・輸入陶磁器など、コンテナ 16 箱がある。

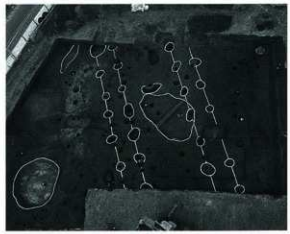
ま と め　下面検出面では遺跡群内では珍しく弥生後期前半と古墳前期の集落を検出した。それぞれから 1 片ずつの半島瓦質土器片を検出しており、早良平野での半島との深い関わりを補強する資料である。

上面では 9 ～ 10 世紀代の大型建物 1 棟を検出した。当該地は『和名抄』に記載される早良七郷の「能解郷」にあたり、のちに「野介荘」が置かれた地域である。南 1 ｋｍ程の第 4 次調査区では古代の官衙的な大型建物群が検出されており、これとの関連が示唆される。関連資料としては緑釉・灰釉陶器が 1 片ずつ出土している。

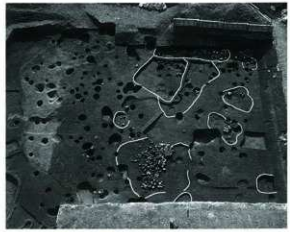
調査報告書は 2005 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（83 野芥 0319 1：8000）



2．上面全景（北から）



3．下面検出住居群（北から）

0361　那珂遺跡群第 94 次調査（NAK-94）

所 在 地	博多区竹下 5 丁目 283-1 外	**調査面積**	250㎡
調査原因	共同住宅建築	**担 当 者**	長家　伸
調査期間	2004. 1. 8 ～ 2. 18	**処　　置**	記録保存

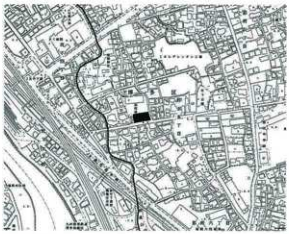
位置と環境　那珂遺跡群は福岡平野の中央部を北流する那珂川と御笠側に挟まれた洪積丘陵上に立地する。本調査地点北隣では第 23 次調査が行われており、弥生時代～中世の竪穴住居跡・井戸・掘立柱建物・溝・土坑・ピット等非常に濃密な遺構群が確認されている。

検出遺構　遺構面は表土直下の鳥栖ローム層上面である。遺構面は南に向かって傾斜しており調査地点の南側は本来丘陵鞍部にあたるものと考えられる。主な検出遺構は弥生時代竪穴 1 基、古墳時代初頭井戸 1 基、古墳時代後期竪穴住居跡 6 基以上・溝 2 条、中世後半溝 1 条である。鞍部に近いため集落のまとまりが途切れる部分にあたるようであり、23 次調査地点に比べると密度は薄くなっている。また中世の溝は鞍部を利用して掘削したものと考えられる。

出土遺物　土師器・須恵器・陶磁器がコンテナ 13 箱分出土している。

ま と め　23 次調査地点に続く遺構群のまとまりの南端部分を押さえることができた。また中世後半代の溝は屋敷地を囲むものと考えられ、23 次調査地点が本体部分にあたるものであろう。

調査報告書は 2004 年度に刊行予定。



1．調査地点の位置（38 塩原 0085 1：8000）

2．調査区西半全景（東から）

3．調査区東半全景（西から）

0362 吉塚祝町遺跡第２次調査（YZI-2）

所 在 地　博多区吉塚１丁目、２丁目地内　　調査面積　2,160㎡（15年度300㎡）
調査原因　共同住宅建築　　担 当 者　星野恵美
調査期間　2004.2.3～9.27　　処　　置　記録保存

位置と環境　吉塚祝町遺跡は博多湾岸に形成された砂丘上に立地する遺跡である。この砂丘は南北方向に伸び、吉塚祝町遺跡はその中央に位置し、東側には宇美川が流れる。第２次調査地点は遺跡の南端で、調査は道路を挟みＡ区、Ｂ区の２ヵ所、ともに２面の調査を行った。両区とも南側の谷に向かって地形は緩やかに落ちていく。

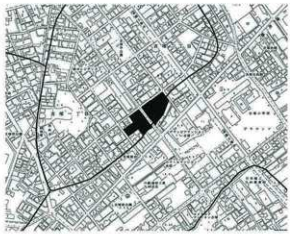
検出遺構　Ａ区の第１面では中世を中心とした井戸８基、廃棄土坑22基、溝、多数の土坑、柱穴を検出した。第２面では弥生時代前期の墓と考えられる土坑３基、他に平安時代や古墳時代の井戸や土坑、柱穴を確認した。

Ｂ区の第１面は鎌倉時代を中心とした中世の遺構で、井戸５基、廃棄土坑15基、溝３条、多数の土坑・柱穴を検出した。第２面ではＡ地区と同様、平安時代や古墳時代の遺構を検出し、平安時代には２間×５間の棟持柱をもつ建物を確認した。東西方向に約12.6ｍ、南北方向に約4.2ｍの規模をもち、柱の掘方は直径１～1.4m、柱も25㎝を測る。

出土遺物　遺物はコンテナ約400箱が出土する。大量の土師器、須恵器、土師質土器とともに黒色土器・緑釉陶器の他、中国・高麗の陶磁器が出土する。他に瓦、滑石製鍋、銅銭、鉄釘、土錘・耳環が出土し、特筆すべきとしてはＡ区から弥生時代前期の壺、Ｂ区からは青銅製の碗の破片、鉇尾が出土する。

ま と め　Ａ区北側で弥生時代前期の遺構を検出した。調査区の北側に拡がっていくと考えられる。古代になると南側の谷部で整地が行われ、そこに２間×５間の棟持柱をもつ建物を検出した。また、青銅製の碗の破片、鉇尾の出土、越州窯系青磁、緑釉陶器の出土量の多さは何らかの公的施設の存在を考えさせる。

調査報告書は2005年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（35 吉塚 2779 1：8000）

2．Ａ区第２面全景（南から）

3．Ｂ区第２面全景（南西から）

0363 吉武遺跡群第 17 次調査（YST-17）

所 在 地　西区大字吉武 183 番外
調査原因　確認調査
調査期間　2004. 1. 19 ～ 3. 26
調査面積　753㎡
担 当 者　本田 浩二郎
処　　置　埋め戻し保存

位置と環境　吉武遺跡群は、早良平野を北流して今津湾に注ぐ室見川の中流域左岸に位置し、標高 388 m を測る飯盛山の東麓に広がる扇状地上に展開する。遺構は弥生時代から古墳時代を主体とし、古代まで存続する複合遺跡である。遺跡範囲は約 40ha 前後の規模が考えられており、昭和 56 年度から現在まで 16 次の調査が行われている。この内、高木・大石地区は 42,145.17 ㎡が国指定史跡として保存されている。

1．調査地点の位置（93 都地 0405 1：8000）

検出遺構　第 17 次調査は、史跡指定範囲地内の未調査部分について遺構の分布状況を把握するために 5 本のトレンチを設定し、表土除去後に遺構検出を行った。T1 ～ 3 は史跡指定地内北東部に、T4・5 は史跡指定地内南西部に設定した。

T1 ～ 3 では主に古墳時代の竪穴住居・土坑・溝等の遺構を検出したが、弥生時代に属する遺構はわずかしか検出されなかった。T3 では大石地区から延びる甕棺墓の列埋葬の延伸状況を確認するために設定したが、トレンチ内では検出されなかった。T4 では高木・大石地区を画するように位置する谷地形や弥生時代の円形住居・土坑などの遺構を検出した。谷内部には小河川が存在しており、谷の両岸は圃場整備以前の水田造成によって大きく地形改変されるが、水田以下の土層観察により谷地形は弥生時代から存在していたことが明らかとなった。

2．遺構検出状況（北から）

出土遺物　遺物は、遺構検出時に甕棺などを含む弥生土器・土師器・須恵器・黒曜石剥片などがコンテナケース 6 箱分出土した。

3．遺構検出状況（北から）

ま と め　今回の調査は、未調査部分の確認調査が主な目的であり、遺構の掘り下げは行っていないため遺構の時期は判然としないが、史跡指定地内北東部については古墳時代の遺構によって弥生時代の遺構の大部分が失われているものと考えられる。

0364 比恵遺跡群第 90 次調査（HIE-90）

所 在 地　博多区博多駅南 4 丁目 222
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2004. 1. 21 ～ 3. 5
調査面積　332.1㎡
担 当 者　大塚 紀宣
処　　置　記録保存

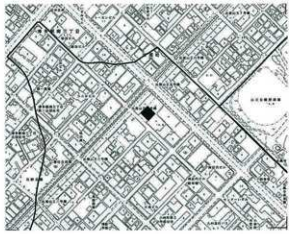
位置と環境　比恵遺跡群の北側部分に位置する。旧況は水田・畑地で、現在は 60 ㎝ほど盛土造成を行っている。現況の標高で約 5.6 m、旧水田面の標高は 5 m前後である。周囲は造成が進み、旧地形を推定するのは困難であるが、丘陵末端の緩斜面だったとみられる。

検出遺構　旧耕作土下で明褐色ローム層に達し、その上面で遺構を検出する。遺構面の状況からみて、かなりの削平を受けていると考えられる。検出した遺構は円形住居 5、貯蔵穴 2、溝 2、土坑 1、柱穴多数である。円形住居は検出面で 2 軒確認したが、床面で検出した柱穴数がそれぞれ 3 ～ 4 軒分あり、数度の建て替えを行っている。建物直径は 7 m、柱穴径は 30 ～ 40 ㎝で比較的太い。また調査区南東側、北西側に柱穴が集中する部分があり、円形住居が想定される。貯蔵穴は平面形が隅丸長方形に近い楕円形で、長径 3 ～ 4 mである。覆土の堆積状況からみて本来は断面形が袋状であったと考えられるが、削平のため検出時には円筒状になる。溝は幅 50 ㎝程度の細いものが 2 本、1 m以上のものが 1 本、以上は弥生時代に属し、近世以降の幅広で浅い遺構が 1 本ある。土坑は幅 80 ㎝、長さ 3 mで、祭祀土坑と考えられる。

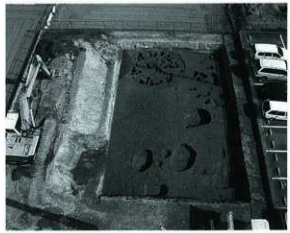
出土遺物　総量でパンケース 20 箱相当である。出土遺物は貯蔵穴から板付Ⅱａ式～Ⅱｂ式の土器が、祭祀土坑から須玖Ⅱｂ式の土器が出土し、住居・柱穴から弥生土器の小片が出土している。

ま と め　住居と貯蔵穴は同時期に存在した可能性が高い。また祭祀土坑と弥生の溝は主軸方向が同じで、時期的に近いものと考えられる。祭祀土坑が存在することから、周辺に墓地の存在が推定される。

報告書は 2004 年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（37 東光寺 0127 1：8000）



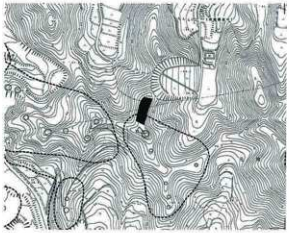
2．調査区南半全景（西から）

3．調査区北半全景（西から）

0365 元岡・桑原遺跡群第 37 次調査（MOT-37）

所 在 地	西区大字元岡字石ヶ原	**調査面積**	461㎡（古墳 4 基）
調査原因	大学移転用地造成	**担 当 者**	濱石 哲也
調査期間	2003. 10. 20 ～ 2004. 2. 26	**処　　置**	記録保存

位置と環境　調査地点は遺跡群の東部、水崎山（標高 95 m）から西北方向に延びる一尾根上にあたる。この尾根は南北長約 60 mで、北端が標高 69 mと最も高く、その北側は鞍部となり、南側は緩やかに約 1 mほどさがり元岡石ヶ原古墳の後円部北側裾にとりつく。これまで古墳の所在は知られていなかったが、10 月 20 日から確認調査を行ったところ、南から北にならぶいずれも横穴式石室の天井部を失った 4 基の古墳を検出した。ただちに本調査に切り替え、この古墳群を元岡古墳群O群と命名し、4 基の古墳は南から 1 ～ 4 号墳とした。



1．調査地点の位置（129 桑原 2782 1：8000）

検出遺構
出土遺物　1 号墳は径約 6 mの円墳。主体部は西に開口した横穴式石室で、前面の西側斜面には墓道を設ける。玄室は長さ 1.9 m、幅 0.65 m。玄室内からはガラス玉、滑石白玉が出土した。2 号墳は墳丘が削平され、西に開口する横穴式石室だけが残存する。玄室は長さ 0.7 m、幅 0.4 mのきわめて小型のものである。石室内からの出土遺物はない。3 号墳は径 5 m前後、墳丘東側には 0.5 mほど盛土が残る。主体部は西に開口した両袖の横穴式石室で、羨道部端から西の斜面に約 5 m墓道が延びる。玄室は長さ 1.55 m、幅 0.8 m前後。玄室内から、耳環 3、ガラス玉、土製練玉、馬具（雲珠、轡）、鉄刀子、須恵器坏・蓋が出土した。4 号墳は径 4 m前後の円墳。主体部は西側に開口する片袖の横穴式石室で、前面の西斜面には墓道を設けている。玄室は長さ 1.1 m、幅 0.55 m前後。石室内からの出土遺物はない。

2．調査地点全景（北上空から）

3．3 号墳（西から）

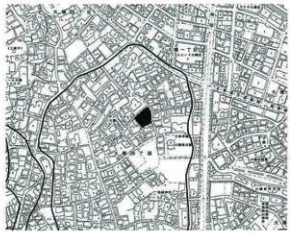
ま と め　いずれも小型の横穴式石室をもつ円墳で、小型ながらもその石室構造は通有の横穴式石室の範をほとんど踏襲している。築造時期は 6 世紀後半以後と考えられる

調査報告書は 2004 年度に刊行予定である。

0366 大橋Ｅ遺跡群第 10 次調査（OOE-10）

所在地	福岡市南区大橋４丁目 11-22	調査面積	233㎡
調査原因	個人住宅建築	担当者	山崎 龍雄
調査期間	2004.2.2 ～ 2.27	処置	記録保存

位置と環境　大橋Ｅ遺跡は福岡市の中南部、那珂川西側から約 500 m程隔てた場所に位置している。遺跡は那珂川の沖積作用によって形成された微高地上に立地する。遺跡は過去９次にわたる調査が行われ、縄文時代後期～中世にかけての遺構・遺物が検出されている。遺跡の西側には古代に瓦を生産した老司瓦窯跡、三宅瓦窯跡、古代寺院の三宅廃寺があり、また近くに大宰府と鴻臚館を南北に結ぶ官道が推定されており、歴史的に重要な場所である。



1．調査地点の位置（39 三宅 2382 1：8000）

検出遺構　本調査は、排土処理の為、調査区を東西二分割して作業を行った。遺構面は標高 10 m前後の黄褐色砂質土である。１区は旧家屋による撹乱がひどく、遺構としては近世後半～近代の溝や土坑・井戸などがあった。２区は１区とは違って、古代～中世後半代の遺構を検出した。遺構の主体は中世後半代で、方形居館跡と思われる溝のコーナー部分を検出した。調査地西側の丘陵部には江戸時代、大倉種周によって絵図が作成された「古野城」があり、また地籍図でも方形居館跡の痕跡が認められる。本地点で検出された方形溝の一部は城に伴なう屋敷地の可能性がある。その他の遺構として溝や土坑、柱穴・ピットなどがある。

２．１区（東側）調査区全景（北から）

出土遺物　古代～近世にかけての遺物がコンテナ 14 箱出土した。遺物としては土師器・須恵器・国産・輸入陶磁器、瓦、近現代ガラス製品など種種雑多なものが出土している。

３．２区（西側）調査区居館の区画溝（北から）

ま と め　今回の調査の大きな成果は、中世後半期（室町～戦国時代）の方形居館の一部を検出したことである。また今まで所在地がつかめていなかった古野城の場所が確定できたことである。古野城の存在は大橋Ｅ遺跡の性格を考える上で重要な手がかりとなろう。

報告書は 2005 年度以降に刊行予定である。

0367 麦野 A 遺跡群第 14 次調査（MGA-14）

所 在 地　博多区麦野 5 丁目 5-39
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2004. 2. 2 ～ 3. 3
調査面積　260㎡
担 当 者　荒牧 宏行
処　　置　記録保存

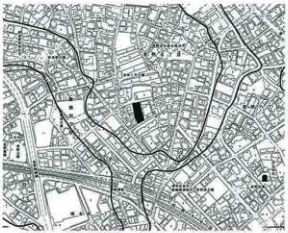
位置と環境　福岡平野のほぼ中央部に位置した洪積台地上に立地する。麦野 A 遺跡群は隣接した遺跡群とともに周辺が開析され、谷が入り組んだ八つ手状の形状を呈する。調査区は台地頂部に位置し、検出面の鳥栖ロームは北側へ緩やかに下がる。標高 16.1 ～ 15.6m を測る。

検出遺構　検出された遺構は奈良時代の竪穴住居跡 11 軒、井戸 1 基、土壙 1 基、柱穴等である。竪穴住居跡は壁高 40cm を測り、比較的残りが良い。カマドは北辺の中央部もしくはコーナーに設置している。カマドの煙道の長さが 1m 以上続くものがある。井戸は下底までの深さ 3.4m を測る。土壙は竪穴住居跡を切り、井戸に隣接する。2.7 × 5.0m の楕円形プランを呈し、深さ 1.4m を測る。

出土遺物　出土遺物は総量でコンテナ 10 箱である。遺物の大半が奈良時代の須恵器、土師器に限られる。

ま と め　他の時期の遺構が検出されないことから、奈良時代に造成された可能性がある。麦野、雑餉隈、新和町など周辺の遺跡群には同様の奈良時代の竪穴住居跡が多く検出され、逆に他の時期の遺構は少ない。大規模な造成と計画された集落形成も想定される。

報告書は 2004 年度刊行予定である。



1．調査地点の位置（12 麦野 0048 1：8000）

2．調査区全景（南から）

3．土壙、井戸完掘状況（南から）

0368 箱崎遺跡第 44 次調査（HKZ-44）

所 在 地　東区箱崎 1 丁目 35-3
調査原因　共同住宅建築
調査期間　2004. 2. 16 ～ 3. 15
調査面積　114.86㎡
担 当 者　中村 啓太郎
処　　置　記録保存

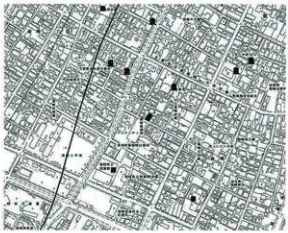
位置と環境　箱崎遺跡は宇美川下流域、多々良川河口左岸の博多湾に面し、南北に延びる砂丘上に位置する。今回調査を行った 44 次調査は遺跡の中央、西側斜面に位置する。

検出遺構　調査は 2 分割し 2 面で行った。第 1 面を標高 2.5 m 前後の整地層上面（暗褐色砂質土）で設定した。検出した遺構は井戸、土坑、溝状遺構、柱穴等である。遺構埋土には炭、焼土を含むものが多い。第 1 面の整地層下層には複数の焼土層が確認された。第 2 面は標高 2.2 m 前後の黄褐色砂（地山）で遺構を検出した。しかし遺構の大半は第 1 面の掘り残しが多く、地山面から掘り込まれたものは少ない。検出した遺構は井戸、土坑、溝状遺構、柱穴等である。柱穴は現時点で建物等にまとめきれていない。

出土遺物　遺物は輸入陶磁器類、土師器、瓦器、石製品等を中心にコンテナ 8 箱分が出土した。概ね 12 世紀から 14 世紀にかけてのものである。

ま と め　今回の調査は調査面積が少なかったため、建物等は確認できなかったが、焼土層やそれに伴う整地層を確認できた。今後、それぞれの焼土面や整地層の年代を確定させるのが課題である。

調査報告書は 2004 年度に刊行予定である。



1．調査地点の位置（34 箱崎 2639 1：8000）

2．西半区第 1 面（南から）

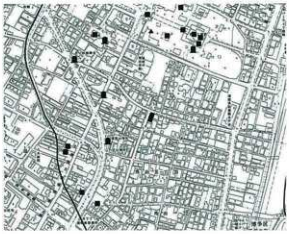
3．西半区第 2 面全景（南から）

0369 箱崎遺跡第 45 次調査（HKZ-45）

所 在 地　東区馬出 5 丁目 24 地内
調査原因　道路建設
調査期間　2004. 3. 1 ～ 3. 22
調査面積　152㎡
担 当 者　吉武　学
処　　置　記録保存

位置と環境　箱崎遺跡は博多湾岸に形成された古砂丘上に立地する。南北に長いこの砂丘の頂部は現在の箱崎八幡宮内にあり、第 45 次調査地点はここから南西へ約 150 m離れ、砂丘西側の緩斜面上に位置するものと考えられる。

調査区は南北に細長く、南北約 17 m、東西約 9 mを測る。地表面の標高は海抜 3.4 ～ 3.8 mで、表土は客土層である。遺構面の標高は 3.0 ～ 3.2 mで、南西→北東に若干落ちるが削平を受けているものと考えられる。



1．調査地点の位置（34 箱崎 2639 1：8000）

検出遺構　検出遺構は、中世前半の掘立柱建物 1、井戸 4、土坑・ピット多数、近世後半の溝 1・土坑少数、及び近現代の攪乱坑である。井戸は白磁のみを出土するものから鎬蓮弁文の青磁碗を出土するものまでがあり、他の中世遺構も 12 ～ 13 世紀を中心とする時期のものと考えられる。近世遺構は溝と瓦井戸などがあるが、くらわんか茶碗などの出土からみて全て 18 世紀代以降のものであろう。

2．調査区全景（東から）

出土遺物　土器がコンテナ 19 箱、木製品（井戸側材）が 1 箱の計 20 箱である。総じて土器は土師器が多く、陶磁器は少量である。特筆すべき遺物として、13 世紀頃の土坑より瓢型分銅 1 点が、井戸より「嘉祐通宝」1 点が出土した。

ま と め　中世前半の掘立柱建物は扁平礫を礎板に用いており、調査区の南半部に位置し調査区外（現道路）に伸びている。主軸は現在の街区と同一の方位を示す。一方井戸は調査区北半に密集している。以上のことから考えて、この場所では、建物が調査区の南半を、井戸が北半を占める景観が 12 ～ 13 世紀を通じて継続されたものと考えられる。

報告書は 2006 年度以降に刊行予定。

3．井戸（北西から）

0370 四箇船石遺跡群第７次調査（SHF-7）

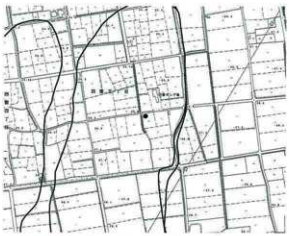
所 在 地　早良区四箇５丁目10
調査原因　確認調査
調査期間　2002.3.10～3.19
調査面積　55.5㎡
担 当 者　藏冨士　寛
処　　置　埋め戻し保存

位置と環境　早良平野の南側にあり、その中央を流れる室見川の中流南岸に位置する。四箇船石は四箇船石遺跡中にあり、従来支石墓である可能性が指摘されてきた。

検出遺構　本調査は四箇船石（支石墓）の事実確認を目的とする。水田中に存在するため、まず重機により耕作土を除去し、更に関連遺構の有無を確認するため、北・西側にトレンチを２本設定した。周辺には弥生時代中期を主とする甕棺、土坑、ピット等が認められたが、これら遺構は上面検出に留め、発掘自体は行っていない。この後、上石下部の埋葬施設の状況を確認するため、上石を移動し下部の遺構検出を行った。その結果、長さ1.95ｍ、幅1.3ｍの墓坑を検出した。

出土遺物　弥生土器などコンテナ１箱ほど。

ま と め　今回の調査で墓坑を検出したことにより、四箇船石が支石墓である可能性が極めて高くなった。今後は周辺における関連遺構の確認が課題となるだろう。



1．調査地点の位置（85 入部 0337 1：8000）

2．四箇船石検出状況（北西から）

3．墓壙検出状況（南西から）

0371 元岡・桑原遺跡群第 38 次調査（MOT-38）

所 在 地　西区大字元岡字大久保
調査原因　大学移転用地造成
調査期間　2004. 3. 8 ～継続中
調査面積　140㎡
担 当 者　濱石 哲也
処　　置　記録保存

位置と環境

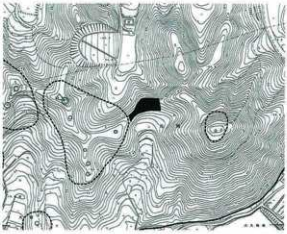
水崎城は標高 95 mの水崎山に築かれた山城である。『筑前国続風土記拾遺』には「水崎人家の南にある丸山也。山上に平地有。緑有て周れり。」とし、15 世紀中頃大友親綱が出した文書に水崎城の名があることをあげ、以後 16 世紀後半までのこの城に関係すると思われる事項を簡単に記している。『怡土志摩郡地理全誌』では「水崎古城。（元岡）村の東、八町、水崎山の頂にあり、四坪許の小池あり、常に水なし、城主不詳。」とある。現在の水崎山山頂には平地があり、その中の一部が窪んでいる。またその南側には石垣らしきものも露出しているが、測量も含め調査には至っていない。

第 38 次調査は、この水崎山山頂から北に約 20 m下がったところからはじまる、主に北と西に延びる尾根を中心とした調査で、堀切などの遺構の有無を確認し、最終的には水崎城の縄張りとその時期を明確にすることである。

検出遺構

2003 年度は西側尾根約 3,300 ㎡を対象に、伐採が終わった 3 月上旬から調査に入った。堆積した落ち葉の除去など対象地の表土上面までの清掃と測量を行い、第 29 次調査地点の東側に続く鞍部と平場にグリットを設けた。3 月末、この二ヵ所のグリットを掘削中で、本格的な調査は 2004 年度となる。

調査報告書は 2006 年度以降に刊行予定である。



1．調査地点の位置（129 桑原 2782 1：8000）

2．調査地点遠景（西から）

3．グリット設定尾根遠景（東から）

Ⅳ　平成 15 年度刊行報告書一覧

集	書　名	副　題　等	調査番号	編　集
758	博多 87	博多遺跡群第 124 次調査の報告	0006	田上勇一郎
780	飯氏二塚古墳 2	飯氏二塚古墳第 2 次調査報告	0246	吉武学
781	梅林遺跡 第 4 次調査	一般国道外環状道路、及び福岡市営地下鉄 3 号線建設に伴う発掘調査報告書 5	9963	井澤洋一
782	比恵 33	比恵遺跡第 81 次調査報告書	0239	瀧本正志
783	鴻臚館跡 14		0218	大庭康時
784	有田・小田部 39		9929・9931・9967・0103・0213・0231	米倉秀紀
785	飯倉Ｂ遺跡群	飯倉Ｂ遺跡第 2 次調査	0259	蔵富士寛
786	飯氏遺跡群 3		9649	大塚紀宜
787	井尻Ｂ遺跡 12	市道御供所井尻線建設に伴う発掘調査報告書Ⅱ－井尻Ｂ遺跡第 17 次調査（Ａ・Ｅ・Ｆ区）の報告－	0027	横山・屋山・阿部
788	井尻Ｂ遺跡 13	井尻Ｂ遺跡群第 21 次調査の報告	0126	久住猛雄
789	梅林遺跡 第 5 次調査	一般国道外環状道路及び福岡市営地下鉄 3 号線建設に伴う発掘調査報告書 6	9938	井澤洋一・藤崎真歩
790	梅林遺跡 7	第 7 次調査	0157	阿部泰之
791	大橋Ｅ遺跡 6	第 8・9 次調査報告	0203	上角智希・阿部泰之
792	金武地区農村綜合整備統合事業関係埋蔵文化財発掘調査報告書 1　金武 1		0144	吉留秀敏
793	中南部 (7)		9912・0215・0223・0258	山崎龍雄
794	椎原Ａ遺跡		0056・0143・0211	池田祐司
795	下月隈Ｃ遺跡Ⅳ	福岡空港周辺整備工事に伴う下月隈Ｃ遺跡第 5 次発掘調査報告	9922	瀧本正志
796	下山門乙女田 3	下山門乙女田遺跡第 3 次調査報告	0227	杉山富雄
797	次郎丸高石 1	次郎丸高石遺跡群第 5 次調査報告	0209	杉山富雄
798	周船寺遺跡 5		0226	阿部泰之
799	外環状道路関係埋蔵文化財調査報告書 22	高畑遺跡－第 19 次調査報告	0261	吉武学
800	那珂 34	那珂遺跡群第 69 次調査報告	9905	長家伸
801	那珂 35	那珂遺跡群第 85 次調査報告	0230	井上繭子
802	那珂 36	那珂遺跡群第 86 次調査報告	0248	長家伸
803	外環状道路関係埋蔵文化財調査報告書 23	七隈古墳－Ｃ2 号墳調査報告	0320	蔵富士寛
804	野芥 4		0206	阿部泰之
805	博多 96	博多遺跡群第 132 次調査報告	0120	杉山富雄

集	書　　名	副　題　等	調査番号	編　集
806	博多 97	博多遺跡群第 138 次調査報告	0220	本田浩二郎
807	博多 98	博多遺跡群第 139 次調査報告	0221	長家伸
808	博多 99	博多遺跡群第 140 次調査報告	0238	井上繭子
809	博多 100	博多遺跡群第 141 次調査報告	0244	上角智希
810	箱崎 16	箱崎遺跡群第 15 次調査の報告	9816	大庭康時
811	箱崎 17 －筥崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅱ	箱崎遺跡第 22 次調査報告 (1)	0022	榎本義嗣
812	箱崎 18	箱崎遺跡第 27 次調査報告	0113	中村啓太郎
813	箱崎 19	箱崎遺跡群第 29 次・31 次調査報告	0202	松浦一之介
814	箱崎 20	箱崎遺跡第 38 次調査	0260	荒牧宏行
815	箱崎 21 －筥崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告Ⅲ	箱崎遺跡第 26 次調査報告	0022	松浦一之介
816	鏡本一丁田遺跡 4		0136	池田祐司
817	羽根戸原遺跡群Ⅳ	羽根戸原 C 遺跡第 5 次調査	0138	蔵富士寛
818	原遺跡 11	原遺跡第 22 次調査報告	0205	池田祐司
819	外環状道路関係文化財発掘調査報告書 21　樋井川 B	樋井川 B 遺跡第 1 次調査報告	0105	常松幹雄
820	比恵 34	比恵遺跡群第 74 次調査報告	0101	佐藤一郎
821	比恵 35	比恵遺跡群第 79 次調査報告	0233	長家伸
822	比恵 36	比恵遺跡群第 80 次調査報告書	0235	本田浩二郎
823	東油山古墳群	東油山古墳群 E 群第 1 次調査	0212	荒牧宏行
824	藤崎遺跡 15	藤崎遺跡 32 次調査報告	0237	池田祐司
825	南八幡遺跡 6	第 11 次調査報告	0228	上角智希
826	三宅廃寺 2	三宅 A 遺跡・三宅廃寺推定地の第 2 次調査報告	0150	吉武学
827	三宅廃寺 3		0249・0250・0251	田中寿夫
828	席田大谷遺跡群 5	空港線関係埋蔵文化財発掘調査報告 3	0216	井上繭子
829	九州大学統合移転用地内埋蔵文化財発掘調査報告書－元岡・桑原遺跡群 3	第 3 次、4 次、8 次、11 次調査の報告	9763・9764・9829・9855	菅波正人
830	弥永原遺跡 5	第 6 次調査報告	0201	長家伸
831	吉武遺跡群Ⅹ Ⅵ	飯盛・吉武圃場整備事業関係調査報告書 10 －古墳時代生活遺構編 1	8335・8416・8535	加藤良彦
	福岡市埋蔵文化財年報 Vol.17	2002 年度	0207・0232	池崎譲二

V　平成15年度福岡市新指定文化財

福岡市教育委員会では、平成16年1月29日の福岡市文化財保護審議会の答申を得て、同年3月11日、「西南学院旧本館・講堂」など以下の4件、6点を新たに福岡市指定文化財として指定しました。これで福岡市指定文化財は144件、2,774点になります。

指定区分	種別	指定名称	員数	所在地	所有者及び保持団体
有形文化財	建造物	西南大学旧本館・講堂	1棟	福岡市早良区西新三丁目194番地1	学校法人　西南学院
	絵画	聖福寺古図	1巻	福岡市博多区御供所町6番1	宗教法人　聖福寺 代表役員　細川白峰
	古文書	安山借屋牒	1冊	福岡市博多区御供所町6番1	宗教法人　聖福寺 代表役員　細川白峰
	考古資料	博多遺跡出土キリシタン遺物（第111次調査）	3点	博多区井相田二丁目1番94号（福岡市埋蔵文化財センター）	福岡市

指定文化財の概要

1. 有形文化財（建造物）「西南学院旧本館・講堂」1棟

構造・規模　レンガ造3階建　間口24m、奥行き15m、高さ15m。

大正10年（1921）建設。設計者ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（1880-1970）は明治38年（1905）、キリスト教伝道を使命として滋賀県立商業学校の英語教師として来日。近江八幡を拠点に教育・伝道・建築・医療・実業にわたる多彩な活動をしました。レンガ建築は大正12年（1923年）の関東大震災を境に造られなくなります。

近代建築史の中で、本建造物はレンガ建築の完成期の位置を占め、他のレンガ造建築と比較して完成度が高く、本市に残る稀少なレンガ造建築として、またヴォーリズの優れた建築作品として、全国的にも貴重な価値を有します。

2. 有形文化財（絵画）「聖福寺古図」1巻

竪約29.2cm、横142.5cm（四紙を継ぐ）。

永禄六年（1563）以前の製作です。永禄六年の兵乱で過半を紛失しましたが、聖福寺第百十世耳峰玄熊が回収して修復したものです。堀・土塀・蓮池に囲まれた聖福寺や承天寺が描かれ、聖福寺の伽藍の配置は現状と同じく三門・仏殿・法堂・方丈となっています。また、堀と蓮池と土塀と複数の門に囲まれた聖福寺境内には寺内町が形成されています。海辺には元寇防塁とも見られる石塁があり、大鋸職人の仕事ぶりまで見ることができます。

聖福寺境内の寺内町、諸堂、立ち並ぶ町家等々、中世の博多の町を同時代に描写した貴重な絵画史料です。

3. 有形文化財（古文書）「安山借屋牒」1冊

竪33.4cm、横19.4cm、32丁。

成立は天文十二年（1543）以後。「聖福寺古図」と同じく永禄六年（1563）の兵乱で紛失したものを、聖福寺第百十世耳峰玄熊が回収したものです。当時の聖福寺寺内町の借屋（借地）料の徴収台帳です。借屋（借地）人290人余の名前と間口間数と地料、大山口夫・小山口夫・夫銭などの課役が記されています。中小路・普賢

堂・窪小路・外窪小路・鰭板・魚之町・魚之町店屋・中屋敷・毘沙門堂前・門前新屋敷などの町名には中世時代の町名も見えます。ほとんどの借屋は間口一間前後で当時の町屋の規模が知られます。織屋・紺屋・あめ屋・酒屋・桶大工等の商工業者が住んでいたこともわかります。

「聖福寺古図」と併せて中世博多の都市史料として貴重な価値を有しています。

4.有形文化財（考古資料）「博多遺跡出土キリシタン遺物」3点

キリシタン遺物は、メダイ（2点）とメダイ・十字架を造るための土製鋳型の3点です。

1998（平成10）年秋に始まった博多小学校建設にともなう事前の発掘調査で出土しました。2点のメダイ（メダル）は、キリスト教の護符です。1点は楕円形で、表裏にキリストと聖母を刻む鉛製のものです。その意匠からヨーロッパ製と考えられます。もう1点は銅製で「ナスビ形」をした特異なもので、大分大友府内町で製作され、博多に請来された製品です。また、土製鋳型は、製品を直接押付けて造った「踏み返し」と呼ばれる鋳型で、国内でのメダイ・十字架の生産を裏付ける例としては全国で唯一の資料です。

これらのキリシタン遺物は、博多を治めたキリシタン大名大友氏～黒田氏初期（16世紀後半～17世紀初め）の時代のもので、博多におけるキリスト教信仰を具体的に伝える資料として非常に貴重なものです。

なお、この新指定によって、平成16年3月11日現在の福岡市内の指定文化財は、国指定文化財が103件（796点）、県指定文化財が101件（5,087点）、市指定文化財が144件（2,774件）のあわせて348件（8,657点）となりました。

西南学院旧本館・講堂 正面外観

西南学院旧本館・講堂２・３階講堂内部

博多遺跡出土キリシタン遺物（第 111 次調査）左上：メダイ No.1、右上：メダイ No.2、下：メダイ十字架鋳型

付　福岡市内の指定史跡一覧

指定区分	名　称	員数	指定年月日	所　在　地	所有者管理者
国	**元寇防塁**		昭6．3．30 追加(昭56．3.16)	東区箱松四丁目 中央区地行二丁目 早良区西新七丁目、百道一丁目 西区今津、横浜二丁目 西区今宿駅前一丁目 西区生の松原一丁目、小戸	福　岡　市
国	**聖福寺境内**		昭44．11．7	博多区御供所町6－1	宗教法人 聖 福 寺
国	**金隈遺跡**		昭47．5．17	博多区金の隈一丁目	福　岡　市
国	**板付遺跡**		追加4点(平14.4.5) 追加1点(平16.3.5)	博多区板付二丁目、板付三丁目 博多区板付五丁目	福　岡　市
国	**比恵遺跡**		昭51．6．21 追加(平12．3.16) (平14.12.19)	博多区博多駅南五丁目 71－14、72、87－2、88－2	福　岡　市
国	**福岡城跡**		追加1点(昭56.3.30)	中央区城内	財務省(福岡市)
国	**鴻臚館跡**		平13．8．13	中央区城内	財務省(福岡市)
国	**老司古墳**		昭32．8．29 追加(昭57.10.14)	南区老司四丁目571－2、 572－33、630－5、631－8	文部科学省 (福岡市)
国	**野方遺跡**		平16．9．30	西区野方五丁目	福　岡　市
国	**吉武高木遺跡**		平12．12．20	西区大字吉武字高木180外	福　岡　市
国	**今山遺跡**		昭50．6．27	西区横浜二丁目1435－2外	福岡市　外31名
国	**今宿古墳群** 丸隈山古墳（当初 昭3．2．7） 大塚古墳　（当初 昭42.12.15） 鋤崎古墳　（当初 平13．8.13） 飯氏二塚古墳、兜塚古墳 山ノ鼻1号墳、若八幡宮古墳	7基	平5．10．4 追加(平12．9．6) (平12．9.21) 平5．11．12 追加(平14.12.19) 平16．4．5 (統合・名称変更)	西区大字周船寺、今宿町大塚、 西区今宿青木字鋤崎、 西区大字飯氏字鏡原、 西区大字飯氏字松尾、 西区大字徳永字山ノハナ、 西区大字徳永字下引地	福岡市　外44名
県	**枯野塚** 附　補川墓、句碑、寄附碑		昭31．7．28	東区馬出五丁目9	福　岡　市
県	**比恵環溝住居遺跡**		昭35．1．12	博多区博多駅南四丁目	福　岡　市
県	**亀井（南冥・昭陽）家の墓**		昭38．5．4	中央区地行二丁目3－3	宗教法人 浄 満 寺
県	**宮崎安貞墓** 附　宮崎安貞書斎　1棟		昭40．4．6	西区大字女原字小松原215	宮崎安貞翁顕彰会 福　岡　市
県	**元岡瓜尾貝塚**		昭43．2．3		福　岡　市
市	**東光院境内**		昭49．8．12	博多区吉塚三丁目20－37	福　岡　市
市	**今里不動古墳**		昭62．3．30	博多区金の隈三丁目2－2	瀬里源次郎 瀬里源三郎 白壁真一 岡部六之助
市	**那珂八幡古墳**		平4．3．23	博多区那珂一丁目 822－1、823－1、 823－2	廣田康輝 亀井薫 内田隆喜 山浦一磨 宗教法人那珂八幡宮 福　岡　市

指定区分	名　　称	員数	指定年月日	所　在　地	所有者 管理者
市	那珂遺跡		平5．3．25	博多区那珂六丁目316、317	福岡大同青果㈱
市	福岡藩主黒田家墓所		平7．3．30	博多区御供所町2－4	宗教法人 東長寺
市	福岡藩主黒田家墓所		平8．3．25	博多区千代四丁目390	黒田長久
市	平尾山荘		昭49．8．12	中央区平尾五丁目2－28	福岡市
市	梅林古墳		平3．3．30	城南区梅林五丁目234－7	福岡市
市	夫婦塚2号墳		平1．3．30	西区大字金武1666、1667	牛尾光昭
市	能古焼古窯跡		平2．3．29	西区能古字寺脇506－1、 506－2	宗教法人 永福寺 ㈱亀陽文庫 能古博物館
市	草場古墳群 古墳4基	4基	平4．3．23	西区生の松原三丁目 1709－3、1709－8	福岡市
市	吉武照山古墳 他3基	4基	平15．3．10	西区大字吉武656　他13筆	倉光善重 他9名

福岡市埋蔵文化財年報
VOL．18
－平成15（2003）年度版－

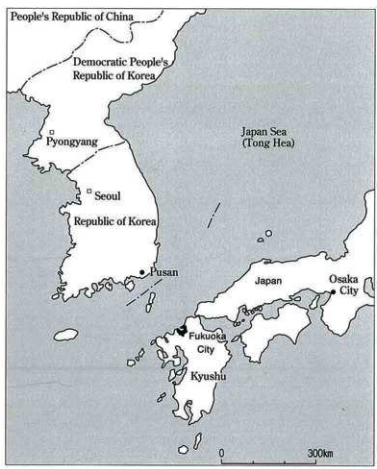
発行日　平成17年3月31日
編集・発行　福岡市教育委員会文化財部
埋蔵文化財課
福岡市中央区天神1丁目8－1
印　　刷　福岡印刷株式会社
福岡市博多区東那珂1丁目10－15

THE ANNUAL REPORT

OF

THE BURIED CULTURAL RELICS OF FUKUOKA CITY

VOLUME 18



THE BOARDS OF EDUCATION OF FUKUOKA CITY

MARCH 2005

JAPAN